Ⅲ 学校評価自己評価

1．学園小中一貫教育報告一覧

学園名	「目指す子ども像」、教育目標
1 峰山学園	【教育目標】　「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 【目指す子ども像】 「意欲を持って自ら学ぶ子ども（知）」 「思いやりのある子ども（徳）」 「進んで心と体を鍛える子ども（体）」
2 大宮学園	（1）教育目標　自他を尊重し、自ら学ぶ　子どもの育成 （2）目指す子ども像 ○ 意欲的に学び、チャレンジする子ども（知） ○ 自他を大切にし、思いやりのある子ども（徳） ○ 心身を鍛え、活動的な子ども（体）
3 網野学園	【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子　【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子　【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子【体】粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども 【教育目標】　将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす幼児・児童・生徒の育成を図る教育の推進
4 丹後学園	「目指す子ども像」 ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子　【知】 ②自分を大切にし、人を思いやれる子　【徳】 ③ねばり強く身体をきたえる子　【体】 「教育目標」　夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成
5 弥栄学園	「教育目標」　ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成
6 久美浜学園	[教育目標]　「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成」 [目指す子ども像] （知）意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども （徳）自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども （体）心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

2．京丹後市立こども園、学校評価自己評価報告一覧

学校名	学校・園教育目標
1 峰山こども園	“笑顔でつなごう。みんなの　てとて!!” ―　はなそう・つたえよう・みんなのおもい　― （1）生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 （2）主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 （3）身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。
2 大宮こども園	人との関わりや体験を通して、心豊かでたくましく、生き生きとあそぶ子どもの育成 ○健康で安全に活動する子どもの育成 ○身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子どもの育成 ○人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを素直に表現できる子どもの育成 ○素直で思いやりのある、積極的に関わり合う子どもの育成
3 網野こども園	○園児自らが主体的に環境に関わり、心豊かでたくましく生きる力を育てる。 ・明るく元気で主体的に活動する子どもの育成 ・みんななかよく思いやりのある子どもの育成 ・伸び伸び生き生きやりぬく子どもの育成 <テーマ> 『どきどき　わくわく　きらっ！　ひとりひとりがかがやいて』
4 丹後こども園	○心豊かに思いやりのある、優しさあふれる園児を育成する。 ○心も体もたくましく、意欲的に挑戦しながら生き生きと遊ぶ園児を育成する。 ○自分で考えて行動する園児を育成する。 ○言葉を介してのコミュニケーション力を育成する。
5 弥栄こども園	「みんな　だいすき　つながるえがお」 ～やってみたい！明日もやりたい！夢中になって遊ぶこどもをめざして～ ・さまざまなことに心を動かし、心豊かな子どもを育てる。 ・生活に必要な習慣・態度を身につけ、健康な心と体を育てる。 ・身近な人や地域とのかかわりをもつ力を育てる。
6 かぶと山こども園	こども園教育・保育目標「元気な体と豊かな心、生きる力をもったたくましい子ども」 ≪元気　勇気　笑顔　つながれ仲間≫　～いっぱい遊ぼう　育ち合おう～ 1　園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく生きる力を育てる。 2　人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3　相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。

学校名	学校・園教育目標
7 峰山小学校	社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら創造的に生きることができる力を育てる。 1　将来に生きて働く質の高い学力を育てる。 2　よりよい生き方・在り方を深く考え、自律的に行動する力を育てる。 3　学んだことを生かして、よりよい社会の形成に貢献しようとする態度を育てる。
8 いさなご小学校	教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 目指す子ども像 1　意欲を持って自ら学ぶ子ども 2　思いやりのある子ども 3　進んで心と体を鍛える子ども
9 しんざん小学校	1　一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2　「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3　保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】
10 長岡小学校	「峰山学園」経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して学校教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に迫る。 〈目指す子ども像〉 ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども
11 大宮第一小学校	◇　一人一人が輝き、生き生き活動する学校【児童】 ◇　やりがいを持って自分の力を発揮する学校【教職員】 ◇　安心して子どもを任せられる学校【保護者】 ◇　他地域に誇れる地域とともにある学校【地域の方】
12 大宮南小学校	大宮学園　教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ　子どもの育成」 ・学級づくりを基盤にして、「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を行い、確かな学力をつける。 ・「自他を大切にする心」を育成するための教育活動を充実させる。 ・全ての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を目指す。
13 網野北小学校	1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2　すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3　思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
14 網野南小学校	網野学園保幼小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」 目指す子ども像 ・あかるく元気に進んで学ぶ子 ・みんななかよく支え合う子 ・のびのび生き生きやりぬく子
15 島津小学校	1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2　すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3　思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
16 橘小学校	【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子　【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子　【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども 【学園経営の基本方針】 自然・人・社会とのつながり、郷土を愛する心を育てる。（特に重視）
17 丹後小学校	教育目標（丹後学園共通） 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ＜目指す学校像＞ 1　よく考え学ぶ学校 2　友だちと仲良くする学校 3　最後まで粘り強く努力する学校 4　家庭・地域のつながりを生かした学校
18 宇川小学校	「夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ・将来を展望し、未来を拓くために充実した学校生活を送る学校【児童】 ・目指す子ども像を基に、全教職員が連携を図り、責任を持つ学校【教職員】 ・保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】

学校名	学校・園教育目標
19 吉野小学校	1　生徒指導の３機能を生かした授業づくりと学級経営を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 2　確かな学びの力と豊かな人間性をはぐくみ、一人一人が大切にされる心の育成を図る。 3　家庭地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4　学園の保幼小中一貫教育を、様々な取組みを充実させながら推進する。
20 弥栄小学校	「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子
21 久美浜小学校	学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を意識した教育活動を推進する。 1　質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。 2　質の高い学力を培う基盤として、児童同士及び教職員と児童との好ましい人間関係の構築を一層進める。 3　中学校卒業時の生徒像を常に意識し、学園教職員として互いに理解し合い、学園経営と学校経営の連携を図りながら進める。
22 高龍小学校	意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 ―　子どもの実態や系統性を踏まえた指導　― 1　基礎・基本の徹底 2　主体的に学ぶ力の伸長（授業づくり） 3　家庭学習時間の確保
23 かぶと山小学校	（1）居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成 （2）学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力を充実させる学習活動の推進 （3）家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進
24 峰山中学校	【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】（社会的自立につなぐ教育） ・保幼小中一貫教育の手法を用いた授業改善と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止
25 大宮中学校	1　夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 2　学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 3　健康な体と豊かな心の教育の充実 4　信頼され、開かれた学校づくり 5　教職員の資質能力の向上 6　大宮学園保幼小中一貫教育の推進
26 網野中学校	将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす生徒の育成を図る教育の推進 1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2　未来を展望し、自ら未来を切り拓く力を付ける。 3　思いやりをもち仲間とともに生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
27 丹後中学校	開校７年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。
28 弥栄中学校	1　全教職員で、生徒・保護者との信頼関係を築く。 2　主体的に学び、たくましく心身を鍛え、人権尊重を基に人間性豊かな生徒を育む教育課程の編成と実施に努める。 3　基礎的・基本的内容の指導の徹底と定着を図る授業づくりを進める。 4　知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育んでいく。 5　未来を拓くために主体的に進路選択ができる能力を育てる。
29 久美浜中学校	＜久美浜学園＞　指導の重点：学力向上 (1) 基礎・基本の徹底 (2) 主体的に学ぶ力の伸長（授業づくり） (3) 家庭学習時間の確保 ◆規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ◆久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。 1　「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上 2　好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 3　不登校の未然防止と不登校（傾向）生徒の改善 4　「久美浜学園学校運営協議会」を核とした地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立 5　新型コロナウイルスと共存した新しい生活様式の確立と「新しい教育の創造」

（別紙様式２）

令和２年度　峰山学園保幼小中一貫教育報告書

１　「目指す子ども像」、教育目標

【教育目標】
「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」
【目指す子ども像】
「意欲を持って自ら学ぶ子ども（知）」
「思いやりのある子ども（徳）」
「進んで心と体を鍛える子ども（体）」

２　保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組みの柱とする内容

指導の重点「確かな学力の育成（授業研究）」「コミュニケーション能力の育成（生徒指導・特別活動」「評価を見通した取組みの充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。

(1)　確かな学力の育成

言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。（授業研究）

※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。

ア　生徒指導の３機能を生かした授業を進める。

授業の中で目指す児童生徒の姿（３目標）	そのための指導方法　（３視点）
①自己決定をしている ②自己存在感を感じている ③共感的な人間関係をはぐくんでいる	①主体的に活動する場面が設定された授業 ②本時の目標が明確で「わかる」授業 ③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業

イ　目標と指導と評価の一体化を進める。

（ア）目標から単元総括テスト作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計

（イ）単元総括テストの蓄積と検証

(2)　コミュニケーション能力の育成

確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の３機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。（生徒指導・特別活動）

ア　生徒指導の３機能を生かした教育活動（積極的な生徒指導）

イ　自己肯定感を高める取組み（特別活動）

（ア）学校や地域社会の一員として主体的に参加する取組み

（イ）集団の中で豊かに人とかかわることができる取組み

(3)　評価を見通した取組みの充実

ア　学園評価・学校評価の結果に基づく学園経営の充実

イ　教育評価・指導評価の結果に基づく教育実践の改善

３　保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 （実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等）
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	（１）学園内の全ての学校が、年度当初から目指す子ども像・教育目標を共通化 （２）学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け （３）学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け	（１）児童生徒の実態や課題などや目指す子ども像、目標方針の共有について ○年度当初の研修会で、峰山学園の児童・生徒実態から明らかにした経営方針を全教職員で確認し、運営ができた。 ○児童・生徒の状況については、各会・部会で共通理解を図り、取組みに生かしている。担任会でも、児童の状況について交流を行ったり、指導方法等を学び合ったりしている。 （２）学校経営及び進行管理 ○経営会議を定期的に開催し、学園内の教育課題の把握・整理を行いながら、教育目標・目指す子ども像の実現を目指して経営を行うことができた。 ○経営会議で、運営部会、教育課程部会、生徒指導部会、教育支援部会、学習指導部会の取組み等を把握することができた。 ○担任会の実践を進めるために、担当校長・教頭、教務主任が担任会に入り、中学校数学科の教員が５・６学年担任会に加わり、学習指導部会と連携できる組織となり、より充実した活動ができた。 ○担任会で総括テストを交流することは、テストを作成するために単元の指導構想をつくったり、５・６年担任会では、中学校の先生方から意見をいただくことができたりして、自らの指導力の向上に役立った。 ○１年担任会後半には、こども園から園長、担任が参加し保幼小の接続がスムーズにいくように連携を深めた。

就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	（1）自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり （2）汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導 （3）単元総括テストの作成と交流 （4）京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 （5）学力充実期間等の設定 （6）中１ふりスタ （中学校１年生集中振り返り学習） （7）全ての学年でのふりスタ （8）家庭学習がんばり週間の実施 （9）中学校体験授業 （10）「５年生・６年生の心得」の検討 （11）二分の一成人式（小学校４年生）、立志式（中学校２年生） （12）こども園、小学校の接続を中心とし教育課程の編成と一貫した指導 （13）アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践と検証と改善 （14）不登校にかかる事例研「不登校の子どもと家庭への小中連続した支援の在り方について」の実施	就学前から中学卒業までを見通した一貫した指導の充実と教育課程編成を行う。 本年度、０期、Ⅰ期～Ⅲ期をより意識した指導を行うことを年度当初で確認した。教育課程部会、担任会で峰山学園の児童生徒につける力の検討を行ってきた。このことが、一貫性・系統性のある教育課程による指導につながっていく。 （1）児童生徒の実態や課題、目指す子ども像の共有 ○経営会議で決定したことを各校へ持ち帰り、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。 （2）就学前から中学卒業までを見通して一貫した指導、教育課程 ○年間４回校園長会を実施し、連携を深め、10 年間を見通した指導について取組みを進めることができた。また、教育支援部会へのこども園の参加、１年担任会（こども園の参加）・教育課程会議の取組みで、一貫した園児・児童の支援を行うことができるようにしてきた。 ●こども園等から小学校へ、小学校から中学校への子どもに関わる情報については、個人情報であることを踏まえた対応と内容については、毎年確認をしてより良いものにしていく必要がある。アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムも改善し、実践する。 ○本年度、教育目標、目指す子ども像の実現を目指して、０期、Ⅰ期～Ⅲ期までの指導・支援の在り方について明確にしようと確認をして教職員が、協働して指導・支援を行ってきた。次年度以降もさらに０期、Ⅰ期～Ⅲ期までの指導・支援の在り方について明確にしていく。 ○指導の重点である確かな学力の育成では、生徒指導の３機能を生かした授業づくりを各小・中学校で進めることができた。また、 ○１中学校４小学校だから実施する必要性がある「中学校体験授業」等に取り組むことができた。また、「乗り入れ授業（小中連携加配）」（体育）にも取り組むことができた。 ●コロナ禍では「小学校合同校外学習」の実施は難しいが、ICT 活用等の工夫をして可能な限り追究する。 ○児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小４ふりスタ・６年生春季宿題の共通化・中１ふりスタ等の取組みを継続・充実させるとともに小1～小5までの各学年の学習の振り返りにも取組みを広げることができた。 ●小中の家庭学習の在り方について研究を継続し、小４からの家庭学習について改善を図り、自立した学びができる力を付け、中学校につなぐ研究を進める。 ○各校で積極的な生徒指導の取組みとして児童会・生徒会活動等だけでなく、授業にも生徒指導の３機能を生かす取組みができ、おおむね落ち着いた状況で生活できている。 ○生徒指導部会のアンケートを実施することで児童・生徒の実態をつかみ、SNS に係る指導を小・中学校で進めることができた。 ●SNS にかかる指導については、ＰＴＡとの連携が必要であるので、運営会議とも連携して進める。 ○「二分の一成人式」「立志式」に取り組み、自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。学園としてねらいや趣旨を共通化して、育成すべき力の実現を目指す。 ●今後も、「５・６年生の心得」などは、常に児童生徒の実態を踏まえ、検討を行い、全員で確認をしながら指導を進めていく。 ○不登校にかかる事例研を保幼小中の教員で行い、状況を共有し多様な方向からとらえることにより、具体的な対応について研究することができた。また、SC、SSW の参加依頼も行った。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	（1）目指す子ども像の実現・目指す教師像の意識化に向けた教職員の協働及び教職員の交流 ア　教職員の合同研修会・実践交流の実施 イ　授業を通した研修会 ウ　担任会を通した研修 （2）「集団の中で豊かに人とかかわる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 ア　峰山中学校合唱祭 イ　部活動体験	○『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「生徒指導の３機能を生かした授業」について小中学校ともに各校で授業研究に取り組むことができ、授業改善を前進させることができた。 ○ロイロノートの活用に向けた研修会を行った。 ○全教職員の研修会での実践研究及び各部会での実践交流を通して、教職員の交流を図ることができた。 ○峰山中学校合唱祭（中止）・クリーンキャンペーン・部活動体験・体育祭・ふれあい交流会等、児童生徒は交流を通して中学校への不安を解消したり、自己肯定感を高めたりすることができた。 ●感染予防が必要な中、小学校合同校外学習・合同授業等を通して小小の交流を深め、豊かな学習を創り上げるために何ができるか探っていく。 ●交流会が実施できない中、保幼小中の教職員及び峰山高等学校との授業研究等を通して今後も連携を深めていく。

	ウ　合同授業・学びの交流等 エ　体育祭等 オ　生徒指導の３機能を生かした「わかる・できる」授業実践 カ　学校や地域の一員として主体的に参加する取組み	
家庭、地域社会との連携、情報発信	（1）家庭・地域への情報発信 （2）学校支援ボランティアの活用 （3）家庭との連携	○学園の課題（基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等）と連携した峰山学園ＰＴＡ統一目標を策定したり、具体的にＰＴＡ挨拶運動（峰山学園ＰＴＡみんなでおはよう運動及び交通安全指導）を実施したりすることができた。 ○保幼小中一貫教育学園コーディネーターの役割を明確にし、学園だより・ホームページ・リーフレットの作成を運営会議と分担したことで、学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。 ○地域コーディネーターの配置を受け、学校支援ボランティア等を活用し、市民が、学校教育活動に積極的に参加できる取組みを進めることができた。 ○ＳＮＳについて、各小中学校で実態に合わせてＰＴＡと連携して取り組むことができた。今年度は SNS 講演会も児童生徒対象、保護者対象の２部制で実施できた。今後もＳＮＳに係る指導をＰＴＡと連携して進めていく。

4　今年度の成果と課題　改善方策

成果と課題	改善方策
≪成果≫ 1　児童生徒、教職員アンケート結果より ・峰山学園の保幼小中一貫教育の成果は顕著に現れ、峰山学園の児童生徒の課題解消や軽減等は着実に進んでいる。 2　峰山学園の教職員のアンケートによって確実に保幼小中一貫教育で目指している指導が浸透してきている。今年度は、計画していた授業研究会の実施ができなかったが、各校や学年会等で授業について小・中学校の教員が学園の授業改善の目標を意識して研究を進めている。 3　学園経営及び進行管理について ・経営会議が運営会議、教育課程会議及び生徒指導部、学習指導部などを統括する必要があり、組織改編を行った。 ・担任会の実践を進めるためにより機能的な組織体制にして、担任会がより授業づくりの実践推進を担うよう学習指導部と連携できるようにした。 ・担任会の活動内容（総括テスト、学習の振り返り）を明らかにし、授業改善や学力向上に繋がる実践を取り組むことが出来た。 ・学園が標榜している授業改善の３つの柱（授業を見る視点、生徒指導の３機能、目標と指導と評価の一体化）に焦点化した実践を進めることができた。 4　10年間を見通して一貫した取組みについて ・「目標と指導と評価の一体化」を具体化するための実践を担任会に位置付け学習指導部と連携しながら（言葉の力の育成：思考する力・判断する力・表現する力）に焦点を当てた評価テストの作成等に取り組むことができた。 ・生徒指導の３機能を育む授業の推進に向けて、学習指導部会と生徒指導部会が連携し、授業研究会等での実践交流を通して、授業改善を図ることができた。 ・10年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。 特に、０期～Ⅲ期に目指す児童生徒像を具体化してその指導を行う。学園内で各期に身に付けさせる力を協議して明らかにすることができた。 ・児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小４ふりスタ・６年生春季宿題の共通化・中１ふりスタ等の取組みを継続・充実させるとともに小1～小５までの各学年の学習の振り返りにも取組	改善方策 ○令和３年度は、現体制（１中学校４小学校２こども園の組織図及び組織体制）で運営していく。 ○担任会の取組みの継続・発展 担任会…今年度の体制を維持し次の内容に取り組む。 ①学年の学習内容の復習のための課題づくり ②目標と指導と評価の一体化を具体化する総括テストづくりをすることによる指導力の向上を図る。 ③０期～Ⅲ期の指導目標を踏まえた指導の充実を図る。 ○小・中学校教員の研修会 授業づくりを中心とした協議を行い、小中学校で指導力の向上を図る。 ○令和３年度の目指す子ども像・教育目標・目指す教師像について、保幼小中一貫教育推進の手引きをもとに検討を行う。 【令和３年度】 1　目指す子ども像 意欲を持って自ら学ぶ子ども（知） 思いやりのある子ども（徳） 進んで心と体を鍛える子ども（体） 2　教育目標 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 3　目指す教師像 教育的愛情と、使命感・情熱に満ちている教師 人間的魅力にあふれている教師 高い「専門性」と「授業力」を持ち、確かな学力をつけることができる教師 児童生徒、保護者、同僚、地域の人から信頼される教師 「京丹後」への理解と愛情と、国際的な視点に立った教育を進めることができる教師 4　学園経営方針 （1）一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学園【児童・生徒】 ア　自分の将来を展望し、意欲を持って学ぶことができる取組みを進める。 イ　自分の思いや考えが表現でき、共に学び、思いやることができる取組みを進める。 ウ　粘り強く挑戦し、自らの心や体を鍛えることができる取組みを進める。 （2）「中学校卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学園【教職員】

みを広げることができた。
・各校で積極的な生徒指導の取組みとして児童会・生徒会活動等だけでなく、授業にも生徒指導の３機能を生かそうとすることで、コミュニケーション能力を高めることができてきている。また、「二分の一成人式」「立志式」にも取り組み、成長を実感し自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。
・「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「生徒指導の３機能を生かした授業」について小中学校ともに授業研究に取り組むことができ、授業改善を大きく前進させることができた。
・保幼小中一貫教育コーディネーターの役割を明確にし、学園だより・ホームページ・リーフレットの作成を行い、学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。
・不登校の未然防止に向けて、学園内で気になる子どもの実態交流をすることで、幼児期・学童期・思春期の変化とその時期に大切な支援や指導について研究を重ねてきた。そのことが不登校の未然防止につながっている。また、それぞれのステージで移行支援シートを丁寧に作成し、引き継いでいることも不登校の解消につながっている。
・不登校対応について、教育支援部会の中で小・中に兄弟関係のある事例を取り上げ、家庭支援の手法や児童生徒と学級とのつながりを作る学級経営について研修をすることで、SC・SSWの専門的な見立てからも学び、状況改善に向けての取組みを進めることができた。
・相談部による校内サポートなど学校が組織として継続して支援をすることを推し進めてきた結果、不登校の未然防止につながった。
・コロナ禍ではあったが、ペアやグループでの学習形態を計画的に取り入れることで、子ども達のつながりを育み、学習意欲の向上や不登校の未然防止につなぐことができた。

≪課題≫
1　令和３年度学園経営に向けて
（1）組織体制及び運営上の改善
・10年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。特に、０期～Ⅲ期に目指す児童生徒像を目指した指導をさらに進める。
（2）令和３年度に向けての重点的な課題・取組みの方向
【教育目標・目指す子ども像・学園経営方針】
・令和３年度についても、学園として教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子」の実現に向けて、ＰＤＣＡサイクルで、学園経営を行っていく。
【学園指導の重点】
・特に「確かな学力の育成」に関する取組みでは、「目標と指導と評価の一体化」を進めて行く。小小連携で、単元末総括テストの作成・実施・評価・改善に力を入れて取組みを更に進める。
・「目標と指導と評価の一体化」について、中学校での実践のわかる化を進める。
・夏季研修については、教職員の指導力量を高めていく取組みの大きな節としていく。特に、保幼小中連携に焦点を当てた取組みとする。
・授業研究については、学習指導部会が中心となって「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「目標と指導と評価の一体化」「生徒指導の３機能を生かした授業」を基に行う。小中全教職員が授業研究にかかわるためにも、各校で視点を明確にした実践を積み上げる。
・4月より一人１台タブレットが導入されることをチャンスととらえ、ロイロノートの活用を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して
ア　児童生徒の願い・希望・悩みに正面から向き合い、共感的理解と指導に努める。
イ　「わかる」「できる」授業・生活の創造に取り組み、専門性の向上を図る。
ウ　10年間を見通して、一貫性・系統性のある指導を行う。
エ　互いに学び合い、協働的な教育活動を展開する組織を構築する。
オ　保護者や地域の人達と連携して児童生徒の社会的自立を図る指導を進める。
（3）保護者・地域に信頼される学園【保護者・地域】
ア　ＰＴＡ・地域と連携した自己肯定感を高める取組みを進める。
イ　保護者・地域へ双方向の情報発信を行う。
ウ　市民が学校の教育活動を積極的に支援する取組みを進める。
○学園指導の重点
指導の重点「確かな学力の育成（授業研究）」「コミュニケーション能力の育成（生徒指導・特別活動」「評価を見通した取組みの充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。
教育課程部会が担任会等で協議して作成した（０）Ⅰ～Ⅲ期における「目指す姿一覧」を意識した指導を行う。
（1）確かな学力の育成
生徒指導の３機能を生かした「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。（授業研究）
※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。
ア　生徒指導の３機能を生かした授業を進める
授業の中で目指す児童生徒の姿　（３目標）
①自己決定をしている
②自己存在感を感じている
③共感的な人間関係をはぐくんでいる
そのための指導方法　（３視点）
①主体的に活動する場面が設定された授業
②本時の目標が明確で「わかる」授業
③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業
イ　目標と指導と評価の一体化を進める
（ア）目標から単元総括テスト作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計
（イ）単元総括テストの蓄積と検証
ウ　ICT・ロイロノートの活用をすることにより、生徒指導の３機能（３目標・３観点）を生かすとともに「対話的・主体的で深い学び」の実現を目指した授業づくりを行う。
（2）コミュニケーション能力の育成
確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の３機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。（生徒指導・特別活動）
ア　生徒指導の３機能を生かした教育活動（積極的な生徒指導）
イ　自己肯定感を高める取組み（特別活動）
（ア）学校や地域社会の一員として主体的に参加する取組み
（イ）集団の中で豊かに人と関わることができる取組み
（ウ）一人一人の居場所を確保し不登校の解消につなぐ取組み
（3）今年度の年度末研修会で、中学３年生数学科公開授業、ロイロノート活用研修を行い、次年度からの授業づくりにロイロノート活用のイメージを共有することができた。次年度の授業づくりに、従来の視点にタブレット・ロイロノートの活用の視点も加え、研究を進めていく。
（4）評価を見通した取組みの充実
ア　学園評価・学校評価結果に基づく学園経営の充実
イ　教育評価・指導評価結果に基づく教育実践の改善

授業改善を行う。
・「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力の育成」では、「言葉の力の育成」に焦点を当てた実践を進める。
・不登校の解消に向けて、今年度の取組みを継続するとともに、関係機関との連携を更に深め、個に応じた対応から社会的自立につなぐ指導を展開する。
・生徒指導部会では、各校で取り組まれている積極的な生徒指導の取組みを交流し、自己指導能力・人間関係力を身に付ける指導方法・取組みについて実践を積み上げていく。その中で、中学校卒業時に付けるコミュニケーション能力を明らかにしていく。同時に、指導者として各学年・発達段階に応じてそのためにどのような手立てが必要か検討していく。
・「５・６年生の心得」については、現状を踏まえて検討し、「５・６年生の心構え」として次年度に引き継ぐ。
・SNS 講演会については、児童生徒向けと保護者向けを実施できたが、主催、運営等の役割分担について一定整理する必要がある。
・学園評価について、方針に基づいて早い段階から、評価の計画・見通しを持ち、学園運営協議会での評価により指導の改善を図る。
・教育評価（総括テスト等）から、教育指導を実践していく。ゴールや出口を明らかにすることでより質の高い取組みを行う。
・保護者、地域の方々の評価については変更を加える。
【保幼小中一貫教育の具体的な内容】
・０期・Ⅰ期～Ⅲ期の実践を明確にし、小中一貫教育の姿を確認する。

（３）令和３年度に向けての年間計画・行事の見直し
コロナ禍で制限もあり配慮が必要だが、保幼小中一貫教育の取組みを継承・発展する視点と、実態に応じて見直す視点をもつ。

○　保幼小中一貫教育の具体的な内容
１　児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標方針の共有に向けて
（１）学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化
（２）学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け
（３）学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け

２　就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程
（１）峰山学園の目指す子ども像を見通した指導と教育課程の作成
ア　自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり
イ　汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導
・小６児童の不安感や中１生徒の困り感の再検証
中１ギャップの捉え直し
・単元総括テストの作成と交流と検証
・京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用
・学力充実期間等
・乗り入れ授業
・小学校高学年での一部教科担任制（音楽科）
・中１生集中振り返り学習
・全ての学年でのふりスタ
・中学校体験授業（年２回）
・二分の一成人式（小４）、立志式（中２）
ウ　０期Ⅰ期～Ⅲ期の目指す姿を達成できる指導について協議、実践していく。
・「５・６年生の心構え」については、児童生徒の実態を踏まえ、検討を継続していく。
エ　園小接続を中心とした教育課程の編成と一貫した指導
・アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践と検証

３　子ども、教職員の交流と協働
（１）「目指す子ども像」の実現・「目指す教師像」の意識化⇒教職員の協働及び教職員の交流
ア　教職員の合同研修会・実践交流の実施
イ　授業を通した研修会
ウ　担任会を通した研修
（２）「集団の中で豊かに人と関わる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施
ア　峰山中学校合唱祭
イ　部活動体験
ウ　合同授業・学びの交流等
エ　峰山中学校体育祭
オ　生徒指導の３機能を生かした授業実践
カ　学校や地域の一員として主体的に参加する取組み
キ　クリーンキャンペーン
ク　SNS 講演会（峰山学園主催、運営：運営会議・峰山学園生徒指導部）

４　家庭、地域社会への積極的な情報発信
（１）峰山学園運営協議会による評価の実施と学園の目標、教育活動の保護者・地域住民への積極的な情報発信
（２）中学校区の家庭教育の課題（基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等）を踏まえた「峰山学園」ＰＴＡ統一目標の設定
（３）「峰山学園」ＰＴＡ統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組みの計画・実施
（４）学園の教育活動に支援体制（学校支援ボランティア等）の機能化と充実
（５）SNS 講演会（保護者向け）については、小中一貫校 PTA の取組みとして位置付け、各校 PTA の計画等にも組み入れる。

（別紙様式２）

令和２年度 大宮学園保幼小中一貫教育報告書

１　「目指す子ども像」、教育目標

（１）教育目標

自他を尊重し、自ら学ぶ　子どもの育成

（２）目指す子ども像

○ 意欲的に学び、チャレンジする子ども（知）

○ 自他を大切にし、思いやりのある子ども（徳）

○ 心身を鍛え、活動的な子ども（体）

２　保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組みの柱とする内容

（１）確かな学力の育成：「言語活用カリキュラム」の継続

①基礎学力の向上を目指した授業改善（授業づくり）

②小中で連携した「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善（授業づくり）、授業計画の策定

③「ことばの力」の育成（言語活動の充実）を目指した授業改善（授業づくり）

④保幼小の接続のためのアプローチプログラム・小１スタートカリキュラムの自学園化

（２）人権意識の育成：「人権教育カリキュラム」の継続

①人権教育の理念に基づく「自他を大切にする心」を育成するための教育活動の充実
全ての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成

②人権意識を育成するための人権学習の充実

（３）連携・体験活動の充実

①５歳児１年生・汽水域を中心にした効率的・効果的な連携教育活動、体験活動の充実

②体験活動を通して「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成

③効率的・効果的な共通した学校のきまり（学習・生徒指導・家庭連携）

④丹後学、キャリア教育の視点を踏まえた夢・未来式（４年生・中３年生）の実施

（４）目指す子ども像の実現を見通した教職員の交流と協働：「精選とニーズ」への対応

①教職員の確かな学力の育成に向けての授業研究

②教職員のニーズを踏まえた小中、保幼小の研修会・実践交流会の推進

（５）家庭、地域社会への啓発、情報発信

①大宮学園の家庭教育の課題を踏まえた「大宮学園」ＰＴＡ統一目標の策定

②家庭教育委員会による「家庭のやくそく」の継続と啓発、親のための応援塾の継続

③ＰＴＡ統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組みの計画・実施

④大宮学園運営協議会（大宮学園コミュニティ・スクール）による大宮学園教育環境づくりの推進

⑤「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発

３　保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 （実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等）
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1)　学園内の全ての園・学校が、教育目標、目指す子ども像を共通化する。 (2)　学園内の全ての園・学校が、学園経営計画を各校の経営計画へ位置づける。 (3)　学園内の全ての園・学校が、学園の子どもの実態・課題、学園重点方針等	(1)　学園教育目標及び目指す子ども像に向けて、学園内の２園所、３校での共通化に取り組んだ。 (2)　学園経営計画を各園所、学校の経営計画に位置付け、経営の充実に取り組んだ。 (3)　学園教育課題、各会議・部会の推進状況を把握し、学園経営を統括し、一貫した教育指導・活動の充実に努めた。 (4)　大きな課題となる不登校について、共通認識と連携の

	を各校の経営計画へ位置づける。 (4)　学園小中一貫教育推進部会による理論・実践研究成果を各校に波及させる。	在り方について協議を重ね、指導支援に生かした。特に、教育支援部会で事例研究を通して不登校への理解と支援の在り方について研修を積み重ねることができた。 (5)　共通認識をもってコロナ対応を行った。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1)　大中校区小中一貫校教育課程の編成 ①汽水域指導プログラムの推進等 ・小中学校での乗り入れ授業の計画・実施（加配の活用） ・５・６年生での一部教科担任制 ・中学校授業体験（年２回） ②Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期の学習への円滑な接続 ・アプローチプログラム、小１スタートカリキュラム（５歳児担任・１年担任） ・夢・未来式の実施（小４年生・中３年生） ・小４・中１ふりスタ ・中学校定期テスト模擬体験 ・春季休業中の共通宿題（６年生） ③家庭学習の充実 ・家庭学習の統一手引き ・家庭学習がんばり旬間 (2)　学力充実向上に関する取組みの進行管理 ①学力調査と分析 ②学力向上のための授業充実・授業力向上 (3)　生徒指導・教育相談に係る情報の共有と連携 ①５・６年生の心得、共通の生活の決まり ②情報モラル教室 ③保幼小中連携シート (4)　モデルカリキュラムに係る推進	(1)　大中校区小中一貫校教育課程の編成について ①汽水域指導プログラムの推進等について ・小中連携加配の乗り入れ授業（音楽）と英語専科教員による外国語の授業を実施し、児童の実態把握や指導に効果があった。 ・人権教育加配が小学校での学習補助にあたることで、児童支援や児童の状況把握に効果があった。 ・体験入学や授業体験の実施により、入学への楽しみや期待につなげることができた。 ②Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期の学習への円滑な接続について ・保園と小学校との連携のもと、小１プロブレムの解消に向けての取組みを行うことができた。 ・小４と中３で、夢・未来式に取り組んだ。 ・６年生を対象に共通テスト（数学）を実施し、中学入学後のテストに係る不安解消に向けて取り組んだ。 ③家庭学習の充実について ・家庭学習の手引き、家庭学習がんばり旬間により、家庭学習習慣の向上に取り組んだ。 (2)　学力向上に関する取組みの進行管理について ①学力充実部で学力分析を行うとともに、視点を明らかにした大宮学園授業研究会を行い、授業づくりに取り組んだ。 ②教科指導の連携・接続を目指し、担任会、小中連携による指導研究に取り組んだ。 (3)　生徒指導・教育相談の一貫・接続 ①学園として小中各校、一貫校PTAで情報モラル学習を実施し、多くのことを学ぶことができた。 ②事例研究、引き継ぎシート等の充実に取り組めた。 (4)　モデルカリキュラムに係る推進について ①学園としてモデルカリキュラムをもとにした授業の実施を行った。 ②学園としてのモデルカリキュラムに係る研究を推進していく必要がある。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1)　連携・体験活動 ①人権意見発表会（学校毎） ②合唱祭　③体育祭（招待状） ④部活動体験　⑤体験授業 ⑥花いっぱい運動（学校毎） (2)　幼児・児童・生徒交流活動 ①児童会・生徒会交流活動 ②挨拶運動　③生徒会アドバイス ④児童会・生徒会スローガン ⑤園児と中学生との合同避難訓練 (3)　教職員の交流と協働 ①担任会（小小担任会、１年担任と５	(1)　連携、体験活動、幼児・児童・生徒交流について ①コロナ感染防止による連携・体験活動の精選や変更を行わざるをえなかった。（合唱祭・体育祭は中学校のみで実施） ②児童会・生徒会交流活動、挨拶運動（ハイタッチモーニング）、部活動体験等、状況を判断しながら実施できた。 ③オンラインでの交流も実施でき、今後活用がさらに求められる。 (2)　教職員の交流と協働について ①合同授業研究会で、授業づくりについて学ぶ機会は大変意義深く、今後も充実を図っていく。 ②３部会での現状分析、実践交流に取り組んだ。

	歳児担任、６年担任と中１担任) ②授業研究に向けた取組みの推進 ③合同研修・実践交流会の実施	
家庭、地域社会との連携、情報発信	(1)　中学校区の家庭教育課題を踏まえた大宮学園」ＰＴＡ統一目標の策定 (2)　大宮学園ＰＴＡによる「家庭のやくそく」の取組み (3)　大宮学園ＰＴＡ統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組みの計画・実施 (4)　大宮学園運営協議会（大宮学園コミュニティ・スクール）への動きづくり (5)　「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発	(1)　大宮学園ＰＴＡの目標策定とともに、「令和版家庭の心得」を配布し、掲示することができた。 (2)　大宮学園ＰＴＡ事業計画に基づき、「エプロンでおはよう 挨拶運動」や「情報モラル学習会」等、計的に実施することができた。 (3)　大宮学園運営協議会が立ち上げられ、地域連携、教育支援を進めることができた。会員の皆様の思いや期待を運営に生かすことができた。 (4)　学園だより、ホームページの更新等で、教育活動の発信に努めた。 (5)　学園評価を実施し、今後に向けた評価をいただいた。

4　今年度の成果と課題　改善方策

成果と課題	改善方策
【成果】 (1)　学園教育課題、各会議・部会の推進状況を把握し、学園経営の統括、一貫した教育指導・活動を充実させることができた。 (2)　学園３会議（経営、運営、教育課程）及び３部会（学力充実、人権・生徒指導、教育支援）を機能させ、新型コロナ感染防止に対応した取組を推進できた。 (3)　すべての教育活動で「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」の育成に向けて取組みを推進することができた。 (4)　視点を明確にした授業研究会を通して、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を進めることができた。 (5)　不登校及び不登校傾向児童生徒に絞って事例研究を進めることで不登校に陥る背景の多様さと小中学校で配慮すべきポイントについて共通理解を進めることができた。 (6)　学園の経営会議（校長）、運営会議（教頭）の両方で担当指導主事から具体的な資料を基に不登校の状況について確認する機会が設けられることで、教育相談部を中心として不登校解消への意識が高まった。 (7)　校種間連携の必要性への意識が高まり、大宮中学校の小学校在籍時の欠席状況の情報提供（未然防止の観点）及び不登校傾向となった生徒に絞った小学校在籍時の欠席状況の情報提供（早期対応の観点）が進んだ。 (8)　大宮学園運営協議会を立ち上げ、委員の意見集約による来年度の活動の方向性を明確に示すことができた。 (9)　新型コロナ感染防止の視点でいろいろな対応	【課題】に対して (1)　学園評価を受け、小中一貫教育の３つの目的の共通理解を丁寧に行い、その共通理解に基づき、大宮学園小中一貫教育の目標、教育指導の重点、教育指導・活動の充実を図る。 ① 市の教育課題改善のため、小中一貫教育の目的についての共通理解を当初全体会で確実に行う。 ② その具現化に向け焦点化した大宮学園小中一貫教育の重点策定を行う。次年度も今年度評価に基づき、『連携・体験活動の充実』、特に「精選（効果的・効率的）と教職員のニーズへの対応」をキーワードとして取り組む。 ③ 指導の重点の具現化に向けて、学園で一貫して取り組むことの整理を行い、評価の充実を図る。 (2)　大宮学園小中一貫教育の目標・教育指導の重点を踏まえ、一貫した教育指導・教育活動を一層充実させるための学園経営の充実を図る。 特に、来年度も教職員の教育的ニーズに応じた日常的で効果的な連携教育活動を学園全体で共通理解のもとさらに推進していく。 ① 大宮学園３会議と教育課程推進３部会の経営及び活動の充実と各校への効率的な接続を図る。 ② 連携教育活動を効果的・効率的に進める。 ③授業研究を効果的・効率的に推進する。 ④ 担任会・教科部会等を効果的・効率的に進める。 (3)　不登校にかかる状況の把握、不登校児童生徒への指導支援の在り方と連携について学園として取組みを進める。 (4)　児童生徒の円滑な接続のための個別記録の活用及び不登校・不登校傾向児童生徒に特化した事例研究を継続して行う。 (5)　保幼小中の引き継ぎの在り方を今後も検討していく。

が求められる中、経営会議を中心として情報を共有し、共通認識を持って学園運営を行うことができた。 【課題】 (1)　学園評価を受け、小中一貫教育の３つの目的の共通理解を丁寧に行い、その共通理解に基づき、大宮学園小中一貫教育の目標、教育指導の重点、教育指導・活動の充実を図る。 (2)　大宮学園小中一貫教育の目標・教育指導の重点を踏まえ、一貫した教育指導・教育活動を一層充実させるための学園経営の充実を図る。 (3)　不登校・特別支援教育・就学指導に係る学園課題に対して、さらに実践研究を積み重ねる。 (4)　教育支援が必要な幼児・児童生徒や、特別支援及び教育相談における校種間連携の仕組みを整え、校種間の円滑な接続を推進する。 (5)　大宮学園運営協議会（学園コミュニティ・スクール）との協働をさらに進め、より地域とともにある学園（学校）を目指す。	(6)　アセスメント票、個別の指導計画・支援計画の有効活用及び共有の在り方について検討を重ねる。 (7)　教育相談、不登校、家庭支援に係る情報交流と指導の在り方について継続して研究を進める。 (8)　大宮学園運営協議会の学園運営協議会（学園コミュニティ・スクール）での来年度の方向性を踏まえ、来年度当初の協議会では具体的な提案を行い、活動を通してより地域とともにある学園（学校）を目指す。 (9)　新型コロナ感染防止を徹底し、経営会議が各会議・部会の進捗状況を把握し、事業や取組みを推進していく。

（別紙様式２）

令和２年度　網野学園保幼小中一貫教育報告書

１　「目指す子ども像」、教育目標

【目指す子ども像】
あ：明るく元気に進んで学ぶ子　【知】意欲的に学習に取り組む子ども
み：みんななかよく支え合う子　【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども
の：のびのび生き生きやりぬく子【体】粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども
【教育目標】
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす幼児・児童・生徒の育成を図る教育の推進

２　保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組みの柱とする内容

(1) 確かな学力の育成
ア　主体的・対話的で深い学びの実現
イ　学びのスタイルの確立と活用能力の向上
(ｱ)　本時の『めあて』を全体で共有し、提示する。
(ｲ)　「思考をくぐらせる」場面をつくる。
(ｳ)　「考えを交流する」場面（ペア・グループ学習等）をつくる。
ウ　家庭学習の習慣化
(ｱ)　低：２０分以上　(ｲ)　中：４０分以上　(ｳ)　高：６０分以上 (ｴ)　中学：９０分以上
(2)　規範意識の醸成
ア　学習規律の確立
(ｱ)　人の話を聴く　(ｲ)　時間を守る　(ｳ)　服装・姿勢を正す
イ　生活習慣の確立
(ｱ) テレビ・ゲーム・インターネット・ＳＮＳなどのルールを決める。
(3)　豊かな人間性の育成
ア　積極的な生徒指導　イ　コミュニケーション能力の育成　ウ　ボランティア活動
エ　自立的に生きる基礎の確立
(ｱ)　切れ目のない組織的な支援　(ｲ)　保護者との連携

３　保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 （実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等）
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	ア　学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化 イ　学園内の全ての学校が、学園経営方針・目指す教師像の経営方針へ位置付け ウ　学園内の全ての学校が、「これだけは！」の各学校の経営方針へ位置付け	○経営会議で確認したことを学校園・各会議・各部会で年間計画に沿って取り組み、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。 ○学園評価アンケートを実施し分析を行い、次年度の計画の改善に活かすことができた。 【網野学園児童生徒アンケートより】 ・児童生徒アンケート肯定率80%以上の項目数 小１（19／19）小２（19／19）小３（16／19） 小４（16／19）小５（18／20）小６（17／20） 中１（13／20）中２（13／20）中３（12／20） と概ね肯定的に捉えている。 ・「人の話を聞く」「時間を守る」「きまりを守る」等の項目については、児童・生徒が90%以上であり、教職員についても約 90%が指導を行ったと肯定的に捉えており、規範意識の醸成については、成果が現れている。 ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」については、全学年において90%以上が肯定的に捉えていることから、個々の違いを認め合い、思いやりを持ち仲間と共に生きていくことの大切さに気付いていると考えられる。 ・教職員アンケートの「いじめ・暴力事象を起こさない指導」は93%「互いに認め合い、思いやりを持ち、共に生きる指導」が 95%で肯定的に捉えており、日々の指導の結果が児童アンケートにつながる結果となった。 ・園所用のアンケートについては保幼小中一貫教育の視点に沿って見直し、改善を行い実施することができた。 ○「網野学園保幼小中一貫教育だより」「網野学園保幼小中一貫教職員だより」「網野学園学校運営協議会だより」を通して、各学校園・各部会・学校運営協議会の取組みを共有することができた。

就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	ア　規範意識を醸成し、落ち着いた環境をつくる取組み (ｱ)　「これだけは！」・「これだけは！」（授業編）の取組み (ｲ)　５年生中学校授業見学 (ｳ)　６年生中学校部活動体験 (ｴ)　６年生中学校体育祭取組み見学 (ｵ)　６年生中学校授業体験 (ｶ)　乗り入れ授業・小小連携授業の取組み・小中連携授業等の取組み (ｷ)　アプローチプログラム・スタートカリキュラムの見直し・検証 イ　未来を展望し、将来を切り拓く力を育成する取組み (ｱ)　家庭学習の手引き・家庭学習がんばり週間の取組み (ｲ)　６年生学年末テスト・６年生春季休業中の課題 (ｳ)　中１ふりかえり集中学習・小４ふりかえり学習 (ｴ)　京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用 ウ　思いやりをもち仲間と共に生きる人間関係を築く取組み (ｱ)　アルミ缶回収・ボランティア活動 (ｲ)　挨拶運動	○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を保幼小連携部で共有し連携を進め、アプローチプログラム・スタートカリキュラムの実践や検証を行うことができた。また、網野学園各園所の実態にあわせてカリキュラムの編成を見直すことができた。 ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に軸足を置いた園所の指導により、入学後の児童には、自ら考え行動できる姿が見られた。 ○行動連携「これだけは」を基に一貫した指導を行い、各校で落ち着いた環境をつくり出すことができた。 ○行動連携「これだけは（授業編）」を基に指導を行い、「自分の考えをもつ」「授業で考えを交流する」では児童・生徒、教職員ともに80%以上が肯定的に捉えており、授業改善が進められてきている。推進会議が中心となって進めた単元構想シートの活用による授業づくりを教職員一人一人が意識して行った結果であると考えられる。 【網野学園教職員アンケート結果より】 ※今年度肯定率　「思考をくぐらせる」81% 「考えを交流する」　87% ※昨年度肯定率　「思考をくぐらせる」60% 「考えを交流する」　68% ○小学校から中学校への円滑な接続を目指し、「５年生中学校授業見学」「６年生中学校部活動体験」「６年生中学校体育祭取組み見学」「６年生中学校体験授業」を行った。また小中連携加配（算数科）、英語専科教員による授業を５、６年生対象に行ったことで不安を軽減し、中学校への憧れを抱くと同時に学習意欲や行動面での高まりが見られるようになった。 部活動体験については、中学３年生が活動中の６月を予定していたが、コロナ感染対策により 11 月に延期となり、中学２年生を中心とする新体制のもと行った。中学生としてのあるべき姿を小学生に示すことができ、小学生にとっては中学生の優しく活気のある様子を見ることができたことで、部活動への不安解消と期待、部活動選択の一助につなげることができた。 体育祭取組み見学は、リーダーとして活躍する中学３年生の姿から小学６年生にとっては、各校の児童会活動や異年齢活動に生かすことができた。 小学５年生の中学校授業見学は、中学校の授業のスピードや授業内容、当てられてもしっかり発言できる様子を見て、自分自身も中学生のようになりたいという思いを持ったり中学校での学習の様子を知る機会となったりした。 ○小中合同アルミ缶回収ボランティアに取り組むことで、子どもたちは網野学園の一員であることを意識することができた。また中学生が小学校に来校し一緒に活動することで、児童会本部役員にとっては、中学生が自信をもって思いを表現して伝える姿に憧れを持ち、目指す姿を学ぶ機会になった。中学生にとっては、小学生が一生懸命に取り組む姿を見て、アルミ缶回収に取り組む意義を考える機会となった。また小学１年生から６年生までが中学生から小学校時代に頑張ってほしいことを聴くことで、中学生をより身近に感じることができた。 ○情報モラルの出前授業を小学４年生と中学生対象に、篠原嘉一氏（ＮＩＴ情報技術推進ネットワーク）を講師に実施できた。ＳＮＳ、ゲーム等の使用における具体的トラブルを知ることができ、今後の使用について見直すきっかけとなった。またＰＴＡを対象とした篠原氏による子育て講演会で子どもたちと保護者が共通の趣旨でＳＮＳ等について学べたことは、家庭での生活習慣の確立を図る上で大変有効であった。

		○今年度不登校等学校不適応の児童生徒が減少している。中でも中学１年生は現在不登校０名である。その要因として考えられるのは、①担任が一つ一つの取組みや学習等について価値付けを行い、居場所がある安心できる学級経営を行っていること②小中連携加配が高学年に入ることで中学校の授業スタイルに繋げられていること③小中学校共に「わかる」授業づくりに意識して取り組んできたこと④小学校時代からペア・グループなど多様な形態で学習することで誰とでも交流できる素地ができていること⑤要配慮児童の情報が丁寧に引き継がれ、スムーズな接続ができていることなどが考えられる。今後も 10 年間を見通して、学校園が家庭との連携を進め、一人一人の幼児児童生徒が、学校園に適応できる力を身に付けていかなければならない。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	ア　目指す子ども像の実現に向けた教職員の協働及び教職員の交流 (ｱ)　教職員の合同研修会・実践交流の実施 (ｲ)　授業研究会を通した研修会 (ｳ)　学年部会を通した研修 (ｴ)　保幼小連携部を通した研修会 イ　落ち着いた学校・授業をつくることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施 (ｱ)　６年生中学校合唱祭参加 (ｲ)　６年生中学校体育祭取組み見学 (ｳ)　合同校外学習及び学びの交流 (ｴ)　小中合同交流事業（友だち交流会等）	○小学６年生の中学校授業体験・体育祭取組み見学、５年生中学校授業見学は、各小学校の児童をグループにして活動させたことで、個々の児童が交流する機会となり、中学校入学後のイメージをより具体的に持つと共に同学年の仲間を知ることができ不安軽減につながった。 ○推進会議が中心となり、学年部会で「単元構想シート」を作成し、それを基に各校で授業改善を進めることができた。11 月には橘小学校で網野学園合同授業研究会を実施し、授業づくりについて各校、各学年の取組みを交流、協議することができた。 ○保幼小連携部では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有しながら、アプローチプログラム・スタートカリキュラムの見直しと検証を行い園所小の協働意識を高めることができた。
家庭、地域社会との連携、情報発信	ア　網野学園学校運営協議会の取組み (ｱ)　網野学園の教育や子育て環境について学校・家庭・地域が一体となり、必要な教育支援を協議し、具体的な取組みを推進して、教育力のある地域社会を目指す。 (ｲ)　網野学園保幼小中一貫教育の推進に向け、学校（ＰＴＡ）、家庭、地域社会が連携して取り組む。 (ｳ)　網野学園の学校運営に関する方針について承認、またその運営状況について評価を行う。	○網野学園学校運営協議会の発足により、学校・家庭・地域が一体となった必要な教育支援について意見交流し、学校づくりへの参画意識の高揚につながった。 ○学期に一度、網野学園合同挨拶運動・交通安全運動を設定して保護者だけでなく関係団体や地域の方と協力しすべての学校であいさつ運動を実施することができた。 ○網野学園家庭教育委員会主催のＳＮＳ講座に篠原嘉一氏（ＮＩＴ情報技術推進ネットワーク）を講師として招聘し、ＳＮＳ・ゲーム等に関わる最新の情報を学ぶことができた。 ○「どの家庭でも、幼児から大切にする『これだけは！』(家庭編)」のリーフレットを保護者に配布し、保護者へ保幼小中一貫教育で大切にしたい視点を知っていただき、協力していただくことができた。 ○保幼小中一貫教育学園コーディネーターが中心となり、学園だより、ホームページ、リーフレット等を通して、学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。 ○学校支援ボランティア等を活用し、網野町の住民が教育活動に積極的に参加できる取組みを進めることができた。

4　今年度の成果と課題　改善方策

成果と課題	改善方策
○経営会議を定期開催し、学園内の教育課題を共有し、教育目標・目指す子ども像の実現に向けた経営を行うことができた。また本年度より、園所長にも毎回参加してもらい園所経営について共有できたことで、より一層保幼小中一貫教育を進めることができた。 ○学園経営の基本方針に基づいた「重点的な取組み内容」「行動連携」を具現化するために、経営会議が中心となり、各会議・部会等で組織的に進めることができた。	○経営会議は、今後も、学園内の教育課題、各会議・部会等の動きを把握しながら、年間を通して課題を整理したり、新たな取組みを提起したりして、的確な学園経営を行う。また、各会議・部会担当校長・教頭は、経営会議に連絡報告及び決裁を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組みを進める。 ○教育目標「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす子どもの育成を図る教育の推進」及び目指す子ども像の実現に向けて、ＰＤＣＡサイクルで、学園経営を行う。

○運営会議、推進会議、領域部会の取組みの進捗状況を把握し、成果・課題を整理し、総合調整や改善に努めた。 ○生徒指導部会、教育相談部会は、年間３～４回部会を実施し、情報機器アンケートの実施・分析、各校の児童・生徒の状況交流等や保幼小、小中引継ぎシートの作成等を行った。また、特別活動部会はアルミ缶回収、給食部は給食参観、道徳部は授業研究会を計画通り実施することができた。	○学園の教育目標、目指す子ども像の実現に向け、中学校卒業までを見通しⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期のゴールにどのような姿を目指すのか具体的な「指標」を作り、その実現に向けた経営を行う。 ○網野学園の最重要課題は学力である。次年度は学力課題に焦点をあて保幼小中一貫教育を進める。これまでの給食部、道徳部の研究については他の関係組織で行うこととし、組織の再編成を行う。 ○今年度は第１回全体研修会が中止となったため、網野学園全教職員で、今年度の重点である授業改善について共通確認することができなかった。捉え方や認識の違いが生じないようにするため、一堂に会して全体研修会や各会議・部会が実施できない場合は、リモート等を活用して実施できるようにする。 ○夏季研修会においては、教育・保育の部分も含めた環境づくりの研修を全教職員で行い、保幼小中一貫教育を更に進める。
○学年部会については、今年度保幼小連携部会を組織に位置付け、園所長、５歳児担任、１年担任が集い交流・協議を行えたことで参画意識をより一層高め、園所小の接続に視点を置いた取組みを進めることができた。 △５、６年学年部会に小中連携加配（数学科）、英語科専科教員が参加したが、同日開催の場合、前半、後半で分担しながら参加することは効果的ではない。小中のつながりを意識した授業改善や授業実践力をより深めるために、部会への参加については工夫を行う。 ○網野学園共同学校事務室が月２回の定例会議を持ち、実務に関する共同の学校事務処理等の研究を進め、機能的・効率的な共同学校事務室経営を行うことができ、各校の課題解決に大きく寄与した。 ○事務局は、事務局会議等で調整や事務作業を行い、経営会議の円滑な進行管理に努めた。また、今年度は新型コロナウイルス感染予防対策のため、年度当初の第１回全体研修会が一堂に会して実施できなかったが、学園として今年度１年間の計画を紙面交流し年間の活動が円滑に進められるよう調整することができた。 ○保幼小中一貫教育学園コーディネーターが、各会議、各部会等に参加し経営会議での方向性等について把握し、整理したり調整したりしながら、目的に沿った連携や取組みを進めることができた。各園所・小学校を訪問し、各校の授業の様子や取組み、便り等を使い発信し、園所間、小小間、小中間をつなぐことができた。 ○保幼小中一貫教育学園コーディネーターが今年度発足した網野学園運営協議会の事務局を務め、地域学校協働本部地域コーディネーターと共に、丁寧な連携を進める中で保護者・地域の方々の学園運営への参画意識の高揚につながった。	○第１回及び第４回５、６年部会については、中学校数学科担当教員・英語科担当教員が参加し、小中のつながりを意識した授業改善や授業実践力をより深められるようにする。なお、第２回及び第３回５、６年部会については必要に応じて参加する。
△重点的な取組み内容として、平成28度より、「規範意識の醸成」「確かな学力の育成」「豊かな人間性」に取り組んできた。行動連携「これだけは」については基礎的なことでもあり、網野学園がスタートしてから継続して取り組む中で積み上がりつつあり、学園の特色ある取組みのひとつでもあることから、今後も継続して取り組む。「規範意識の醸成」については、児童生徒及び教職員アンケート結果や児童生徒の状況から年々向上していることが窺える。更に定着させ学校以外の場でも規範意識を持った行動ができるよう継続して取り組む。「確かな学力の育成」については、Ⅱ期の授業づくりを中心に研究を進める。「豊かな人間性の育成」については、アンケート結果から学年が上がるにつれ、自己肯定感や自尊感情に関わる項目が低くなっている。そのため、学習や活動、日常生活の中で自己肯定感や自尊感情を高めるための手立てを考え、将来への夢や目標をもちその実現に向け自ら主体的に行動できる力を育成する。	○「これだけは！」「これだけは」（授業編）の見直しと改訂を行い、各校で継続して取り組み、落ち着いた環境づくりを進める。 ○網野学園「これだけは（授業編）」から更に進んで、授業づくりの視点や留意点に重点をおいた授業改善を進め、確かな学力の育成を目指す。更には、非認知能力を伸ばすことが認知能力を伸ばすことにつながることから「学びに向かう力、人間性の涵養」の観点から、「主体的に学ぶ力」の育成、「コミュニケーション能力」の育成に視点をおいた授業実践を行う。 ○多様で複雑な不登校の要因や背景をできる限り的確に把握し、切れ目のない組織的な支援をしていかなければならない。重点的な取組み内容の中の「豊かな人間性の育成」に位置付け、「自立的に生きる基礎の確立」に向けて、家庭と連携し系統的に取組みを進める。授業の中で「学びの楽しさ」を感じさせたり、「生徒指導の３機能」を意識した指導をしたりすることは、不登校等学校不適応の減少にもつながることから今後も引き続き推進する。中学校入学前に、４小学校の児童が顔見知りであったり、名前を知っていたり、話したことがあったりすることは、中学校入学後の人間関係づくりの上で大切である。それ

	ぞれの学校規模等状況に応じて、総合的な学習の時間や社会科見学等を活用し、全学年において、必要に応じて小小連携を進めていく。また、学園の連携事業の際には、学校別でなくグループ編成を行った上で、交流するという視点も大切にしながら取組みを進める。
○園所で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見通した実践研究が意欲的に進められている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、子ども達の成長を連続的なものとして捉える際に役立てながら、園所と小学校との連携を一層進める。また、網野学園全教職員による園所参観及び全体研修会での園所の実践報告を通して園所の教育・保育の理解を更に進め、就学前から中学校卒業までの目指す姿の共有と系統的な教育、一貫した指導を行う。	○「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び「保育所保育指針」、「小学校学習指導要領」がすでに園所、小学校で全面実施となり、令和３年度には中学校でも全面実施となる。児童・生徒が見方・考え方を働かせて何をどのように学ぶか、学びの質を高めていく必要がある。そのため「確かな学力の育成」に向けた大きな柱として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、Ⅱ期の授業づくりを中心に研究を深め、実践を積み上げる。 ○網野学園の授業研究のテーマを基盤にして各校の授業改善の充実を図る。なお、授業研究の教科等については、それぞれで決定し研究を深める。 ○主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業デザイン、ゴールの姿をイメージした単元全体を通した授業づくり（単元構想シートの作成・活用）について、研究、実践を推進会議が中心となり進める。なお、学力向上に関する内容について協議する際は小中連携加配も参加する。 ○GIGA スクール構想による一人１台のタブレット導入に見合った授業改善を進めるため、教員が授業のゴールの姿を明確にした授業を構想し、授業スピードをあげ、子どもの活動時間の確保、適応題・活用題を解く時間を確保し、学力の向上を目指す。また、授業における合同の取組みや共同学習などの取組みに活かす。 ○確かな学力を身に付けさせるため、推進会議が中心となり、各校の実態や状況を交流し授業改善に活かす。また、各種テストの分析を丁寧に行い、学園として共通した課題に対して統一した手立てを講じる。その機会として学力充実月間（年３回）を捉え、学園として家庭学習・基礎学力の定着等に取り組む。特に家庭学習については、保護者とも連携し、家庭学習習慣の定着・内容の充実（自主的な学習）を目指した取組みを更に進めていく。 小学６年生においては、思考力・判断力・表現力を付けるために、単元終了時に学習内容の理解度・定着度の検証や把握をするため、単元総括テストを作成し、実施する。小学４年生においては、Ⅰ期の最終学年であり、基礎基本の定着に向けて小４ふりかえり学習を実施する。
△網野学園の課題の一つとして、家庭学習が十分定着できていないことがあげられる。低学年、中学年、高学年、中学校とあがるにつれ、目標とする家庭学習の時間は増えていく。今年度のアンケート結果を見ると、低学年から中学年へはスムーズに移行しているが、中学年から高学年、高学年から中学校に向けての移行で躓いている実態が見られる。 △行動連携『どの家庭でも、幼児から大切にする「これだけは！！」（家庭編）』の中の、規範意識の基礎の確立の中で、「テレビ・ゲーム・インターネット・ＳＮＳなどのルールを決める」を挙げている。しかし網野学園生徒指導部会のアンケート結果からも、大きな課題となっているため、生徒指導部、養護部が連携し課題克服に向け取組みを進める。 △学園評価アンケートから、「自己肯定感」や「将来の夢や目標」を持つ児童生徒の割合が学年が上がるにつれ、減少する傾向にある。自己肯定感を持ち将来を展望できる力を育むことができるよう、より一層豊かな人間性を育む学習や活動を取り組んでいく必要がある。	○家庭学習を充実させるため、学園としてⅠ期からⅢ期までの指導指標を示し、家庭学習における目指す子どもの姿を児童・生徒、教職員、保護者が共有し家庭学習に取り組み、確かな学力を付けていく必要がある。また、家庭学習がんばり週間においては、園所では保護者による読み聞かせを行い、小・中学校では情報端末機器利用についての指導を行い、家庭との連携を図りながらメディアコントロールできる力を育成できるよう進める。 ○情報モラルについての出前授業（学習会）を、小学４年生、中学生、網野学園保護者を対象に、網野中学校を会場として実施し、経営会議、運営会議が主体となって運営する。保護者の部（子育て講演会）については網野学園と保幼小中一貫校ＰＴＡの共催として行う。 ○社会的にもゲームやインターネットの使用による健康被害（ゲーム依存症）が問題になっていることからも、自己コントロールできる力を身に付けるために、生徒指導部と養護部が連携しながら、系統的な指導を進める。 ○学園評価アンケートについては、指導と評価の一体化の視点から、年度当初に評価内容等の見直しとその周知を行い、目標達成を意識した実践ができるようにするための改善を図る。

（別紙様式２）

令和２年度　丹後学園保幼小中一貫教育報告書

１　「目指す子ども像」、教育目標

①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子　【知】
②自分を大切にし、人を思いやれる子　【徳】
③ねばり強く身体をきたえる子　【体】
教育目標「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」

２　保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組みの柱とする内容

①研究主題を『子どものコミュニケーション能力を育成する。』～生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係～として、コミュニケーション活動を重視する中で、「主体的・対話的で、深い学び」となる授業改善、確かな学力の育成につなげる。
②保育所・こども園・学校間が連携して、就学前から中学校卒業までを通して適時性、一貫性・連続性のある教育課程を編成し、小中合同事業・保園小接続に係わる事業・小小連携合同事業と３つの事業の充実を目指す。特に、今年度は、保園小に関わる事業を重点に研究を進める。
③丹後学園の取組みや事業等を積極的に発信することで保護者や地域の方の理解を一層深める。

３　保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 （実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等）
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	①子どもの交流を図る行事等の実施を通して、「集団生活の中で人と関わる力」や「コミュニケーション能力」を高める。 ②重点教科を「算数・数学」とし、他教科の指導についても同様に主体的な学びに向けた実践を積む。 ③全体研修会、授業を通した研修会（３回）、学年部会を通した研修を計画的に実施し、目指す子ども像の実現、目指す教師像の意識化に努める。 ④月１回の計画的な経営会議（校園所長会議）を開催し、正確な実態把握に基づく方針を策定し、全教職員への情報提供を行う。	○新型コロナウィルスの影響で休校や制限が入り、経営方針や計画に従って、学園経営を予定どおり進めることができなかった。しかし、困難な状況の中ではあったが、部活動体験、授業体験等は実施することが出来た。また、本年度は丹後学園学校運営協議会を立ち上げることができたことは、大きな成果と言える。 ○運営会議・教育課程会議と学力充実部会・教育相談部会・生徒指導部会・保園小接続部会の４つの部会の実践について成果・課題を明確にし、今後の方向性を示し取組みを進めることができた。 ○学年部会で取り組む研究課題を引き続き設定したことにより、学年部会が充実し教材研究や指導方法の共通化等に取り組むことができた。さらに、目標と指導と評価の一体化を目指した授業研究をすることにより単元総括テストを作成することができた。 《事務局会議（代表・庶務・学園コーディネーター）》 ○事務局会議を開催し、各部の取組み状況や学園内の教育課題の把握・整理を行い、教育目標を実現するための調整・事務作業を行った。 ○学園経営方針に基づき、運営上の課題の検討や調整を行い、各校での年度初・末全体研修会を実施するための事前準備、事務作業等を進めた。 ○経営会議の内容について即日コーディネーターがまとめ、各校・園・所に発信した。 ○教育目標、目指す子ども像を学園単位で設定し、そ

		の実現に向けて一貫性のある教育活動を進め、実践を積み上げることができた。 ○各学校等で課題に応じた教育実践を行い、校種を超えて連携を図り、全ての学校等が中学校を卒業する姿を想定し、目指す子ども像を共有していく意識が高まった。 ●次年度さらに保幼小中一貫教育を推進していくため、子どもの成長につながった具体的な指導方法の資料化や子ども像への到達についての検証が必要である。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	①就学前から中学校までの一貫した生徒指導、自己有用感を高める生徒指導を進　め、コミュニケーション能力の育成に努める。 ②指導方法の系統性や一貫性を重視するために、「目標と指導と評価の一体化」の観点から算数・数学を研究し、指導の方向を２小学校でそろえる。 ③総合的な学習の時間を活用した「丹後学」を教育課程に位置づけ、実践研究を進める。 ④学習指導・生徒指導を大きな柱として、10年間を見通した取組みを展開する。 ⑤小１プロブレムを解消するための、保育所やこども園と小学校との連携を進める。 ⑥中１ギャップ解消のため小学６年生と中学生との交流事業や体験学習等を推進する。	○丹後こども園長、宇川保育所長を含め経営会議を実施し、連携を図ることで一貫した指導について取組みを進めることができた。保幼小の取組みでは、子どもたちの交流により小１プロブレムの解消につながったことや、接続プログラム・スタートカリキュラムを見直し改善を図り、実践したことにより円滑な接続となった。 ○「中学校授業体験、部活動体験」「小学校合同校外学習」「今年度は丹後・宇川合同での１年生と５歳児のなかよし交流」等、内容の充実を図りながら計画的に進めることができた。 ○「丹後学園生活のきまり」「にこちゃんはっぴいーでー（交通安全・挨拶）」の取組みだけでなく、各校で積極的な生徒指導の取組みを行う中で、コミュニケーション能力を高める機会につながった。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	①２小学校が集合して実施する事業と各校で共通して実施する事業を行う。【２小学校合同事業】 ②教職員全体研修会・授業研究会を年間３回実施するとともに、保園小接続部会や期別部会・学年部会を開催して、それぞれの課題の改善や解決に向けた取組みを実践する。 ③中学校１年生入学後１カ月ごろの状況及び出口となる中学３年生の授業公開を行い、多様な視点で課題共有すると同時に指導について研究協議を行う。（第Ⅱ期及び中３の公開授業）【小中合同事業】 ④教職員間…学年部会での授業研究会・統括テストの作成 保園小接続部会でのスタート研修会【保園小接続に係わる事業】 ⑤保園小の子ども…５歳児と小１年生との交流会（２回）	○自己有用感を高め、言語活動をとおして主体的な授業を推進するために小・中学校で「丹後学園学びの指導（指導の視点、学びの力）」をもとに、各校で授業研究を行うことができた。 ○部活動体験・ふれあい交流会等、児童生徒は交流を通して中学校生活への不安を解消する機会になった。 ○合同修学旅行、校外学習、小小の交流が深まり、コミュニケーション能力を高めたり、豊かな学習を創り上げたりすることができた。 ●行事の精選、研修設定を工夫し、適切な時期に実践できるようにしていくことが必要である。

	保園小の教職員…５歳児と小１担任の夏季研修会、テーマは「話す・聞く」	
家庭、地域社会との連携、情報発信	①「丹後学園教育応援会」の機能化と充実を図る。（年間２回） ②「丹後学園だより等」を発行し、保護者や地域に配付することで、理解を得られるようにする。また、各校のホームページにて、取組みの状況を発信するように計画する。 ③学校支援ボランティアの方々による支援をいただき、教育活動の内容充実に努める。	○学園だより・ホームページ・リーフレット等により、情報発信を行い広く学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。 ○丹後学園教育目標をふまえ、丹後保幼小中一貫校ＰＴＡとして共通の目標と活動方針を設定し、連携・協同した取組みを行うことができた。（6 月、11 月の 15 日を一斉挨拶運動） ○学校と家庭、地域社会の横の連携を深めるために丹後学園学校運営協議会の会議を立ち上げ開催することでき、保幼小中一貫教育の支援、協力、理解を得ることができた。 ○学園評価計画に基づいて、アンケート等をとり、改善に生かすことができている。 ●保幼小中一貫教育の成果をさらに広く発信し、地域住民へ学園の重点が浸透するように本年度の取組みを継続していくことである。

4　今年度の成果と課題　改善方策

成果と課題	改善方策
【今年度の成果】 ①導入準備期間を含め６年間行ってきた実践を活かして、本実施５年目の丹後学園の経営を行った。組織や会議について当初計画したことが、コロナ禍で、変更を余儀なくされたが、安全を優先し、可能な範囲で実施できた。 ②丹後学園運営協議会（名称：丹後学園教育応援会）を立ち上げ、地域への啓発に心がけ、活動が前へ進んだ。 ③小・中学校だけでなく、こども園・保育所も含めた取組みの実践を進め、『子どものコミュニケーション能力を育成する。』を研究主題に掲げ、各保園小中のそれぞれの実態に合った研究が進んだ。保育所やこども園の園児の状況を学園として情報共有を行うことができ、保園小の接続に関する学園としての研修が進んだ。 ④小１プロブレムを解消するための、保育所やこども園の園児の状況を学園としての情報共有と交流を丁寧に行い、令和元年度の「教育フォーラム」で発信した「丹後学園」の研究をさらに深めてきた研究の推進を行った。 ⑤小学校間（校区２小学校）の学年ごとの合同学習、修学旅行等を行い、児童の交流が深まると同時に教員の指導方法等の交流も深めることができた。 ⑥２学期末に６年生の授業参観と懇談をもつことによって、小中の連携の円滑な接続が組織として積極的にできた。小学校においては、３学期にどのような力をつけて中学校に送り出せばよいのか見通し	○経営会議は、次年度も、学園内の教育課題、各会議や部会等の活動状況を把握しながら、恒常的に課題を整理や新たな取組みを提起し、学園経営を行う。 ○各会議・部会担当校園所長は、経営会議に事前連絡、事後報告及び決裁を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組みを進めていく。 ○部会は、学力充実部、教育相談部、生徒指導部・保幼小接続部の４部会とする。 ○教育課程会議兼学力充実部会については、教務主任が担当し、学力の調査・分析や学力・授業力向上を図る計画・実践に関わる進行管理、検証等を行う。 ○令和３年度京都府給食研究会に向けて、学園の中に対応する特設組織をつくる。 ○令和２年度と同様に、重点的な取組み内容として「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力」「評価を通した取組みの充実」を設定していく。 ○保幼小接続部として、保育所・こども園の保護者に対して、小学校で必要な力や社会性など一緒に学べる機会を設定していく。 ○授業研究については、「主体的・対話的で、深い学びの授業づくり～生徒指導の３機能を生かして～」を研究主題として学園で研究を行う。全体の授業研究会では、児童生徒の実態や課題から、教科を国語に決め研究を深める。また、算数科も軽視できない状況であり、学年部会では、算数科の授業づくりを互いに検討・交流し充実させる。 ○小学校で気になる児童が、中学校で適応しにくくなることもあるので、児童の見立てや支援、家庭との連携を大切にして教育相談活動を行い、小学校での様子（本人・

をもつことができ、中学校においては、余裕をもって各学校の集団の雰囲気や児童の実態や課題などの把握ができ、入学後の見通しがもてた。 ⑦小学校在籍中１５日以上欠席のある児童の個別記録「丹後学園教育相談ファイル」を作成し、実態や指導・支援のあり方等を円滑に中学校に接続する予定である。 ⑧限られた中であってもリモート研修などの工夫を行い、小学校と中学校との教職員の意見交流及び合同研修を通して、相互理解を深めることができた。また、実態に応じた指導方法の工夫・改善について、各校ごとの授業研究会を通して研究協議を行い、前進させることができた。また、ゴールとなるめざす中学３年生の姿を共有することができた。 ⑨昨年に引き続き、算数・数学の指導を中心に研究を行うことで、目標と指導と評価の一体化を目指す授業づくりの研究の充実を図ることができた。 【今年度の課題】 ①今年度の研究テーマを継承しながらも、児童生徒の実態から、次年度は国語の教科研究を深めていく。 ②学力向上に資するための「モデルカリキュラム」の活用をさらに進める。 ③総合的な学習の時間の学習内容に重複があるので、丹後学園としての総合的な学習の時間の系統立てた内容づくりが課題としてある。	家族・医療との連携等）を丁寧に記録に残し、中学校につないでいく。 ○学園ＰＴＡと連携し、「家庭学習の手引き」を活用しながら、家庭学習習慣の確立を目指した取組みを更に進めていく。 ○ケース会議等を通じて、本人を取り巻く生活環境や保護者の生育歴等の実情を踏まえるとともに、子の将来を見据えた指導の支援策を関係機関と連携を図り、対応していく。 ○「コミュニケーション能力の育成」に関しては、生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係）を生かした取組みを充実させていく。特に、授業の中にも生徒指導の３機能を生かした実践を積み上げていく、積極的な生徒指導を行う。また、学校や地域社会の一員として集団の中で人とかかわる機会を生かし、コミュニケーション能力を身につける。 ○学園評価について、令和３年度についても、目標を立て、指導し、評価をしていき学園経営を実践していく。また、教育目標の達成に向けた取組みの成果と課題をより明確にさせ、具体性のある改善策を検討していく。

（別紙様式２）

令和２年度　弥栄学園保幼小中一貫教育報告書

１　「目指す子ども像」、教育目標

【ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成】

２　保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組みの柱とする内容

１「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりの推進
・授業実践力等の向上（他校種研修、授業研究会、全体研修会等を通じて）
２　自尊感情の醸成を目指し、生徒指導の３機能を生かした実践の推進
・異年齢の交流活動、自尊感情、自己有用感、上級生への憧憬
３　教育活動全体を通して「思いやる心」の育成
・教科としての道徳の授業改善
・情報を吟味し精査する力の育成

３　保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 （実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等）
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	１「自立の基盤をつくる」 弥栄学園として保幼小中一貫教育の取組みを計画的に進め、着実な実践と評価をする。 （１）学園内の教育課題、各会議、部会等の活動状況の把握、指導助言 （２）発達課題をふまえた指導の系統性を重視 ２「教職員の連携」 教育目標、目指す子ども像等を共有し、重点課題及び取組みの柱を定め、実践する。 （１）学力の定着、コミュケーション力、規範意識向上、教職員の資質向上 ３「信頼される学園」 学校・園・家庭・地域社会が連携した「横の連携」を深め、教育目標の具現化を目指す。 （１）弥栄学園運営協議会との連携、教育環境づくり	○経営会議が運営会議、教育課程会議、学力充実部会、その他学年会を含めた各部会の取組みの進行管理と評価をその都度行うことで、弥栄学園として保幼小中一貫教育の取組みが計画的に進められるようにした。 ○重点課題『主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり』『自尊感情の醸成を目指し、生徒指導の３機能を生かした実践』『思いやる心の育成』について、学園での授業研究会や交流行事、各校での授業づくりの取組みや行事等、様々な教育活動を通して取り組むことができた。 ○弥栄学園運営協議会が新しいメンバーでスタートした。今年度はコロナ禍のため、学園の取組みを見ていただく機会がなかったが、学校関係以外の方が多く含まれているので、来年度以降様々な視点から多様な意見を頂き、学園の教育活動にいかしていきたい。 ○地域のボランティアの方々にお世話になり、それぞれの園、学校の教育活動や弥栄学園の交流行事を支援していただいた。子どもたちと地域の方々との交流が深まるとともに、学園の取組みに対しての地域の方々の理解が進み、学園・園・家庭・地域社会が連携した「横の連携」を深めることができた。 ●コロナ禍のため、全体研修会が年間を通じて中止となり、学園の教育目標、目指す子ども像、重点課題及び取組みの柱について、学校、園ごとの確認となり、学園全体としての研究を深めることが難しかった。

就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	1　学力向上、授業づくり （1）園小中の接続を意識 ア こども園参観、実態報告後研修 （2）授業研究等 ア 公開授業後の研究協議（日々の授業に生かすポイント、課題の整理等） 2　教育活動全体を通した「思いやる心」の育成 （1）子どもの実態を把握し、適切な指導について研究協議を行う。 ア 合同研究会 イ 公開授業 ウ 況交流 （2）交流活動の活性化を図る。 ア 幼児、児童、生徒の交流活動（幼小連携、小中連携） （3）生徒の３機能を生かした実践を推進する。 ア 自尊感情の醸成 3　いじめ、不登校等に関する情報の共有化 （1）配慮を要する児童・生徒の実態交流をもとに学園としての指導・支援の在り方につい研究する。 ア 引継ぎシートの活用 イ 指導、支援方法の在り方の研究	○「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりを、「他者の意見をふまえ、自分の意見をもち、発信する力をつける」の研究主題に授業改善に取り組んだ。今年度学園全体の授業研究会は、一度しか開催できなかったが、それぞれの学校で実施した公開授業に他の学校にも参加を呼び掛ける等して、学園として授業づくりに取り組んだ。 ○学園の授業研究会では、参観の視点が明確で、教育課程会議から学園としての主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりについての説明があり、小中の校種の違いや教科に偏ることなく協議を深めることができた。今後の授業づくりについて『単元の学習計画を児童生徒と共有する』、『やってみたい、考えてみたい学習課題やねらいの設定』等、学園全体で意識することが確認できた。 ○「円滑な接続ができるよう０～Ⅰ期、Ⅲ期を充実させる」ことを学園の取組みの柱とし、学園全教職員による０期やⅢ期の授業参観等を予定していたが実施できなかった。しかし、授業研究会や園小接続部会等では、それぞれの発達特性に即してⅠ期からⅢ期にふさわしい効果的な指導方法等を確認・共有することができた。 ○経営会議で、こども園、小学校、中学校の園児、児童、生徒の状況（生徒指導の状況、不登校等）を交流した。家庭環境や地域の情報を共有することにより、各校、園での指導にいかすことができた。 ○教育相談部会において、引継ぎシート等をもとにした子供の交流や分析は、組織的・計画的に支援を行うための資料として役に立った。 ○教育相談部会にスクールカウンセラーが参加し、不登校等に対して専門的な助言をいただいたり、校内研修の講師、ストレスマネジメントの授業をしていただいたりすることで、新たな指導の視点を学んだり、児童生徒・保護者に対する適切な対応や、不登校の未然防止につなげることができた。 ●今年度、学園の全体研修会で、京都教育大学の植山教授をお招きし学園の重点である「主体的・対話的で深い学びを支えることばの力の育成」について講演していただく予定であったがコロナ禍により中止となった。授業づくりや評価などについての講演、研修の場を毎年企画し、指導力向上につなげていく必要がある。 ●よりよい人間関係の構築、自尊感情の醸成を目指して、生徒指導の３機能を視点として、「思いやる心」の育成のため、教科としての道徳の授業改善に継続して取り組む。

幼児児童生徒、教職員の交流と協働	1　子どもの活動 （1）幼小・小小・小中の交流活動 　ア 体験授業、合同授業、部活体験等 2　教職員 （1）全体研修会 （2）保幼小中合同授業研 （3）出前授業（中から小へ）	○小学５・６年生を対象に部活動体験を行った。多くの児童が、中学入学後の部活動に期待を寄せており、部活動が経験できたこと、中学生と交流できたことを喜んでいた。児童の中学校入学に対する不安を軽減するとともに、中学生にとっても自尊感情、自己有用感を感じられる生徒指導の３機能を生かした取組みになった。 ○中学校への入学説明会が中止となり、体験授業を各小学校に出前の形で行った。児童は、中学校の授業の雰囲気に触れ、中学校入学が楽しみであると期待を高めた。 ○小学１年生と年長児との合同交流を行い、一緒に楽しく交流できた。園小の接続に、大きな効果が見られるので、今後も継続して取り組んでいく。 ●コロナ禍により、保幼小中の交流行事の中には内容を変更したものや、中止となるものもあった。これまで、交流行事が小学校入学や中学校入学の際の子どもたちの不安を軽減することに大きな役割を果たしていただけに入学後の子どもたちの様子をこれまで以上に丁寧に対応する必要がある。 ●小中の交流行事の運営や学校間の調整について特活部会と運営会議の関わりについて検討の必要性が感じられた。来年度の学園組織の見直し（特活部会を廃止し、運営会議がその役割を担う）を行う。 ●園小の交流行事について、こども園と小学校がそれぞれの交流行事に対するねらいをもとに、学園の重点課題や研究主題を考慮し、系統的な視点をもった交流になるように打ち合わせ・計画する。
家庭、地域社会との連携、情報発信	1　連携を図る （1）PTA、地域ボランティアの協力 　ア 登校時のあいさつ、交通安全指導 　イ マラソン大会時の交通安全 　ウ 学校行事参観 （2）情報発信 　ア　リーフレット作成 　イ　たより、HP による行事等紹介	○こども園、小学校、中学校がそれぞれに、たよりやホームページで各校の取組みを発信するとともに、学園ニュース（教職員向け）、保幼小中一貫教育だより（保護者、地域向け）や学園ホームページでタイムリーに情報を発信し、学園の動きを広報した。 ○学園のリーフレットを作成し、保護者や弥栄学園運営協議会その他地域の方々に配布したり、弥栄町区長会や弥栄学園運営協議会で学園の活動を紹介したりして、弥栄学園の活動についての啓発を行った。 ●学園の活動や教育目標に対してさらなる理解や協力を得るために、啓発活動と同時に弥栄学園 PTA と連携した活動にも取り組んでいきたい。

4　今年度の成果と課題　改善方策

成果と課題	改善方策
1　経営会議 （1）年間を通して、各会議・部会の取組みの成果や課題を明確にし、教育実践の方向性や到達点を明らかにした。 （2）月１回のペースで定期的に会議を設定し計画の進捗状況や園・各校の状況も交流しながら計画を進めることができた。 2　肯定的評価、課題（アンケートから） （1）話し合い活動を重視した指導を継続し、その成果として話し合い学習が児童生徒にも意識化されている。また、人前で話すこと、友達の意見を聞くことの意識を高めている児童生徒が増えている。 （2）「弥栄町のことが好きだ」と肯定的に回答した児童生徒の割合が 93%にのぼり、弥栄学園が大切にしている「ふるさと愛する」気持ちが育っていることが分かる。 （3）コロナ禍ではあるが、家庭学習の継続した取組みにより、自分から進んで学習する児童生徒が昨年より増加した。 （4）「自己肯定感」が小中学校ともに全国平均より低く、「将来に夢や目標がある」については、ほぼ平均的である。 （5）多くの保護者から保幼小中一貫教育について理解が得られているが、「分からない」と回答しているこども園の保護者の割合が 20%と高い。 （6）合同研修会の効果を肯定的に評価する教員の割合が 92%に達しており、研修の意義が実感できるものとなっている。 （7）「配慮を要する児童生徒の指導等により不登校の減少や未然防止につながっている」と考える教員が昨年よりも増え、学校間の児童生徒の情報交換が組織的に行えている。	1　次年度の京丹後市保幼小中一貫教育授業研をとおして、小・中学校での授業づくりに力点を置き、各指導区分の充実をめざした研究を深める。 （1）保幼小中学校１０年間を見通した指導展開をしていく。（園から小、小から中への発達過程を踏まえて、系統的な計画を意識して進める。） （2）他者の意見を尊重し、自分の意見をもち、発信する力をつける。 （3）外部から講師を招き研修の機会を設ける等指導力の向上につなげる。 （4）ＩＣＴを積極的に活用し、授業づくりや交流行事にいかす。 2　よりよい人間関係の構築、自尊感情の醸成を目指して、生徒指導の３機能を視点として、「思いやる心」の育成のため、教科としての道徳の授業改善に継続して取り組む。 3　交流・連携活動により体験活動を活性化する。 （1）園と小、小と小、小と中との活動により、自信と責任、自己有用感を身に付け、上級生への憧憬の念を高める機会とする。 4　学園の教育目標の具現化を図るために、機能的な動きに加え、効率よく取組みの運営ができるように組織を整理する。 （1）教育課程会議の中に学力充実部を統合する。 （2）特別活動部会を廃止し、小中の交流活動の企画立案や連絡調整は運営会議が行う。 （3）学年会を協議の内容によって、学年ごとの開催や低学年部、中学年部、高学年部の開催とする。 （4）特別支援学級担任会を学年会の一つとして位置付けるとともに、教育支援部を廃止する。 （5）京丹後市授業研究会に向け、教育課程会議に校長１名、教頭１名が入る。 5　その他 （1）積極的な公開や情報発信 （2）関係機関、地域との連携（運営協議会との連携）

（別紙様式２）

令和２年度　久美浜学園保幼小中一貫教育報告書

１　「目指す子ども像」、教育目標

［教育目標］
「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成」
［目指す子ども像］
（知）意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども
（徳）自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども
（体）心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

２　保幼小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組みの柱とする内容

（１）中期的な展望（取組みの見通し）

年度	教職員の意識	学力	ギャップ（不登校）
２８（1年次）	各校の取組みの共通点をベースに取り組む	共通項をもとにした取組み	保幼小の接続・各校の取組み交流
２９（2年次）	学園中心の事業の展開・10年間のカリキュラム（必要な教科）検討	授業についての論議・これだけはの推進	児童生徒の情報共有・指導の継続性
３０（3年次）	中3卒業までに付けたい力と指導についての教職員による論議	接続を意識した授業スタイルやスキルの追求	情報共有・指導の在り方確認
１（4年次）	指導の充実期・新学習指導要領と新教科書への対応（小）	接続を意識した授業スタイルやスキルの追求	情報共有・指導の系統性確認
２（5年次）	久美浜学園保幼小中一貫教育の継続した取組みの整理とまとめ・新学習指導要領と新教科書への対応（中）	授業スタイルの充実	情報共有・学園としての指導の継続

（２）重点目標

「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」～子どもの実態や系統性を踏まえた指導～

（３）指導の重点

『学力向上』①基礎・基本の徹底　②主体的に学ぶ力の伸長（授業づくり）　③家庭学習時間の確保

（４）取組みの柱

ア　10年間（就学前から中学校卒業まで）の幼児児童生徒の成長発達に全教職員で責任をもつという意識の向上
　(ｱ)久美浜学園全教職員がチームとして、みんなでやるという協働意識を醸成する。（対話と理解）
　(ｲ)目指す授業として、学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識する。その上で、学園テーマとして、「主体的に学ぶ力の伸長」を設定し、すべての教職員で幼児児童生徒が自らの主体的に学ぶ力を伸ばすための教育活動を進める。
イ　各校園所における規範意識の醸成を基盤とした落ち着いた学校（園）づくり、授業づくり
　(ｱ)生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）を生かした「わかる授業」により規範意識を醸成し、学ぶ意欲を育てる。
　(ｲ)基礎・基本を徹底し、基盤となる力を十分付けきる。
　(ｳ)系統的な「言語能力」の指導とスキルの向上を目指した取組みを進める。
ウ　子どもの交流行事並びに教科指導交流の推進による行動連携強化
　(ｱ)共に学ぶ意識を育て、子ども同士を結び付ける保幼小、小小、小中における交流行事
　(ｲ)豊かな教科指導を目指す指導交流（保幼小連携、小小連携、小中連携）
エ　保護者、地域とともに「久美浜を支える人づくり」の視点に立った取組みを進める。
　(ｱ)ＰＴＡ、学校運営協議会、地域学校協働本部事業との連携
　(ｲ)家庭学習時間の確保に向けた連携

３　保幼小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 （実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等）
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の	(1) 経営会議を中心に組織的且つ丁寧に、実態や課題、目標、方針等の共通認識を図り、久美浜学園としての共通確認・共有を図る。 ア　年度当初の学園全体会での提起と	○久美浜学園７校園が一つの目標に向かって取り組むことができ、保幼小中一貫教育を手段として取り組んだ。今後も「理解と対話」を進め、その上で具体的に取組みを進める。 ○テーマや子ども像を受けた様々な取組みの中で、教

共有方策	全体研修会での全教職員による協議を通して、共有を進める。 イ　年３回の公開授業と交流会で、教職員同士の「理解と対話」の充実を図る。 (2) 保幼・小・中で共通指導内容を確認し、ＰＤＣＡで改善を図りながら共通理解を深める。	職員が交流する機会が少なく、例年に比べて相互理解という点では弱かった。今後も丁寧に進めつつ、学園全体で取り組んでいる意識を高める。 ○共通指導事項を確認し、指導を継続していく。今後も、常に目標やめあてを振り返りながら進めていく。
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	(1) 子どもの育ちと指導の一貫性を目指した教育課程編成 ア　考えを深め、コミュニケーション能力を高める学習の推進 イ　郷土への愛着と誇りをもち、人とつながる力を育てる学習の推進 ウ　保幼小の接続を中心とした教育課程編成 (2) 重点指導 ア　学力向上 (ｱ) 授業規律の確立 (ｲ) 基礎学力の定着と活用力を育てる授業づくり イ　不登校の解消 (ｱ) 規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立 (ｲ) 学級活動の充実と児童会・生徒会活動等自主活動の活性化 (ｳ) 自尊感情の高揚 (ｴ) 保幼・小・中の連携強化 ウ　今日的課題（情報機器の安全な取り扱い） (ｱ) 「法やルールに関する教育」の推進 (ｲ) 人権教育の推進	○学園テーマ「主体的に学ぶ力の伸長」を各校で追求し、ICTを活用した授業づくりを進めて研究の成果を市教育フォーラムで発信できた。 ○学園独自で作成したアプローチプログラム、小１スタートカリキュラムの実施状況を検証し、よりよいプログラム等になるように改善した。 ○久美浜学園「身に付けたい言語能力表」や小中共通指導事項を確認・検討して取り組んだ。 ○小学校でつける力を意識でき。6年生の春休みの課題について見直すことができた。 ○ＩＣＴを活用した授業づくりについて、どの場面で、どのように使うのか各校で研究を進めた。今後は授業スタイルの中にＩＣＴを組み入れ、より効果的な活用についての研究を深める。 ○ＰＴＡ・保護者会を巻き込んだ久美浜学園共通の「家庭学習がんばり週間」の取組みを進めることで、学習習慣の定着を進めた。教育課程会議から家庭学習時間の確保、養護部会では保健指導、生徒指導部では情報機器に関するアンケートを行いメディア・コントロールを学園全体で進めた。 ○教育相談部会では、スクールカウンセラーによる個意義を行い「自己肯定感を高めること」について研修し、各校・園所の情報の交流と指導方法の連携を進めた。 ○不登校については、兄弟で同じ状況になっている家庭もあり、小中で指導等について連携し取組みを進めた。 ○学校生活の充実感を味わわせることや基本的生活習慣の確立を各校で図ること、教育相談部における事例研を通して、不登校の未然防止、解消に取り組んだ。 ○情報機器の望ましい活用（情報モラル）のための特別講演会を小4、全中学生対象に実施した。次年度は小３も対象にする。
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	(1) 全体会、全体研修会、学校園公開授業と分散会、学力・授業づくり部会、生徒指導・不登校防止部会、学年部会を中心とした教職員の交流と協働 ア　中学校卒業時の生徒の姿を常に意識した協議 イ　児童生徒の実態交流に基づく具体的な取組みの推進	○全体会・公開授業、交流会等の教職員の行動連携につながる取組みは中止となったが、少人数で集まる部会は回数を減らして実施した。実際に子どもの姿を見ることで、保幼小中の指導の連続性をより確かなものとできるので次年度も計画していく。 ○教職員の行動連携においても、交流の継続の大切さと同時に、資料の相互提供など工夫も行う。 ○各校の授業研の案内を出し、相互参観ができた。事

	ウ　「主体的に学ぶ力の伸長」の系統性を意識した指導を目指す授業研究 (2) 学校、校種間をまたがった指導の推進 ア　小小連携、小中連携、専科教育、出前授業等、人的交流をもとにした協働 イ　振り返りスタディ等指導面での協働 (3) 幼児児童生徒の行動連携 ア　保幼の連携 イ　保幼小の連携 ウ　小小連携 エ　小中連携	後研究ができた学年もあった。 ○教育課程会議を中心にICTの活用について各校の取組みを集約し、学園だよりによって情報共有し研究が進んだ。 ○児童生徒の行動連携事業についても、取組みに価値を見出し、そのことを活用して日々の指導に生かす。 ○小小連携事業の内容や時期については再検討を望む意見がある。今後、オンラインを活用した交流も行っていく。 ○ねらいは中学校での出会いのための「仲間を知る」ということにしぼり、負担の無いように進めていく。 ○小中連携は部活動見学交流会だけの実施であったが、不安解消になったと児童アンケートで答えていた。 ○児童会・生徒会の合同会議はオンラインで2回実施できた。
家庭、地域社会との連携、情報発信	(1) 久美浜学園小中一貫教育に係る目標、活動等の広報及び啓発 ア　たよりの発行（学期1～2回程度）、有線放送による取組み紹介 イ　リーフレットの作成（4月保護者参観等で配布、説明） ウ　ホームページによる広報活動（久美浜学園のページ作成） (2) 基本的生活習慣の確立に向けた共通指導の確認と指導の推進 (3) 学校運営協議会の取組みを通した「久美浜を支える人」の協議 (4) 地域学校協働本部事業の積極的な活用等による久美浜町民の学校教育活動への参加と積極的支援 (5)久美浜学園ＰＴＡ・保護者会との連携による家庭教育支援	○小中一貫コーディネーターの活動により、様々な取組みをいろいろな機会を通じて広報できた。保護者アンケートでは、学園の取組みに対する肯定的な意見が増えている。しかし、今年度は事業の中止等があり、分からないという意見が多かった。 ○旧小学校ごとの6つの地区の区長会等に校長、コーディネーターが参加し発信する場を設けた。 ○学校運営協議会は2回実施し、学園の基本方針を説明し、3つの部会ごとに「久美浜を支える人づくり」について各団体との協議し学校から児童生徒の課題について提起した。市の教育フォーラムでは、取組み発表を行った。 ○多くのボランティアの皆さんの協力を得られたが、コロナ禍において活動が制限された。 ○久美浜学園独自のＰＴＡ・保護者会が一緒に取り組むことで、より多くの家庭との連携が進められた。「あいさつ運動」「家庭学習がんばり週間」等10年間を見通した取組みに一歩ずつつながってきている。

4　今年度の成果と課題　改善方策

成果と課題	改善方策
○5年間の活動について整理し、実践を重ねてきたことの価値が再確認できた。今後も積み上げてきた取組みを可能な限り続ける。 ○テーマ「主体的に学ぶ力の伸長」が授業公開と交流会は実施できなかったが、各校でICTを活用した授業づくりの研究を進め、たよりによって各校の実践の情報交流ができた。11月の市教育フォーラムでは、各校授業公開を行い、研究の成果を発信した。 ○経営会議の方針のもと企画運営会議が運営し、教育課程に関しても一致して進めるシステムがさらに機能してきた。	・令和3年度（6年次）からは新たな中期展望を設定し、取組みを進める。これまで積み上げてきた保幼小中教員の「対話と理解」をベースに、次の段階にステップアップしていく。保幼小中一貫教育推進計画の共通理解を図り、更に学校園所公開や交流会を引き続き進める中で指導方法等の継続性について論議していく。 ・学力向上に向けて、具体的な取組みを進める。拡大教育課程会議において、中学校の国語・数学担当から生徒実態や課題の提起を受け、解消のための方策を検討する。 ・今年度の研究をもとに、さらにICTを手段として活用し「主体的に学ぶ力の伸長」を目指す。

○コーディネーターの活躍により、広報・会議のまとめ・幼小中のつなぎが確実に進んだ。 ○４ＰＴＡと３保育所園・こども園の保護者会も一緒に活動でき、学園ＰＴＡ・保護者会の基盤がより確かなものになった。 ○学校運営協議会で「久美浜を支える人」について３つの部会で学校からの課題を提起して話し合った。 △幼児教育・保育における取組みについて学び、幼児から小学校への接続やその意義についての研修機会がとれなかった。 △久美浜学園の児童生徒の課題として、不登校の増加がある。各校で取り組んでいるが、具体的な成果が出ていない。 △連携部会の取組みは回数が限られている中で、ミッションを成果が見えるところまで高めることが難しかった。 △学校授業公開と交流会の成果は非常に大きなものであるが実施できなかった。各校の重点研究をベースに担任会での学び合える機会を設定したが、授業研究までは踏み込めなかった。	・児童生徒の生徒指導上の課題や不登校の課題について、肯定的評価を基盤に学園の教職員の指導観を見つめ共通化していく。教育相談部では、夏に事例研を行い、傾向や未然防止、初期対応について研修を行い、各校に広めていく。 ・校種間での情報連携や家庭支援連携を進め、不登校の未然防止や早期対応に努める。 ・指導方法の具体的な継続性を図るため、保幼小のアプローチ・プログラムやスタート・カリキュラムのほか、小中間の教育課程上の様々なギャップの解消に取り組むため授業スタイルの確立も進める。 ・授業研究に踏み込むため、各学校の重点研究をベースに担任会での学び合いを進めるため、研究授業に参加しやすくするための日程調整を行う。 ・行動連携事業はオンラインを活用した実施方法を検討する。 ・運営面ではこれまで進めてきた部会・会議や事業が実施できなくなった状況で、改めて事業等の意義について確認でき、今後を見直すきっかけになったので内容を精選していく。

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立峰山小学校　〕

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら創造的に生きることができる力を育てる。 １　将来に生きて働く質の高い学力を育てる。 ２　よりよい生き方・在り方を深く考え、自律的に行動する力を育てる。 ３　学んだことを生かして、よりよい社会の形成に貢献しようとする態度を育てる。	○学び合いを基盤とした授業改善の効果が上がった。学力診断から見える学力も良好な結果となった。 ○児童が自ら考え、課題解決力と自律性を高める学級活動、特別活動への改善が進んだ。結果として、児童の良好な関係性や行動力・判断力が高まった。 △不登校（傾向）児童・家庭への支援、愛着形成等の心理的課題、発達障害等への支援を一層進める必要がある。	すべての子どもがつながりながら、将来の社会的な自立を目指して力を伸ばし合う学校づくりを行う。そのために、本年度も ○学び合いの学習が生まれる学校づくり ○子どもが自らつながり合う学校づくり ○すべての子どもにあたたかな学校づくり をキーワードに、児童に身に付けさせる力の具体的目標を６点設定して重点的な学校経営を進める。

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	○学び合いによる学習を通して、学ぶ意欲と学ぶ力を一層高める。 ○教科指導を通して、将来の自立に生きて働く知識・技能・思考力、自律的に判断し行動する力、他者と協働する力を高める。	①児童相互のかかわり合いの中で学ばせる。話し合い、伝え合い、教え合い等を通した教科指導を行う。 ②非認知的能力の育成に着目した授業づくり研究を組織的に進め、全ての学級で実践する。 ③授業づくり月間を設定し、すべての教員がオープン授業等による日常的なスキルアップに取り組む。 ④電子黒板やタブレット端末等のＩＣＴ器機を活用する。 ⑤地域の環境・社会・人材や地元企業・高校等を活用する。	○児童の意識調査では、話し合うと学習がよく分かる95%、授業は分かりやすい98%、友達の話をしっかり聞いている97%となった。 ○非認知的能力育成の授業づくりを重点研究に位置付け、全ての学級で実践できた。 ○年間２回のオープン授業月間を実施し、学級担任相互の授業公開・参観は一人平均５回を超えた。 ○コロナ禍ではあったが、地元の人材・企業・高等学校等による10回程度の外部講師授業を実施でき、自己の生き方・在り方についての考えを多くの児童が深めた。 △ＩＣＴ教育を効果的に進め、児童の学ぶ力を一層高める必要がある。
	生徒指導	○育ち合う力をはぐくむ指導を通して、将来の自立につながる共感的な人間関係を一層醸成する。 ○組織的な児童支援を通して、学校不適応やいじめを未然防止する。	①自ら決定し、話し合い、問題を解決し、成長に気付き合う自律的・自治的で問題解決的な学級経営と特別活動を進める。 ②教育活動全体を通して、多様性を認め合い、インクルーシブ環境で育ち合う指導を行う。 ③児童支援に係る分掌活動、支援会議、ケース会議等の質・量を高め、計画的・組織的な児童支援を進め、学校不適応や不登校を改善・未然防止する。 ④スクールカウンセラー、関係機関、医療、福祉等との情報連携・行動連携を強化する。	○児童会等の行事・取組みの全ての過程を児童自らが企画実行し、児童の手による主体的・自治的で問題解決的な特別活動が展開できた。 ○児童の意識調査では、人のために力を使っている91%、問題を話し合って解決している95%、自分の仕事をやりきっている97%となった。 ○病気による長期欠席を除き、新規不登校はなし、学校不適応及び不登校の児童の出席状況も改善した。 △学校不適応未然防止の観点から、愛着形成不全等の心理的課題への対応を一層進める必要がある。

	健康（体育）・安全	○感染症予防などに自ら取り組む態度と、望ましい自立につながる基本的な生活習慣を確立させる。 ○児童の命と安全を守る。特に交通事故防止を徹底する。	①望ましい生活態度や健康づくりに向けて、児童が自ら生活を振り返り、よりよい生活に改善するための点検活動や取組みを行う。 ②家庭やＰＴＡ、峰山学園と連携し、ＳＮＳ・ゲーム等による生活の乱れや安全上の問題に対して、児童・保護者の研修・啓発・実践を進める。 ③ＰＴＡや地域の安全ボランティア組織等と連携し、登下校の安全確保と事故防止の取組みを行う。	○新型コロナウイルス対策に関し、児童会を中心に児童の発想による創造的・主体的な取組みが数々実施された。 ○峰山学園でＳＮＳ講習会を取り組み、本校からも６年児童と多くの保護者が参加した。 △生活に占めるゲーム・ネット時間の割合が高く、学習や生活に影響が出ている児童が増えつつある。 ○ＰＴＡや「峰小校区安全ボランティアの会」と連携して登下校の安全確保・見守りを毎日行い、事故０件を継続した。
	特別支援教育	○将来の社会参加に向けた自立を支援するという立場に立ち、すべての児童が学校・学級とつながって育ち合い、その子らしさを伸ばし合えるようにする。	①どの児童もわかりやすい一斉指導や、どの児童も参加できる集団活動を目指して授業や行事を設計する。 ②特別支援教育コーディネーターを中心に、通常の学級における支援を充実する。 ③本校の実情と条件に応じた特別支援教室を設置する。 ④保護者と定期的な懇談の場をもち、合意形成を図りながら、一人一人に応じた合理的配慮を実現する。 ⑤将来の社会的自立に生きる個別の教育支援計画を工夫し、活用する。	○病気による長期欠席を除き、全ての児童が行事等へ参加できた。長期欠席の児童についても、保護者や児童とのつながりを絶やさずに教育相談を進められた。 ○児童の意識調査では、先生は自分のよさを分かってくれる97％、気軽に相談できる先生がいる94％となった。 ○本校独自の特別支援教室を設置して個別の支援を計画的に行い、不適応や学習の困難さの改善が進んだ。 △個別の教育支援計画や指導計画等をもとに、確かな見立てによる組織的な支援を一層進める必要がある。
	特色ある学校づくり	○新学習指導要領の理念を実現する先進的な実践研究を行う学校にする。	①授業改善、特別活動、特別支援教育・児童支援の改善を重点として、大学等の研究機関と連携した実践的研究を行う。 ②研究成果を様々な機会を通して発信する。 ③本校の教育方針や経営方針を、学校ホームページ等で積極的に発信する。	△新型コロナウイルス感染症拡大のため、大学の研究機関との共同研究及び研究成果発信が停滞した。 ○学校ホームページに教育目標や経営方針、新型コロナウイルス対策等の各種情報を掲載するとともにほぼ毎日更新を行い、一日約1000件のアクセスがある。
次年度に向けた改善の方向性	（１）「質の高い学力」の育成のため、タブレット端末等のＩＣＴを活用して児童の学び合いの質と量を一層高める。 （２）社会性・人間性等の向上を確かなものにするため、児童の主体的・自律的な特別活動をさらに進め、学校風土として定着させる。 （３）学校不適応や二次障害の未然防止のため、不登校、愛着の形成不全等の心理的課題、発達障害に関する研修を行い、児童個々の適切な見立てに基づいたチーム支援が充実するようにする。 （４）ＳＮＳやゲーム等のメディア使用の自己管理力など、生活をセルフコントロールする力を付ける取組みを行う。 （５）特別支援学級における自立活動と生活単元学習をさらに充実し、児童個々の成長につなげるとともに、通常の学級における支援に活用する。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立いさなご小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」 目指す子ども像 1　意欲を持って自ら学ぶ子ども 2　思いやりのある子ども 3　進んで心と体を鍛える子ども	昨年度、規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基礎にして、「深い学び」を目指す指導の在り方について研究を進めてきた。深い学びの具体的な姿を全教員で確認することには不十分さがあるが、一定理解が進んだ。今年度は、新学習指導要領で目指す資質・能力について算数科を中心に研究を深める。また、「ことばの力の育成」をすべての教育活動に位置付け教育を進める。その時に、保幼小中一貫教育の各期の児童の姿をイメージして指導をする。	目指す子ども像を具体化する重点 1　自ら考え、判断し、表現する力を向上させる。 2　自らの時間と力を周りの人々や地域社会のためにもつかい、他者に貢献する態度を育てる。 3　自らの目標を設定し、根気強く、頑張り合う力を育てる。 4　保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。

	評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1　目標（評価）が明確で児童に分かりやすい授業を計画的に進める。 2　家庭学習や個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着と確かな学力の進展を図る。	1　算数を研究の柱とし、規律があり、ねらいが明確で児童が分かる授業を研究授業等によって教員が学び合う。 深い学びになる「指導」と「評価」の研究をとおして新学習指導要領において育成を目指す資質・能力について理解する。 2　学びの自立を目指すため、発達年齢に応じた家庭学習の指導を進め、個に応じた指導を充実させる。	○算数科の研究により、児童アンケートで、「学校の授業はわかりますか。」の問いに対して、97%の肯定的評価をした。 ○峰山学園の家庭学習頑張り週間と合わせ、本校では旬間として年３回取り組み、自分で学習計画を立てることができる児童が増えた。
	生徒指導	1　支援を必要とする児童へのきめ細かな目標設定を行う。 2　自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高め、学び合う集団（学級）をつくる。 3　自分の力と自分の時間を周りの人のために使うことを価値付けする。	1　特別支援教育部、教育相談部が連携し、支援を必要とする児童を的確に把握しアセンスメントを行い、保護者とともに目標を設定し、指導支援を進める。 2　授業づくりをとおして学級づくりを行うことを全教員で確認し、授業で自己存在感・共感的な人間関係・自己決定する場を設定する。また、教師が児童の良さを、児童同士がお互いの良さを学級活動、多様な異年齢集団での活動の中や通信で計画的に伝えることで、自己肯定感を高め、児童のつながりを促進させる。そうすることで、いじめを許さない学級風土を醸成する。 3　学級活動や異年齢集団での活動における、行動価値として、他者貢献の視点を常に伝えていく。	○支援を要する児童のエピソード記録を週１回教員で共有し、組織的に支援を行うことができた。 ○月、学期１回の保護者面談を継続し保護者とともに目標を共有して支援をすすめることができた。 ○児童アンケートにおいて「自分によいところがある」と肯定的評価をした児童が81%（昨年76%）増加した。今後も日々の指導において、肯定的評価を積み上げていく。

	健康（体育）・安全	1　全校的な感染症予防や体力にかかわる取組みの充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、自分自身の身体に関心を持たせる。 2　困難なことにもねばり強く挑戦していこうとする態度を育成するために、自分で目標設定できる力を付ける。	1　体育部、健康安全部等が中心となり、感染症予防の取組みを継続的に行い、保護者にも啓発することで身体への関心を高める。また、体育の授業と連動させた持久走や縄跳びを継続的に実施し、体力向上と粘り強く頑張ろうとする態度を高める。 2　学級、学校での取組みにおいて個々のめざす目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。	○「いさなご小学校感染症予防マニュアル」を作成し、状況の変化に併せて更新し教育活動を行うことができた。 △コロナ禍のため、前半期における体力向上の取組みを実施できなかった。 ○児童アンケート「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに「持っている」と回答した児童が年々増加している。
	人権教育	1　規範意識を身に付けさせ、いじめを許さない心を育て、行動できるようにする。 2　発達段階に応じた仲間意識を育成する指導を進める。	1　全教育活動を通して道徳教育・人権教育の推進、規範意識の醸成によりいじめの防止を行う。また、「他者への思いやり」についての指導を重視する。 2　互いの個性や価値観の違いを認め、得意を認め伸ばす指導を行う。	△年間をとおして友達、自分を大切にする指導を行った。児童アンケートにおいても83%の児童がどんな理由があってもいじめは許されないと認識している。しかし、していることがいじめにつながることへの意識は低い。その気付きを高めるためにも、教職員の人権に対する研修を充実させる。
	研修（資質向上）	1　職員の指導力向上に向けた研修を積極的に進める。 2　峰山学園が目指す保幼小中10年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。	1　峰山学園における研修会、校内の授業研修会等をとおして、職員の指導力向上に向けた研修を行う。特に今年度は、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修を活用し、全教員の指導力向上につなげる。 2　峰山学園の「(0) Ⅰ～Ⅲ期における「目指す姿」」を共有し、その実現に向けた取組みのあり方（Ⅰ期前半、後半、Ⅱ期における指導のポイント）について研修を進める。	○全ての教員が校内授業公開を2回以上実施し、事後研究会を行い、互いの指導力向上に努めることができた。 △峰山学園（0）Ⅰ～Ⅲ期における「目指す姿」を意識した指導を行ってきたが、その視点における評価を蓄積していく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	児童アンケートによると、「学校が楽しいですか」の質問に対して、「あまり楽しくない」「ほとんど楽しくない」と回答した児童が9%（昨年度8%）あり重大な課題であると考える。学校が楽しいかどうかは、担任との信頼関係の構築、学習の理解度や仲間関係などによるところが大きい。教員が、一人一人の様子を細かに把握し、児童との信頼関係構築を基盤にした上で、「分かる、できる、授業づくり」と「お互いを認め合う学級経営」をすすめる。また、将来の社会的自立に向けて、学習指導要領で示されている各教科における「育成を目指す資質・能力」を明確にし、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成を目指して研究を深めていく。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立しんざん小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
１　一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 ２「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 ３　保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】	○確かな学力の育成に向け、形成テスト、単元総括テストを作成し指導と評価の一体化を目指し「読む力」を伸ばすことができた。 ○生徒指導の三機能を生かした学級経営と授業作りに努め、安心して学べる学校を築けた。 ○巡回相談を活用したり障害に関わる研修会を行ったりして、効果的な支援を組織的に進めることができた。 △家庭背景、発達上の課題等が起因し、基礎学力の定着に課題が残った児童がある。	[笑顔あふれる楽しい学校] ～夢に向かって　Let's　チャレンジ ～ ◇自分なりにやってみること ◇認め合いつながり合うこと を大切にして、学園評価・学校評価の結果に基づく教育実践の改善を図り、学校経営を充実させる。

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	１　児童実態を的確に把握し学力向上に向けた組織的な研究を行う。 ２　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を組織的に進める。 ３　豊かな人間関係を構築し、自ら学び続けようとする意欲と態度を醸成する。	１　新学習指導要領の主旨に基づき、主体的な学びを育む授業改善と基礎学力の定着を目指した重点研究を組織的に取り組み、教師の指導力の向上を図る。 ２　主体的・対話的で深い学びの実現のための校内研修会やグループ研究を計画的に実施し、模擬授業を指導力向上の場として取組みを進める。 ３　数値目標を設定し、指導の工夫・改善を行う。 ４　言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を目指し児童に自己肯定感を育む。生徒指導の三機能を生かした授業づくりを学園組織と連動し追求する。	○コロナ禍の配慮をしながら学習形態を工夫し、対話を取り入れながら学びを深めることができた。 ○校内研修会では新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業研究会を、模擬授業を柱にして行うことができた。 ○児童アンケートの「学習がわかる」の項目では95%の肯定的な回答があった。 △「自分にはよいところがある」の項目では、肯定的な回答が８３％であった。さらに、一人ひとりが自分の良さに気づき、自信がもてるような指導を進めたい。
	生徒指導	１　生徒指導の三機能を生かした授業作り、学級経営を行う事で、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、豊かな人間関係を築く力を育む。 ２　いじめ事象、不登校傾向児童、問題事象等の早期発見・未然防止に努める。	１　児童の内面理解や安心して学べる教室環境を築くための職員研修を実施する。 ２　「なぜ、何のために」を意識させ規範意識や集団生活上必要なマナーや行動について考えさせ、行動できる力を培う。 ３　道徳教育、人権教育、特別支援教育の視点を大事にした取組みを組織的に進める。（児童会の取組み、日々の授業） ４　いじめをはじめとする気になる事象に関して素早く反応し「報告・連絡・相談」ができる職員の体制を築く。	○生徒指導の三機能を生かした学級経営により、落ち着いた教育環境づくりができた。「学校が楽しい」の項目では、92%が肯定的回答だった。 ○「なぜ、何のために」を考えさせる指導により主体的にルールについて考える等意識が高まった。 △学校を休みがちな児童へは、教育相談部を中心に組織的な支援を行っているが、保護者への働きかけの課題はまだ多い。また、いじめアンケートの結果は、丁寧に聞き取り等を行い、早期の解決を図ることができた。

	健康（体育）・安全	1　楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体力作り、スポーツに親しむ能力や態度を育成する。 2　家庭・地域との連携を図り安心安全な登下校を目指す。 3　基礎的な生活習慣の確立を目指す。	1　朝マラソン、朝縄跳び、日々の体育等を通し基礎体力の向上を図る。委員会の取組みを活用し「ギネスに挑戦」させ、スポーツに関する興味関心を育む。 2　発達段階に応じて薬物乱用教室、非行防止教室、ＳＮＳに関わる教室に取り組む。保護者への啓発を行う。 3　安全ボランティアと連携し見守り活動を充実させる。 4　「早寝・早起き・朝ごはん」を意識した「生き生き頑張り週間」を設定し生活習慣を確立する。 5　栄養教諭による「食」に関する講話を給食試食会の際に設定し、家庭の意識化を図る。	△運動面でも多くの制限があり、十分な取組みができなかった。縄跳びには全校で積極的に取り組み、冬季の体力つくりが進んだ。 ○薬物乱用防止教室、非行防止教室、ＳＮＳ講習会等を計画的に実施した。さらに保護者への啓発を進めたい。 ○安全ボランティアの皆さんに見守り活動を大変充実していただいた。 △生活習慣の確立では、特に「早寝」において課題が残った。帰宅後の限られた時間の使い方について今後も指導を進める必要がある。
	特別支援教育	1　障害への理解、多様性を認め合い、好ましい人間関係を築く。 2　発達障害等の特性に応じた個別の支援のあり方を組織的に検討する。 3　自閉・情緒学級を強みにし特別支援教育の視点を全教育課程に反映させる。	1　合理的配慮を含めた個別のニーズに応じた支援を目指し、専門機関と連携し検討、改善を加えていく。 2　保護者との定期的な懇談のもとに親の願いを反映させた支援計画を作成し、児童の発達を促す。 3　専門機関と連携し、様々な障害に対する理解教育を進める。見える障害、見えない障害等、様々な視点から理解教育を進める。 4　特別支援学級児童や学級に対する理解教育を取組みや行事と関連させて行う。	○苦手のある児童への専門機関と連携した取組みを進め、指導・支援を行った。 ○定期的な面談等を行い、適切で効果的な支援の検討をし、取組みを進めた。 △特別支援学級ならではの支援や指導のあり方をさらに追及し、学級存在が全校の児童にとってもプラスとなるような教育活動を進めていく。
	研修（資質向上の取組み）	1　小中一貫教育「峰山学園」指導の重点を教職員が共通理解し確かな学力を育む校内研修を実施する。 2　初任者研修を活用し、教師の指導力向上を目指す。 3　教師力の向上に向けた研修や教師の学び合いを重視し教師としての資質能力の向上を図る。	1　峰山学園が目指す「確かな学力」の育成に向けての共通理解を図った上で、重点研究を進める。 2　児童実態に基づき、確かな学力育成に向け、何をどのような方法で育むのか、その取組み内容の視点を明確に持ち組織的に研究を推進する。（学年の基礎学力定着に向けた数値目標の設定、学力充実の取組みとの連携等） 3　新学習指導要領全面実施に係るカリキュラムマネジメントの視点や評価について研修を深め、検証・改善を進める。校内研修会が教師の学び合いの場になるよう企画運営させることで、各主任の力量アップを図る。	○確かな学力の育成に向け、重点教科を算数科とし、指導と評価の一体化を目指した。各テスト結果はどの学年も概ね平均を上回っていた。 ○次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業の指定校として、実践研究を行った。生き生きと英語を話す児童の姿が見られるようになった。 △ペアやグループでの活動に制限があり、目指す授業スタイルにはたどり着かなかった。
次年度に向けた改善の方向性	・タブレットや電子黒板、デジタル教科書等、ＩＣＴ活用によるGIGAスクール構想への対応を考慮した研修（授業研究）を、全教職員で組織的・計画的に進める。 ・組織的・協働的な取組みを大切にした学校運営を行い、地域・保護者から信頼される学校づくりをさらに進めていく。 ・各種学力テストや児童・保護者アンケート等からの客観的データを生かした、教育活動を進める。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立長岡小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「峰山学園」経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して学校教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に迫る。 〈目指す子ども像〉 ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども	○全教科・領域の授業において、UD と生徒指導の３機能の視点を大切にし、目標と指導と評価が一体化を図る指導について研究を推進した。 ○特別支援コーディネーターを中心に、支援のあり方を検討し家庭との連携も含め取組みを進めた。 △主体的に自分の考えを表現し伝え合う力を付ける。 △各家庭・PTA と連携し、児童の家庭生活における課題を共有し、家庭学習の習慣化を図る取組みをさらに進める。 △学校行事や児童会行事等で付けたい力を明確に取り組み、児童と教職員、児童同士の温かな関係づくりをする。	つながる笑顔があふれる学校づくり「ながおか大作戦」 な なかよし　が がんばる　お おもいやり　か かんがえる 1　質の高い学力・コミュニケーション能力の育成 2　一人一人を大切に個性や能力を最大限に伸ばす指導 3　人を思いやる豊かな人間性の育成 4　たくましく健やかな心身の育成 5　安心・安全で信頼される学校づくり ※新型コロナウイルス感染拡大防止の取組み ※学習指導要領を踏まえたカリキュラム・マネジメント ※臨時休業による教育活動の不十分さへの対応

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1　「主体的・対話的で深い学び」の実現と自己肯定感を高める「わかる」「できる」授業づくり 2　目標と指導と評価の一体化 3　言葉の力の育成 4　全校でドリル活用・補習 5　峰山学園家庭学習がんばり週間の活用と補習の充実	1　市小研・学園保幼小中一貫教育の研究と連動し「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。『豊かにつながり、学び合う中で育まれる確かな学び』～課題に向き合い、聴き合い、深め合う子ども達の姿を目指して～」を研究主題とした算数科授業を軸に、「主体的に学ぶ力」「非認知能力」を育む研究を進める。 2　学習指導要領の理念のもと、児童実態に応じた目標を設定し、評価まで見通した授業づくりを行う。 3　ノート指導、トークタイム等の工夫、各期のねらいや接続を意識した系統性のある指導を進める。 4　全校で週２回ドリル、週１回補習の活用・充実を図る。 5　学園家庭学習がんばり週間では、目標の明確化、家庭との連携等、学校全体の動きをつくり、学習意欲向上を図る。放課後補習では、「ジュニアわくわくスタディ」等を活用する。	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、研究授業を中心に研究が進んだ。 ○研究授業を通して、見通しをもたせるために吹き出しを書くことなど具体的な指導方法の研究が進み、指導力向上につながった。 ○ノート指導、トークタイム等の工夫、各期のねらいや接続を意識した系統性のある指導を進めることができた。 △CRT、府診断テスト、全国学調等の分析結果を踏まえ、個別の指導を充実させる。 △各家庭・PTA と連携し、児童の家庭生活における課題を共有し、家庭学習の習慣化を図る取組みをさらに進める。
	生徒指導	◇人を思いやる豊かな人間性の育成 1　いじめの根絶を目指し安心して自己表現できる居心地よい学校、学級づくり	1　生徒指導の３機能を活かし積極的な生徒指導を行い、安心できる居場所のある学校、学級をつくり、学級づくりと授業づくりをつなぐ。 2　特別な教科道徳の授業を中心に、「法やルールに関する教育」「人権教育」などで豊かな人間性をはぐくむとともに、異年齢活動を通して、温かいつながりをつくり居心地のよい学校・学級づくりを進める。 3　いじめ防止委員会を定例化し児童の実態把握、全教職員	○児童の状況を全体で共通理解し、課題となる事象には生徒指導部会・教育相談部会をもち組織的に対応した。 ○いじめ防止委員会と教育相談を定例化でき、全教職員で情報共有をすることに努めた。 ○温かい関係づくりができ、児童全員が「学校が楽しい」と感じている学級もあり、また、夢や目標がある児童が全校 100％であった。

		2　自己肯定感を高める生徒指導の取組み	で情報共有、早期発見・早期解消に努める。	△学校行事や児童会行事に教職員が協働して取り組み、児童と教職員、児童同士の温かな関係づくりを進める。 △多様性を受け入れ、自他のよさを見つけることができるように指導する。
	健康（体育）・安全	1　健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成 2　危機管理の充実と安心・安全な学校づくり、環境整備	1　不登校・いじめ・問題事象未然防止に向けて、組織的に機能する教育相談体制の充実と取組みを推進する。 2　目標を明確に体力つくりの取組みを充実する。 3　ＰＴＡのテーマにある「早寝、早起き、朝ごはん」を児童自身にも意識させ、生活がんばり週間を活用しながら、家庭と連携して健康的な生活習慣を確立する。 4　生命やからだ、健康に関する正しい知識と実践的な態度を育成する。	○避難訓練を実施し安全行動の確認ができた。 ○PTA との連携の中、よい生活習慣の意識化、にこにこカー運行による安全見守り等を進めることができた。 △中間マラソンや縄とび等に取り組むことが例年通りにはできなかったが、今後感染予防等工夫をして児童の体力向上を図る。
	人権教育	1　一人一人のよさを認め合い、誰とでも仲良くできる児童の育成	1　特別な教科道徳、人権学習等で豊かな人間性を育むとともに、異年齢活動を通して、温かいつながりをつくり居心地のよい学校・学級づくりを進める。 ・人権旬間（６月前半～後半）、人権月間（11 月下旬～１月中旬）で課題に応じたテーマを設け取り組む。 ・人権問題学習では、身の回りの生活の中から課題を見つけ教材化、各教科や道徳における人権学習を進め、授業参観を通して保護者等に啓発・発信をする。	○特別な教科道徳、人権学習を計画的に進め、人権意識の高揚を図った。 △人権旬間（６月前半～後半）が実施できなかったが、今後も日常的な取組みの中、実態に応じて一人一人が大切にされる学級・学校づくりに取り組む。 △人権学習については、個別的アプローチについて再度計画を見直す必要がある。
	特別支援教育	1　児童の特性を踏まえて、合理的配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進	1　ＵＤのよさを活かした指導を充実する。 2　誰もが安心できる学習環境づくりを進める。 3　行事や体験活動を工夫し自己肯定感を向上させる。 4　コーディネーターを中心に組織的に機能する校内体制を構築する。（他機関との連携）	○特別支援コーディネーターを中心に、支援のあり方を検討し家庭と連携し取組みを進めた。 ○UD を意識した授業づくり・環境づくりに取り組むことができた。 △特別支援教育の意義等について、機会をとらえ保護者・地域に発信し支援を充実させる。
次年度に向けた改善の方向性	1　居心地のよい学級づくりと「わかる」「できる」授業づくりについて研究を進め、どの教室でも「主体的・対話的で深い学び」を実現し、どの児童も自己肯定感を高めるとともに、基礎学力を定着させるなど、児童の学力向上を目指す。（学級づくり、授業づくり） 2　特別支援教育の充実と理解教育を進めるとともに、保護者・地域にも発信し「共に学び合い支え合う共生社会の実現」を目指す。 3　生活習慣の乱れやＳＮＳの利用の仕方等の課題に対して、家庭（PTA）と連携を図り取り組むとともに、「家庭学習」「よい睡眠」の大切さを児童が理解できる取組みを進め、規則正しい生活習慣の確立と安心・安全な生活を守る。		

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立大宮第一小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
◇一人一人が輝き、生き生き活動する学校【児童】 ◇やりがいを持って自分の力を発揮する学校【教職員】 ◇安心して子どもを任せられる学校【保護者】 ◇他地域に誇れる地域とともにある学校【地域の方】	・昨年度重点目標の学校評価を踏まえ、より実態に合った充実の視点での本年度重点目標の設定と週・月・学期での進行管理を徹底する。 ・重点目標を踏まえた学級経営方針・分掌経営方針・具体的方策の作成と成果の全体での確実な確認によって教員の意欲向上及び資質向上をより一層図る。	①基礎学力の定着と個に応じた指導のための授業及び取組みの充実・改善 ②主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善の推進による活用する力の育成 ③学力の基盤となる学びに向かう力・人間性を育てる指導の充実 ④特別活動・道徳教育・人権教育の充実 ⑤自己肯定感を高め、生き生きと活動する意欲を育てる指導の充実 ⑥全校的な体力づくりの推進と学校を休まない意欲の醸成 ⑦情報の双方向発信と学校の積極的公開 ⑧保幼小中一貫教育の推進による地域住民、保護者、幼保中との連携強化

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	・読む力・書く力・確実に計算する力等、基礎学力を定着させるため、単元及び本時の目標が明確で児童にとってわかりやすい授業を計画的に進める。 ・知識・技能を用いて活用する力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を積極的に進める。 ・感情をコントロールする(協調性)、集団の中で自分を律する(自制心)、自主的に粘り強く取り組む(やり抜く力)態度を積極的に育成する。	・学習指導部、研究推進委員会を中心に、基礎学力の定着のため、単元及び本時の目標が明確で児童にとってわかりやすい（具体的手立てのある）授業を研究授業や積極的な授業公開によって学び合う。 ・身に付けた知識・技能を用いて考える力(活用する力)を育成するため、研究推進委員会が中心となって「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を特別活動・教科の授業研究の視点とし、日々の授業の中での積極的な実践につなげる。 ・協調性・自制心・やり抜く力を育成するため、指導のねらいを明確にした学級、学校の取組み及び日々の指導を発達段階に応じて意図的・計画的に推進する。	○△学校全体で、基礎学力を定着させるため、単元及び本時の目標が明確で児童にとってわかりやすい授業を確実に進めることができたが、要配慮児童等への具体的な手立てや十分満足できる姿を明確にした個(各層)に応じた指導・支援について、実態等を踏まえ改善をさらに進めていく必要がある。 ○電子黒板等のＩＣＴを活用した授業等がさらに推進された。来年度からのタブレット及び電子黒板の導入を踏まえ、対応する研修も確実に行うことができた。 ○理論研修、研究授業を通して、知識・技能だけでなく、その知識・技能を生かして思考力・判断力・表現力を高めていくために「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善が重要であることが共通理解できた。またそれを日々の授業の中での積極的な実践につなげることが少しずつできるようになってきた。 ○△学力の基盤となる非認知能力については、様々な意図的な取組み、タイムリーで個に応じた各担任等の指導・支援によって、全体としては積極的に育成に努めることができている。また保護者アンケートでもこの項目に関わる肯定的評価は高い。(96%)　しかし、家庭環境や発達特性、心的不安定さ等の要因もあって、指導・支援が必要な児童は一定数いることから、今後も担任と児童・保護者との信頼関係を基盤にしながら全体指導と個の状況や特性に応じた個別の指導・支援を組み合わせながら根気強く指導・支援を進めていく必要がある。

	生徒指導	・「不登校」、「いじめ」等の諸課題に対し、自己肯定感を高める等、未然防止の視点での積極的な生徒指導を充実させる。	・教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的・継続的に伝えていくことで、自己肯定感を高め、自分の特徴に気付き、長所を伸ばそうとする態度を促進させる。	○△日々の工夫した取組みや家庭への様々な機会を通じた児童の肯定的評価の発信などによって、児童が自己肯定感を高め、学校生活を前向きにとらえようとする積極的な生徒指導が教職員全体で展開されている。保護者アンケートでも、いじめのない学校づくりなどの項目について肯定的評価が高い(約９割)。しかし児童アンケートでは約２割強の児童が、自己肯定感について否定的な反応をしている点が課題として残る。 ○こうした積極的な生徒指導が継続的に推進されることで、反社会的な問題事象は本当に少なくなってきている。 ○△不登校については、組織的な対応もしながら家庭との連携によって、大きく改善した児童がいる一方で、家庭環境等に起因する児童の不登校傾向も顕著になっていることから、今後も関係機関との連携も十分に活用し、その家庭に応じた支援を粘り強く進めていく必要がある。
	健康（体育）・安全	・オリ・パラを踏まえた全校的な体力にかかわる取組みの充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない意欲を高める。	・体育の授業と連動し、期間を決め、集中的に朝マラソンや縄跳び等の取組みを行ったり、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発を進めたりすることで、体力（特に持久力）向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。	△コロナ禍によって体力面での取組み等に多くの制限がかかり、学校全体の組織的な取組みや児童の意欲を引き出す取組み等が十分にできない状況となった。 ○△コロナ感染防止のための学校としてできる取組みを全体で確認しながら、確実にまた丁寧に進めることができた。本市での感染拡大を受け、児童のマスク着用を中心に、感染防止への意識を高めることができた。
	人権教育	・発達段階に応じた「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う」気持ちを育成する指導を進める。	・特別活動、学級活動、道徳科を中心に、全教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特に「主として人との関わりに関すること」〔友情・信頼〕についての指導を重視する。	○全教育活動を通じて、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う」気持ちを育成することに努めることができた。この項目に関わる児童アンケートでも肯定的回答が約９割となった。 ○コロナ禍でも工夫した児童会の取組みや人権教育部との連動した取組みによって、学級・学年間での友達関係だけでなく、異年齢の集団での人間関係の改善も図られるようになってきた。
	開かれた学校づくり	・PTA、地域の関係機関、こども園、保育所・中学校等との取組みにより連携を強化する。	・PTA との積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組みを計画的に実施する。またこども園（保育所）と中学校と学園の保幼小中一貫教育にかかわる研修、取組みをねらいを明確にして確実に実施する。	○事前研も含めて学園の研究授業を中学校及び南小に公開できた。今後も教職員のニーズを踏まえながら、授業研を定期的に開催することが重要である。 ○南小とのオンラインによる交流も始まるなど、直接体験と間接体験を併用した効果的な学園の取組みの精選が進んだ。 △コロナ禍で、ＰＴＡ活動の制限が多く、家庭と学校の連携を深める意味でも十分な取組みができなかった。
次年度に向けた改善の方向性	・２年次研究発表を踏まえ、特別活動(学級活動)での授業研究と関連する教科での授業実践を積み上げ、思考力・判断力・表現力を高めていくための「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を研究推進体制と学年団の取組みの両面で確認しながら進めていく。 ・事象等への対応はこれまで通り早期の対応に徹し、確実に行っていくことを意識するが、不登校にかかわる対応に関しては、学級・学年、特別活動等の機会も積極的に活用し、自己肯定感を高める積極的（未然防止・開発的）な生徒指導をさらに意識して取組みや日々の指導・支援を進めていく。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮南小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
大宮学園　教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ　子どもの育成」 ・学級づくりを基盤にして、「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を行い、確かな学力をつける。 ・「自他を大切にする心」を育成するための教育活動を充実させる。 ・全ての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を目指す。	○教職員の努力により、どの学年も落ち着いて学習に臨むことができた。 ○気になる事象があった時は、生徒指導部を中心に事実確認を行い、方向性を決め、複数で早期対応を図ることができた。 ○ＰＴＡ・教職員が協力して、安全パトロールの実施や、立ち番や付添登校などにより、安全に登下校ができた。 △報告が遅れることがあったので、連絡・報告・相談を密にしたり、児童・教職員の様子を観察したりして、早期に指導することが必要である。	○大宮南小学校本年度の教育スローガン 「学び・つながり・挑戦する」 知　自ら学ぶ意欲　～学ぶ～ 徳　人権意識の育成　～つながり～ 体　たくましい心と体　～挑戦する～

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	①基礎学力の向上を目指した授業改善 ②「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善 ③「ことばの力」の育成（言語活動の充実）を目指した授業改善	・個に応じたきめ細やかな指導をしていくと共に「わかる・できる授業づくり」を目的とした授業改善を行う。 ・算数科を中心として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究をする。 ・話し合い活動で表現力を高めるなど、言語活用カリキュラムを活用した取組みを進める。	○校内のみならず大宮学園でも、算数科の授業研究を中心として、「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善を行うことができた。 ○学校生活全体で「主体的・対話的で深い学び」を意識した話し合い活動を取り入れ、授業につなぐことができた。 △新型コロナウイルス感染症のため様々な制限がかかり、必要な場面でも話し合い活動が十分にできないことも多かった。
	生徒指導	①「自他を大切にする心」を育成するための教育活動の充実 ②いじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底させる。	・大宮学園「人権教育カリキュラム」を活用し人権意識を育成する。 ・教職員、児童同士の肯定的な評価により、自尊心の向上を図る。 ・生徒指導の３機能を生かした授業をすることで、授業づくりと学級づくりの一体化を図る。 ・連絡・報告・相談のしやすい職場環境を作ると共に、記録を徹底することで、いじめの未然防止・早期発見に努める。	○児童を優しく包み込むことのできる学校にするためにまず教職員同士が肯定的な評価をし、互いの良さを認め合える雰囲気を作っていった。 ○お互いに認め合うことのできる学級づくりをするために、授業の中にも生徒指導の３機能を取り入れていった。 ○いじめの早期発見、不登校の未然防止に向けて、連絡・報告・相談を大切にし、組織的に解決策を考えることができた。 △他職員への連絡・報告・相談が少なく、一人で考えようとする担任もいた。

	健康（体育）・安全	①体力向上の取組み ②基本的な生活習慣の確立 ③健康安全教育の充実	・外遊びを推奨したり全校的な体力づくりの取組みを進めたりして、体力の向上を図る。 ・家庭と連携して、早寝・早起き・朝ごはん等の基本的生活習慣の確立に向けた取組みを進める。 ・災害や事故・事故等から守るための安全教育を推進していく。 ・集団感染の未然防止のため、「手洗い・うがい・消毒」「ランチルーム等の衛生管理」等を徹底していく。	○体力作りをするために、三密を避けるための工夫をしながら、マラソン大会や運動会を実施することができた。 ○コロナ禍の中であったが、朝マラソン・縄跳び等工夫をしながら体力づくりに取り組むことができた。 ○安心して学校に通うことができるよう、学校生活全体において三密を避けたり、消毒作業を丁寧に行ったりした。 △コロナ禍の中、体力作りに制限がかかり、計画通りに取組みを進めることができなかった。
	(A)特別支援教育	①障害のある児童の実態に応じた的確な支援をする。 ②ユニバーサルデザインの授業を進める。 ③児童・保護者のニーズに応じた特別支援教育を進める。	・全校児童の相互理解と互いに学び合う好ましい人間関係を育成する。 ・教育のユニバーサルデザイン化を意識した教室経営や教科指導をしていく。 ・配慮を要する児童についての個別の指導計画と個別の教育支援計画を作成し、個に応じた指導を推進していく。 ・保護者面談を行うと共に、必要があれば外部機関と連携し、保護者のニーズに応えられるような取組みを行う。	○配慮を要する児童の支援の方法について、関係諸機関と連携しながら定期的に校内教育支援部で話し合い、組織的に支援や指導を進めることができた。 ○保護者との面談を丁寧に行うことで、保護者の思いや考えを聞いたり、学校の支援の方向性を伝えたりするなど家庭と連携しながら支援を行うことができた。 △連携が難しい家庭もあるので、今後も理解が得られるような働きかけを継続していく。
	(B)開かれた学校づくり	①学校の様子の発信 ②地域学習や地域人材の活用 ③地域と連携した児童の安全確保のための環境づくりの推進	・学校だより・ＨＰ・学級通信等を活用し、学校の様子を発信していく。 ・地域学習や地域人材を活用した体験活動を行うことにより人とのつながりを深め、ふるさとを愛する心を育成する。 ・保護者や大宮南小子ども見守り隊と連携し、児童の登下校の安全確保のための見守り活動を進めていく。	○各クラス学級通信を活用し、丁寧に学級の取組みや児童の様子について知らせることができた。 ○今年度は計画の変更がたくさんあったが、学校だよりやＨＰで、計画の見通しや変更を丁寧に連絡することができた。 ○安全ボランティアの立ち番及び教職員やＰＴＡの安全パトロールにより、安全に登下校することができた。
次年度に向けた改善の方向性	・ＩＴＣを活用したリモート学習等も含め大宮学園の小中学校と交流することで、安心して中学校に進学できるような環境づくりをする。 ・学校生活全体で「主体的・対話的で深い学び」を行ったり、自主的に学習したりできる力を育てることで、中学校でも、自分の力が発揮でき、意欲的に学校生活を送ることができるようにする。 ・安心して学校に登校できるよう、感染症対策や安全教育を行うと共に、新しい生活様式を意識した授業改善を行う。 ・関係諸機関と連携しながら、配慮の要する児童の実態を掴んだり家庭や保護者の状況を把握したりすることで、個に応じた指導の方法を見つけ、粘り強く支援や指導をする。		

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立網野北小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2　すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3　思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	○ドリル学習や放課後補習等の取組みを通し、基礎学力の充実と学力向上を図ることができた。 ○教職員の意識改革を行い、超過勤務時間の削減をすることができた。 △不登校傾向児童・要配慮児童への適切な対応と家庭との連携が十分ではなく、根本的な問題の解決に至らなかった。 △個に応じた指導理念と体制の確立が十分ではなく「チーム学校」としての機能を生かしきることができなかった。	1　網野学園保幼小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体化を図るため、他の小中学校と一体化した教育を推進するとともに、全教職員が学校経営に参画する。 2　「自分も友達も大切にできる子」の育成を目指し、「友達と考えを交流することができる」「自分や友達の良いところを見つけることができる」「いろいろなことに挑戦し、次につなぐことができる」をキーワードとした学校経営をする。

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1　個の興味関心を引き出し、身に付けた知識・技能を活用し「考える」授業を進める。 2　個に応じた指導、学習補習体制を確立し、「わかる」「できる」授業を進める。 3　振り返りを行い、自らの学びと成長を確認できる活動を行う。	1　工夫して学習意欲を喚起する学習導入、授業展開を取り入れた授業づくりを進める。また、ねらいが明確で「わかる授業」「できる授業」の実践研究を行う。 2　身に付けた知識・技能を活用し考え、友達と交流する中で、さらに深めることができる授業を進める。 3　多様な学習形態や学力補充・家庭学習などにより、基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 4　振り返りを通してより学びを確かにし、体験活動を経験値として積み上げていき、次につなげられるような活動を仕組む。	○重点に関わる授業研究を通して、「見通す」「振り返る」を視点として授業改善を行い、学級の児童全員が「考える」授業を目指した。 ○計算力アップ大会や各種検定も活用しながら目標を持たせ、学力向上や家庭学習習慣の定着を図った。意欲的に学習できていると答える児童は昨年度とほぼ同等であるが、保護者の評価では１２％上昇した。 △学習補習体制についてハード面では年間を通した複数体制を維持することができたが、知識・能力の確認や学び直しにとどまった。
	生徒指導	1　自他ともに大切にする心を育てる。 2　教育相談を基盤にした生徒指導を充実させる。 3　発達段階に応じた「思いやりの心」の心を育成する指導を進める。	1　生徒指導の３機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場）を大切にした教育実践を進める。 2　カウンセリングマインド、コーチングの手法を意識した生徒指導を充実させ、学級経営に生かす。 3　道徳教育を中心に、特別活動・学級活動、全ての教育活動を通して、道徳教育・人権教育を推進し、友達と互いの良さや頑張りを認め合う活動を進める。また、達成感や充実感を友達と感じ合い自他ともに大切にする心を育てる。	○各担任が児童との信頼関係をしっかりと築き学級経営を行い、生徒指導的問題を未然に防ぐことができた。 ○思いやりや友達を大切にする心の育成では、異年齢活動を中心に様々な活動の中で推進してきた。児童の自己評価は例年と変わらない結果であったが、保護者からの評価する回答は昨年度より１５％増加した。 △児童の自己肯定感が昨年度より８ポイント減少している。自分たちの頑張りや成長が感じられる場所と時間設定が必要である。

	健康（体育）・安全	1　体を動かすことの心地よさを感じる指導を推進する。 2　積極的にチャレンジし、自らの成長につながっていることを実感する指導を進める。	1　個に応じた目標や短期（各単元）目標を設定させ、自信をつけさせたり、次の活動への意欲を高めたりする。 2　目標が達成できるよう支援を行い、達成感や取り組んだことに対する充実感を得られる取組みを仕組む。また、適切な評価を行う。 3　振り返りを行い、自他の成長に気づくことで、より確かな学びとする。	○学習活動全体を通し目標を持ち取り組ませることができた。また、全校的な行事に向け、高学年を中心に短期目標の設定も意識し活動に臨ませることができた。 ○マラソン大会をはじめ駅伝大会、計算力アップ大会など、進んでチャレンジしていこうとする姿が多く見られた。児童では４％、保護者の評価では１１％増加した。 ○振り返り活動を充実させることで、自らの活動を振り返らせることができた。 △指導者側に活動を連続させる意図を十分に理解させることができていなかった。そのため、児童に振り返りを次の活動に生かすための視点と意識を持たせることが弱かった。
	研修（教職員の資質向上）	1　「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた教員研修を充実させる。 2　プロジェクト・サイクル・マネジメント（ＰＣＭ）手法を活用し、学校経営参画を促す。	1　研究推進部を中心に、授業改善を行う。特に「書く」「聞く」にこだわり、研究授業・公開授業を行い、学び合う。 2　課題の抽出、設定、解決方法などの決定・取組み過程を全教職員がかかわることで主体的な課題解決に向けた動きを作る。	○研究推進方針に沿って教員研修を行った。「見通す」では、全ての児童が見通しをもって問題解決に向かうことができるよう工夫した導入、展開を研究でき、「振り返り」については、系統的に書く力と振り返る視点を発達段階に応じて整理し、実践を積み上げた。 △年度内に十分な時間が取れず、検証ができていない。 △プロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）手法を活用した研修を行うことができなかった。
	特色ある学校づくり	1　地域の歴史、文化を大切にする。 2　地域人材を積極的に活用する。	1　総合的な学習の時間をはじめとする学習や特別活動において、地域の歴史や文化、特色を生かす教材研究を行い、実践する。 2　地域の人材を生かした体験活動を充実させる。	○地域の人材を積極的に活用しながら、地域の歴史・文化について調べまとめることがでた。また、発信とその後のフィードバックを活用しながら自分たちの学習を振り返ることができた。
次年度に向けた改善の方向性	△不登校傾向児童・要配慮児童・家庭への支援方法 △タブレットを活用した授業改善と学力充実 △「見通す」「振り返り」を軸とした授業改善と研究の検証 △地域教材の開発と運用と地域人材の活用 △特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の確立 △教科担任制の積極的な導入 △自己肯定感を高める指導・支援方法の研修と実践			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野南小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
網野学園保幼小中一貫教育の目標から「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」 目指す子ども像 ・あかるく元気に進んで学ぶ子 ・みんななかよく支え合う子 ・のびのび生き生きやりぬく子	○算数科を重点教科とした「見方・考え方」に着目した授業づくりの推進。 △児童自らが主体的に学び、仲間と協働しながら考えを深めていくため発問の工夫やコーディネートの研究。 ○児童相互の人間関係を大切にした教育活動、特性に応じた丁寧な指導により不登校や問題事象の未然防止。 ○組織的な対応によるいじめや問題事象等への早期対応・早期解決。 △規範意識を高めるための心の教育の充実。 △SNS・ゲームの使用等について自律できる力の育成。 △勤務時間の縮減。	1　網野学園保幼小中一貫教育の下、授業改善を進め、質の高い学力を育成する。 2　子どもの心に寄り添い児童と教師、また児童相互のあたたかい人間関係を育て、「いごこちのよい学校」を創る。 3　生き生きと元気に、仲間と共に粘り強く最後までやり抜く力を育てる。 4　地域の教育力を活かし、全校児童が安心して学校生活を送り、力を最大限発揮できる教育環境をつくる。

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	【よく学べる学校】 ・基礎的・基本的な学習内容の習熟 ・課題解決に必要な思考力・判断力・表現力の育成 ・家庭学習習慣の定着	・各時間のねらいを達成できる「わかる」「できる」授業づくりを進め、基礎基本（読み・書き・計算等）の定着に努める。 ・網野学園と校内の授業改善に向けた研究を連動させ、単元全体を見通した構想のもと、「ものの見方・考え方」に着目した授業づくりを進める。 ・３つの資質・能力の育成に向け、「主体的、対話的で深い学び」による質の高い学力を目指した授業改善を行うための校内体制を構築する。 ・網野学園の学力充実月間や家庭学習頑張り週間を基盤にして、家庭と連携しながら家庭学習習慣の確立を目指す。	○スキルタイムでの計算能力の向上や DRT 結果分析等による回復指導を行うことで基礎基本の定着に繋げた。 ○研究推進部を中心に算数科を重点とした研究を行い、児童が主体的に取り組める課題や学び合いを通した思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善を進めることができた。 △府学力診断テスト、全国学力学習状況調査（校内で実施）等の結果から、思考力・判断力・表現力を問う問題への弱さが見られ、基礎基本の定着の上に活用できる力を身に付ける必要がある。 ○家庭学習頑張り週間には保護者の協力を得ながら家庭学習目標時間やプラス１の自主学習に取り組ませることができた。 △毎日の自主的な学習習慣を身に付けさせることが課題である。 【児童アンケート結果】　・学校の授業が分かる：　肯定率 93% ・家庭で毎日学習している：肯定率 80%
	生徒指導	【いごこちの良い学校】 ・互いのよさでつながり合える学級集団、人間関係の構築 ・規律を守り、いじめ・暴言等を許さない機運の醸成 ・「いじめ」等問題事象の早期発見・早期解消	・日々の関りの中で、生徒指導の３機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）を大切にした教育実践を推進する。 ・特別支援教育を基盤とし、互いの違いを認め合い、支え合うことができる学級経営を行う。 ・道徳教育の充実に努め、道徳的行動実践に繋げられるよう指導する。 ・行事や取組みのねらい、過程、振り返りを大切にすることで価値づけを行うとともに、仲間とつながることの大切さを学ばせる。 ・網野学園「これだけは」（授業規律確立と規範意識醸成）等で、ルールの大切さの価値付けや共有化を図る。 ・いじめや問題事象等の対応は、窓口を一本化し、事実を正確に確認した上で迅速、丁寧、組織的な対応を行う。	○新型コロナウイスル感染症予防対策を行うことを通して、命の大切さや自他を大切にすることを考えさせ行動実践に繋げることができた。 ○人権学習や道徳等を通して互いの理解やつながりを大切にした指導を行い仲間同士で支え合うことの大切さを学ばせることができた。 【児童アンケート結果】 友達の良いところを見つけている　：肯定率 95% トラブルは話し合いで解決している：肯定率 90% ○いじめや問題事象等への対応は、生徒指導部を中心として組織的に行うことができ、早期発見・早期解決することができた。 ○児童の状況を紙面や校務支援システムで発信し、タイムリーに全教員が共有し指導を行うことができた。 △生徒指導事象への未然防止の視点での積極的な指導が弱かった。 △様々な活動に制限（特に異年齢活動）があり他学年とのつながりには弱さが見られた。

	健康（体育）・安全	【毎日登校できる学校】 ・家庭との連携による基本的生活習慣の育成 ・目標に向かって意欲的に頑張る力の育成	・児童の様子を全教職員で見るという意識を持ち、小さな変化を見逃さない。また情報共有を丁寧に行い、教育相談部が中心となり必要に応じてケース会議を行う。 ・毎朝の児童の様子を把握し、該当分掌と連携した指導や取組みを行い、より安全な登下校の確保や登校しぶり傾向の早期発見・早期解決を行う。 ・家庭支援の必要な児童については、ケース会議やSSWの活用により、個に応じたきめ細やかな支援を行える体制を構築する。 ・非行防止教室・薬物乱用防止教室、自転車教室等による安全についての意識を高める。 ・網野学園「これだけは！家庭編」をもとに、各家庭やＰＴＡとの連携を図り、生活リズムの確立を目指す。 ・情報モラル教育を系統的に進め、ネットやゲームの使用について自律できる力を育成する。また家庭でのルールづくり等について保護者との連携を進める。	○毎朝の登校時の様子を把握し、家庭との連携等、早期対応を行い登校しぶりや不登校の未然防止を行うことができた。 不登校０名、全員登校日数　65 日/185 日（2 月 28 日現在） ○長期休業後には家庭と連携し「元気アップカード」を行うことで、生活習慣の立て直しを行うことができた。 ○コロナ感染症予防対策として、保護者の協力のもと検温カードの記入による体調管理や施設の消毒作業等を行い、感染者を出すことなく教育活動を行うことができた。 △４年生を対象とした「ゲーム・ネット講座」を網野学園で実施し、その使用について考えさせることができた。しかしゲームについては低学年からの使用が増加しており、１年生からその指導を系統的に行うと共に家庭でのルール作りについても保護者と連携し進める必要がある。
	危機管理	・コンプライアンス意識の高揚 ・超過勤務の縮減 ・安全な教育環境づくり。（登下校含む）	・コンプライアンスハンドブック等を活用した校内研修を行う。 ・児童、教職員の人権を大切にした学校経営をし、日頃から教職員間で何でも話せる関係づくりに努める。 ・超過勤務時間実態共有化と年間を通した縮減の働きかけをする。 ・PTA 活動の一貫としてあいさつ運動を進めるとともに、民生児童委員、スクールガードリーダー、警察との連携による、登下校の見守り活動を充実させる。 ・避難訓練等を通して、自分の命を自分で守る意識を徹底する。	○コンプライアンスハンドブックの活用による校内研修を実施し、人権意識の高揚を図ることができた。 ○会議や研修の縮減や効率化等を行った。令和元年と比べ午後８時までには退勤できる教職員が増えた。 【教職員勤務時間アンケート結果】R1:67%　R2:73% ○こどもを守るボランティアの会を再編成し、登下校の見守り活動に協力していただくことができ子どもたちの安心・安全な教育環境作りを進めることができた。
	開かれた学校づくり	【信頼される学校】 ・保護者、地域、関係機関との連携を大切にした学校経営	・ＰＴＡ役員等と丁寧な連携を図りながら、課題解決に臨む。 ・地域ボランティア等の人材を生かした教育活動を推進する。 ・学校や児童の様子を知ってもらうため、学校関係者については、年間を通して授業参観の機会を広報する。 ・学校便り、ホームページ等で、子ども達の様子について積極的な情報発信を行う。	○ホームページや学校便りで学校の様子を知らせることができた。 【保護者アンケート結果】肯定率：92%　※1 日平均閲覧数 500 ○緊急事態宣言等以外の期間を活用し、外部講師やボランティアの方々に来校いただき、教育活動を進めることができた。 △様々な行事や取組み、授業参観等が予定通り実施できず、学校公開する機会が大幅に減少した。
次年度に向けた改善の方向性	1　確かな学力の育成（基礎基本の定着、ＩＣＴを活用した授業改善、指導と評価の一体化、家庭学習の充実、メディアコントロール） 2　コミュニケーション力の育成（つながる力の育成） 3　人権教育を基盤においた心の教育の充実 4　家庭との連携による家庭学習の充実とネット・ゲーム等のルールづくり 5　地域との連携による安全な教育環境づくり 6　働き方改革の推進			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立島津小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2　すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3　思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	○府小研「外国語教育研究大会」に向け、教職員が協働して取り組むことにより、教職員の指導力向上につながり、子どもたちの力を伸ばすことができた。その結果、保護者・地域からの信頼を更に高めることができた。 ○研究推進により、反応を含め、子どもたちのコミュニケーション力が向上し、全校の場やチーム活動等、様々な場面において生かすことができた。 △特別支援教育に視点を当て、落ち着いた学級経営を継続することで、基礎基本の確実な定着を図る。 △新学習指導要領のめざす授業改善や基盤となる学級経営力等教職員自らの力量を更に高めていく必要がある。	生き生きと学び、いつでもどこでも児童が輝く楽しい学校～すべては島津小の子どもたち成長のために～＊「チーム島小」を常に意識する。 1　全ての教育活動において短期目標（合言葉）を位置づけ、「島小システム」による学校経営を進める。 2　教職員が安心して気持ちよく働ける職場にするとともに適材適所で校務を分掌させ、相互に関わり合いながら組織的に機能させる。 3　児童一人一人の力を伸ばすための学習指導力や学級経営力を高める努力をする。

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	・網野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通して、授業改善・学力充実の取組みを進める。 ・網野学園の取組みと連携し、学力向上プログラムを基にした取組みを進める。	・網野学園「これだけは！」を実践し、三者会及び企画委員会で評価をしながら全校でやりきる。特に、授業編の３つの柱を授業研究会や日頃の授業とも連動させ、学びを深める。 ・一斉指導のほか、個別に配慮しながらの指導も組み合わせて授業を構想していく。 ・学園の取組みと連動して、家庭学習頑張り習慣を実施し、効果を高める。（PTA との連携事業）	○網野学園「これだけは！」を意識した授業改善や取組みを組織的に推進することができた。特に「ATV」「BMW」の合言葉を生かし、子ども達の変容に繋げた。 ○全学年でテレビや電子黒板等を活用し、視覚的な支援をしながら授業づくりを行うことができた。 ○家庭学習に自主勉強を取り入れ教職員及び児童同士の肯定的な評価を取り入れ意欲的な学習に繋げることができた。 △今後も落ち着いた学級経営を継続するとともに、主体的に学び合う力を向上させていく。
	生徒指導	・網野学園「これだけは！」を基に、気持ちよく生活するめの必要なマナーやルールを考えて行動できる力、相手を思いやる心の育成を進める。 ・生徒指導の３機能を生かし「いじめ」「不登校」などの諸課題に対し、未然防止に向けて日常的な指導や相談活動を充実させる。	・生徒指導の３機能による学級づくりを進め、児童相互及び教職員との信頼関係に基づく好ましい人間関係を育成する。 ・全ての計画に、短期目標（合言葉）を実践する内容を意図的に取り入れる。 ・豊かな人間性を育むために、児童会活動を通して異年齢活動やチーム活動を更に進める。 ・日々の子どもたちの様子を全教職員で見守り、情報交流を丁寧に行うことで、「いじめ」や「不登校」の芽を逃さない。また、常に起こりうることを想定しながら危機感を持って教育活動を進める。	○生徒指導部を中心として、生徒指導の３機能を意識した授業づくり、学級づくりを行い、つながりを広めたり深めたりする取組みを進めた。学級内での人間関係による問題を常に解決しながら日々の成長を促すことができた。 ○２カ月サイクルで示した「合い言葉」は、児童に目指す方向性がわかりやすく、取組みの活性化につながった。 ○全教職員で全児童を観ていくことを基本とし、共通理解のもと一致した指導をすることで、安定した学級・学校となってきている。 △コロナ感染症対策のため異年齢活動やチーム活動が深まるところまでは至らなかった。

	健康（体育）・安全	・網野学園「これだけは！」（家庭編）に基づく取組みを、他校と連携し進める。 ・健康の保持増進と体力の向上を図るとともに、様々な取組みを通して粘り強く活動する心を育てる。 ・安全な生活を営むための対応力を育成する。	・網野学園「これだけは！」（家庭編）に基づき、PTA に働きかけ、家庭と連携した取組みを進める。 ・当たり前のことが当たり前にできる子どもに育てるために、基本的な生活習慣や日常的な学校生活、家庭学習等１日の流れの確立を目指して粘り強い声掛けと保護者連携を進める。 ・日々の生活・活動を通して「安全」について事例を教材化して考えさせ、正しく判断できるようにする。	○家庭学習頑張り習慣や生活点検の取組みを通して、基本的な生活習慣への意識が高まった。 ○コロナ感染症対策として行っていた手洗い・換気について意識化が高まり欠席日数の減少に繋がった。（全児童登校 122 日 3/5 現在） ○学期に 1 回ずつ行われる学級懇談会で生活点検の結果やゲーム・SNS に関する内容を取り入れて交流することができた。 △保護者と連携しながら年３回生活点検表を使い基本的生活習慣の確立に向け取り組んでいるが、今後も睡眠時間・メディアコントロール・家庭学習等の改善に向けて継続的な取組みが必要である。
	研修（資質向上の取組み）	・新学習指導要領への対応としての「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行うため校内研究・研修の充実を図る。 ・特別支援教育の視点を基に、児童理解の力量を高めるとともに、支援を必要としている児童に対して、組織的な取組みを進める。	・外国語教育を研究の柱とし、「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業改善に向けて、具体的な子どもの姿とそれに向かう指導方法の研修を進める。 ・評価の在り方について実践をしながら研究を進める。 ・児童の実態把握を行いながら、外部の専門機関と連携し特性についての知見を広げる。また、特別支援教育の視点を生かした指導・支援を行い一人一人の自立を目指した取組みを進める。	○「主体的・対話的で深い学び」とはどのような授業かを全教職員で確認し、ペア・グループ学習を取り入れながら、授業や指導の在り方を協議し互いに学び合うことができた。 ○外部の医療機関や SC や SSW と連携しながら、児童の見方や対応の仕方等、継続的な取組みを丁寧に進めた。また、 ○下校時刻の変更により、教職員の準備・研修の時間の確保が少し進んだ。 △「主体的・対話的で深い学び」に向けて更に授業改善を進めていくとともに、１人１台のタブレット使用など ICT の活用についての授業展開を模索していく必要がある。
	特色ある学校づくり	・網野学園保幼小中一貫教育を基に、中学校卒業時の姿を明確にしながら教育活動を推進する。 ・学園で連携しながら外国語教育を推進したり豊かな体験を基にした国際理解教育を実践したりする。 ・地域に学び地域とともに歩む学校にする。	・昨年度のシステムや方向性を継続し内容の充実を図る。特に、学園の教職員で常に交流しながら「中学校卒業時の姿」を検討し、本校の教育活動においても常に意識していく。 ・外国語教育で付けたコミュニケーション力を他教科や領域に生かし、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを進める。 ・教科や総合的な学習の時間等において、「琴引き浜」等様々な地域の資源から学ぶ。また、様々な機会をとらえ地域の方々との交流や学びを大切にする。	○外国語教育で身に付けたコミュニケーション能力を学習や様々な場面で発揮し、自分の思いや考えを堂々と表現できる児童が増えた。 ○6 年生の様子から刺激を受けたり真似をしようとしたりする学年が多く、学びが全校に広がった。 △今年度は、コロナ感染症対策のため地域学習や体験的な学習等地域から学ぶ機会が制限されたため、来年度は、地域の人材や資源を生かすなど地域から学ぶ視点を大事にする。
次年度に向けた改善の方向性	1　本校の重点課題である「学力向上」に向けて、外国語教育を中心として「主体的・対話的で深い学び」について研究を進めるとともに、学力向上の取組みを継続し、電子黒板や１人１台のタブレット等を活用した授業改善を図る。 2　これまでの網野学園の教育活動の積み重ねを土台として、小小連携・小中連携をもとにした研究の視点もさらに充実させ、より具体的で焦点化した取組みを通して一歩ずつ改善していく。 3　学校の取組み全体や会議設定の工夫を通して、教職員の授業準備や研修の時間確保を更に進め、そのことを通して授業実践や学級経営力の向上を進める。			

（別紙様式１）

令和２年度学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立橘小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども 【学園経営の基本方針】 自然・人・社会とのつながり、郷土を愛する心を育てる。（特に重視）	○「児童会活動と学校目標の一致した動き」の活性化 ○市小学校駅伝、ジオパーク駅伝大会に向けた取組みにより、本校の強みを大いに発信した。 ○「地域とともに育つ学校づくり」の推進 ア　地区運動会、マラソン大会、海の検定等で地域に発信した。地域に元気を！ イ　学習発表会を地区文化祭と共催し文化の発信地とし地区の文化的行事を学校として盛り上げる。 ウ　授業の外部講師を年間約７０日、延べ約１００名以上の方より「本物に触れる教育」を推進 ○働き方改革を具体的に推進。教頭・教務を核に企画会議、職員周知を行い実践 ア　休憩時間の確保　イ　業務・会議の精選 △外部の窓口教頭の業務過多（地域連携担当教員の設置） △新４年生の学力補充のさらなる改善 △特性のある児童への指導と体制づくり	【教育活動の目標】「つながり、たくましく生き抜く輝くもたちっ子」の育成 ～智恵を磨き、場を大切に、何事もやり抜く～ （市指導の重点　目指す子ども像「心豊かにたくましく…」「ふるさとへの愛着と誇り…」「将来に夢と希望をもって生き生きと学ぶ子ども」に着目） 【教育活動の具現化に向け】 プロジェクトＴ（たちばな、つながり、プロジェクト） た　つながろう、たくましく生き生きと ち　智恵をみがこう：知・「主体的・対話的で深い学び」 ば　場を大切にしよう：徳・豊かな人間関係の追究 な　何事も最後までやりぬこう：体・強い心と体 「地域とともにある学校づくり」 「本物に触れ、出逢う「社会に開かれた教育課程」 「学びに向かう力の育成（自力解決力）」 「働き方改革の推進」「風通しの良い職員室」

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1　一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすことで意欲的に学び、将来に夢と希望のもつ児童を育む。（教育活動の具現化①つながろう、たくましく生き生きと） 2　主体的・対話的で深い学びの具現化に向け、学級づくりと授業づくりを連動させ、言語活動を充実させる。（教育活動の具現化②智恵をみがこう：「主体的・対話的で深い学び」）	◇「学びに向かう力の育成（自力解決力）」 ◇網野学園・授業研究会を有効に位置づけ、単元構想シートを活用した授業改善を図り、学び合いを深める。 ◇「本物に触れ、出逢う社会に開かれた教育課程」のより一層の推進（外部講師の有効な活用） ◇算数科を重点教科とした研究を推進し、主体的・対話的で深い学びの授業改善を行う。 ◇担任と専科・加配が連携し効果的な指導を行い、学力課題の改善につなげる。 ◇生活科、総合的な学習の時間の学習を通して、丹後学を参考に地域の魅力をまとめ、発信する力の育成	○11 月学園授業研究会で単元構想シートを活用した授業改善を図り、学び合いを深めた。 ○「本物に触れる教育」を推進できた。（・地域の方を講師に招待　一例　コロナ出前授業　R2、12 月　総勢 30 名超招く） ○「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、外部の声を学校経営に生かすことができた。 ○学校目標、指導テーマをその都度振り返えり進行管理を行えた。：毎月評価 △学力向上　算数では、深い学びの追究やスピードUP、家庭学習の充実、授業改善の推進、課題解決学習につなげる個別指導の人材確保等を図っていく。
	生徒指導	1　豊かな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合う。 （教育活動の具現化③つながろう、たくましく生き生きと、場を大切にしよう）	◇学校目標と児童会目標と一致した動きを重視する。 ◇教育活動全般に生徒指導の三機能の視点を大切にする。 ◇道徳教育、人権学習の充実を図り、豊かな人間性を培う。◇話し合い活動を通し自分の考えをもち伝える力を培う。 ◇学級活動、異年齢活動、児童会活動を通し、つながりを通して互いが認めることができるようにする。 ◇特別支援・教育相談・生徒指導部会の機能化を図り、いじめ・不登校の未然防止・早期発見、解消を行う。 ◇何でも話せる風通しの良い職員室を目指す。	○児童会活動と学校目標の「つながり」とが一致した協働的な動きができ、子どもの手で委員会児童会活動等自主的な運営が伝統的にできている。 ○不登校傾向児童が毎日出席し、教室へ向かうことができた。 ○3 名の転入生が学校に慣れ、教室でも楽しく過ごせた。 ○あいさつ、マナーを身に付けることができた。（学校評価アンケート　１５%UP 高い率で推移。）日々の学級指導の成果と言える。 ○人間関係を良好に保てた。（学校評価アンケート　１５%UP 高い率） △道徳教育、人権学習の充実を図るための具体的な教育活動を今後推進する。

	健康（体育）・安全	1　何事も最後まであきらめずにやり通す粘り強い心を育てる。 （教育活動の具現化④何事も最後までやりぬこう：体・強い心と体）	◇生徒指導部と特別活動部との連携により、月目標の設定・提案し、全学年が具体的な取組みを行い生活の向上を目指す。 ◇本校の強み（マラソン、駅伝）を生かした授業づくり。 ◇朝の体力づくりの取組み等を通して、児童が目標達成に向け最後まで粘り強く取り組む力を付ける。（市小学校駅伝、ジオパーク駅伝大会に向けた取組みの重視） ◇生活習慣の乱れから、学習意欲が減退しがちな児童に対して、養護教諭、担任を中心にきめ細やかな指導の徹底 ◇校内外の事象を教材化し、避難訓練、交通教室、非行防止教室などに取り組み、安心安全な学校を目指す。	○マスク着用、廊下走り、挨拶指導等異年齢集団が伝統的につながり、その取組みが本校の強みとして生かされている。 ○全児童出席日数 1/2 を超えた。100 超/202 日（総授業日数）（昨年度比 2 倍弱） ○安心安全な環境作りが進んだ。（学校評価アンケート高い青パト隊　見守り隊　雪あけ等） ○あいさつ、マナーを身に付けることができた。（学校評価アンケート　１５%UP 高い率） ○人間関係を良好に保てた。（学校評価アンケート　１５%UP 高い率） △コロナの影響で、マラソン、大縄跳び、朝の体力作り等体力向上策が制限された。
	開かれた学校づくり	1　学校や地域の特色を踏まえつつ、社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラムマネジメントの推進を図り「地域とともに育つ学校」を目指す。 （教育活動の具現化①つながろう、たくましく生き生きと）	○「地域とともに育つ学校づくり」の推進させるため以下の点を継承する。 ア　地区運動会、マラソン大会、海の検定等で地域に発信した。地域に元気を！ イ　公民館会議等に積極的に参加し、子どもの頑張りを地域で発揮できるように働きかける。 ウ　学習発表会を地区文化祭と共催し文化の発信地として、芸術の秋、地区の文化的行事を学校として盛り上げる。 エ　授業の外部講師を招き「本物に触れる教育」を推進 ◇網野学園におけるコミュニティスクール趣旨理解の促進を図り、学校運営協議会を核に地域の声を学校運営に生かす。（地域学校協働活動本部の事業の推進）	○「地域とともに育つ学校作り」が進んだ。 ・地域に子ども達の元気を発信　・コロナ禍で、運動会をリレーフェスティバルに変更し、一定の理解を得た。82% ・本校の強み：縦割り異年齢活動で表現発表会を行い地域に発信　・リレー、マラソン大会、発表会を地域の文化祭でスライドショー発信・「地域の中の学校」を公民館様とのコラボで実現　・学習支援ボランティア様の学習支援の継続：６月から毎日２名支援 ・６年生自作曲「ぼくらの夕日ヶ浦」を地域に発信：２度新聞掲載 ○地域連携担当教員が活躍できた。：校務分掌に位置付け、地域とのつながり △今後も家庭への連絡を丁寧に進める。　家庭訪問なし、学級懇談会１回　学校評価アンケート数値低い(担任と家庭連携は OK) △ホームページ更新を進める。少ない　学校評価アンケート数値低い
	研修（資質向上の取組み）	1　学校課題に見合う研修テーマとし課題克服を図る。 2　教職員が自己課題を踏まえた研修テーマを設定し指導力を高める。	◇新学習指導要領完全実施期として、全教職員が趣旨を十分理解し、学び合う研修の設定 ◇「教員等の資質能力の向上に関する指標」に基づいたキャリアステージに応じた資質の向上が図られるように日々の声かけ等含む教職員の長所の伸長を図る。 ◇働き方改革の校内研修を実施しより効率的な業務改善が進むように教職員の意識改革を図る。	○研修会を通して、協働的な組織体制を仕組むことができた。：不登校傾向児童が登校し続け安定する。授業研究会の実践 △今後、個のニーズに応じた特別支援教育を通し個々を生かす教育活動の実践していく。 △特性をもつグレイゾーンの児童にも個別に丁寧に関わる。 △チーム橘小、協働性の継承を進める。　「創造、発展的な分掌運営・学習指導」
次年度に向けた改善の方向性	**「つながり、たくましく、輝く　たちっこ」像の具現化** 1　「地域とともに育つ学校づくり」の具体的な継承、「R３年度本校統合 50 周年事業」の取組み 　コロナ対応で外部支援が制限され、開かれた学校経営が軌道に乗りにくい状況下でも、目標と実態に即し「地域とともに育つ学校」を推進する。地域に元気を発信へ 2　情緒学級新設に向けた特別支援教育を通し個々を生かす教育活動の実践 3　チーム橘小　協働性の継承　「創造、発展的な分掌運営・学習指導」 4　学力向上　算数　文章題　スピード UP　家庭学習の充実へ 　新指に見合う算数の文章問題の解き方を研究し授業改善を推進 5　家庭への連絡丁寧に　家庭訪問なし　学級懇談会１回　学校評価アンケート数値低い 6　HP 更新　少ない　学校評価アンケート数値低い 7　タブレットの活用、ICT 教育の充実へ　・強い心と体の追究			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立丹後小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育目標（丹後学園共通） 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ＜目指す学校像＞ １　よく考え学ぶ学校 ２　友だちと仲良くする学校 ３　最後まで粘り強く努力する学校 ４　家庭・地域のつながりを生かした学校	○学力課題の大きい学年に対して、少人数指導を行い学力向上に向けて取り組むことができた。 ○不登校傾向の児童については、学校体制を組むことでほぼ毎日登校し、大幅に改善を図ることができた。 △学力向上を目指して、個別指導に取り組んだが学習の定着に課題が残った。 △家庭環境の厳しさから、基本的な生活習慣の確立に向けて十分に指導ができなかった児童がいた。保護者への啓発も含め課題が残った。	・新学習指導要領の全面実施にあたり、その理念である社会に開かれた教育課程を目指し、児童・保護者・地域の人達にとっても「丹後小学校」ができてよかったと思えるように、児童同士の関わりを大切にした学校経営を行う。 ・令和２年、３年の京都府学校給食研究会 研究推進委嘱校として、学校組織を再編して令和３年の発表に向けて組織的に学校経営を行っていく。

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	・単元の指導構想をもとに、単元を通してどんな力をつけたいのか、何をどこまで、できるようにするのかを明らかにする。 ・「学び合い」を通して、「わかる」「できる」を実感させ、「深い学び」につながる授業づくりを進める。	・丹後学園の研究テーマである「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」～生徒指導の三機能を生かして～と併せて、本校の研究推進部からの提起を受け、深い学びのある授業を目指し、併せて令和２，３年度と京都府学校給食研究会の研究委嘱校となっているので、特に「食に関する指導」を中心に研究を進めていく。 ・レーダーチャートを使って、児童の学力実態を視覚的に表し課題を明確にした上で、実態に即した指導による学習活動の充実を図る。	○「食育」を各教科・領域に関連付け、食に対する望ましい知識と実践力を身に付けさせるために児童実態に即して低、中、高学年の授業研究を進めてきた。高学年においては、学級活動で児童が司会、記録、議事運営を行い、討論を行うことで、核心に迫る話し合いができ、児童の振り返りからも深い学びができた事が感じられた。 ○データに基づく研究をすることで、丹後小学校の実態に基づいた具体的な学力向上の改善策を考えることができた。 △家庭学習頑張り週間の取組み等を継続し数値的にはよくなっているが、課題が残った。
	生徒指導	・生徒指導の３機能を踏まえた、就学前から中学校まで一貫した生徒指導を進める。 ・いじめ、不登校の未然防止及び解消にむけた教育相談活動を充実させる。	・丹後学園の生活のきまりを守り、良さを意識して伝えることで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 ・いじめ・不登校の未然防止のために教育相談部を中心に面談の実施を行うとともに情報を共有し、組織的な対応を行う。	○コロナ禍で異年齢活動や、行事等ができない中ではあるが、ほとんどの児童が元気に登校できている。 △教育相談部を中心に面談を実施し不登校の未然防止に努力を重ねてきたが、現在別室登校の児童がいて、教室への復帰を目指して取組みを進めている。

	健康（体育）・安全	・全校的な体力にかかわる取組みの充実と積極的な児童への指導を行い、学校を休まない強い体をつくる。	・感染症の影響で運動不足にならないように、全学年体育の時間にサーキットトレーニングを継続して行う。 ・基本的な生活習慣の確立に向けた取組みを、家庭と連携しながら進める。	○中間休みの体力づくりでは３密を避けるために３グループに分けて、ストレッチ、ジャズダンス、中間マラソンに取り組み、校内マラソン大会において、全員が持てる力を出して走り切り、京丹後市小学校駅伝競走大会では４位入賞を果たした。 ○コロナ禍で異年齢活動や、行事等ができない中ではあるが、ほとんどの児童が元気に登校できている。
	危機管理	・３つの安全（生活・交通・災害） ※安心安全な学校生活ができる。	・登下校時のにこにこカーの運行や、学校支援ボランティアとの連携により安全な登下校につなげる。 ・登下校のみならず、校外のきまりを守り交通安全を含め安全指導の徹底を図る。 ・校内の危険個所点検を行い、適宜、修繕などをすることで教育環境を整える。 ・感染症対策を徹底し、児童が安心して学校生活が送れるようにする。	○登下校時に、にこにこカーによる校区内の巡回指導を１年間行ってきたことでタイムリーな指導ができ、交通事故の発生を抑えることができた。 ○感染予防に向けて、猛暑の中でもまた、極寒の中でも全校舎の換気を行い、マスクの着用や手洗いなどの感染予防に努めてきた。 △校内の危険個所の点検を行っているが、塩害による施設の劣化が激しく、修繕が追い付かない状況である。
	開かれた学校づくり	・丁寧で分かりやすい情報発信を行う。 ・ＰＴＡ・地域の関係諸機関等と連携した取組みを強化する。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。	・学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組みや様子を積極的に発信する。 ・開校２年目なのでＰＴＡ行事の見直しを行い無理なく実施可能な行事や取組みを行っていく。また関係諸機関等との連絡を密に取り協力を得る。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。 ・読み聞かせボランティア・図書館指導員により、読書への興味を高め本好きな児童を増やす。	△学校だより、学級通信、ホームページの更新を適切に行っているが、今年度はコロナ禍で通常の行事等が行えないので保護者・地域の皆様には学校の様子を伝える機会が減っている。 ○ＰＴＡ行事の実施が難しい中ではあるが、ＰＴＡによるプール掃除、資源回収などを工夫しながら行うことができた。 △緊急事態宣言の発令により、外部人材の活用を行うことができなかった。
次年度に向けた改善の方向性	・令和３年の京都府学校給食研究会研究推進委嘱校研究発表に向けて、令和２年度の成果を活かしつつ教職員一人ひとりが積極的に研究を進めていけるように、組織的に学校経営をしていく。 ・再配置３年目となる丹後小学校が、安定した学校運営ができるように引き続き教職員全員で不断の努力をしていく。 ・令和２年度に明らかになった学力分析により効果的で担任の持ち味を活かした指導法を確立し児童課題の改善に向けて努力をしていく。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立宇川小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ・将来を展望し、未来を拓くために充実した学校生活を送る学校【児童】 ・目指す子ども像を基に、全教職員が連携を図り、責任を持つ学校【教職員】 ・保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】	○国語を重点に授業改善に向けた授業づくりや基礎学力向上の取組み、読書活動等、学力向上の取組みは充実することができた。 △個別の課題に応じた指導や更なる授業改善など、全児童の学力定着は課題である。 ○児童同士の人間関係や思いやりの心は育ってきた。自己肯定感や主体性を更に高めていきたい。 △地域や学園と連携した学習を充実させることができた。さらに児童に付ける資質・能力を明確にした教育活動を実施していく必要がある。	○へき地、小規模校の特性を生かし、保幼小中一貫教育や地域連携、教育課程の工夫により、特色ある学校づくりを行う。 ・個々への丁寧な指導と授業改善を行い、児童に確かな学力を身に付けさせる。 ・多様な人との関わりの中で、主体的、創造的な活動と最後までやり切らせる指導で、自信や自己肯定感を高める。 ・規範意識・人権意識を向上させ、何事も自分で考え、判断し、よりよい行動や生活ができる自立と共生の力を高める。 ・地域との連携を強化し、地域に愛着を持つ教育活動を展開する。 ・家庭と連携し、基本的な生活習慣・家庭学習の習慣化を図る。

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1　児童にとって「分かる・できる」授業、主体的・対話的で深い学びの授業を行い、学力向上を図る。 2　個に応じた指導や家庭学習、読書活動を充実させ、基礎学力を定着させる。	1　国語を重点教科として理論研修や全学年で授業研究を実施し、授業実践力を高め、新学習指導要領の趣旨に沿った授業改善を行うことで、目指す児童の資質・能力を高める。 2　実態把握を基に、個人カルテの活用やドリルタイム・放課後補習等、個に応じた指導を進める。学力強化月間を設定し、学習意欲の向上と家庭学習、読書活動充実の具体化を図る。	○生徒指導の三機能を活かし、児童同士が学び合い読みを深める授業研究を全学年で実施し授業実践力を高めた。児童はほぼ全員、「授業が分かる」とアンケートに答えている。 ○年３回、学力強化期間に計算チャレンジ、輝きノート等の取組みを全校一斉に実施し、計算力や丁寧さ、自主学習の意欲が高まった。また全校の目標を設定し、読書貯金や様々な取組み、外部・保護者との連携等で全校の読書量が増加した。 △全校的に読む・書くこと、算数の考え方等に課題がある。更に授業改善を進め、全児童の学力向上を目指したい。
	生徒指導	1　生徒指導の三機能を活かし、児童自らが課題解決する実践力や自己管理能力、自己肯定感を高める。 2　人権意識・規範意識の高揚を図りいじめのない全校児童が楽しいといえる学校生活を送らせる。	1　様々な取組みにおいて、目標設定と具体化を児童に考えさせ、協働し、達成させる指導を行う。また、その振り返りや互いの良さを認め合い伝え合う場を設定する。 2　道徳科や人権月間を中心に人権意識・規範意識を高める指導や取組みを行う。 全教職員で全校の児童理解を深め、日常の観察やいじめアンケートから、児童実態を把握し、気になる事象は組織的に早期対応に努める。	○行事の内容を新たに考え、児童主体に取組みを行った。目標設定とその振り返りが定着し、人権旬間等では自他の良さを見つける活動もできた。児童アンケートでは「協力」「仲良く」「良い所を見つける」で全員が肯定的評価をした。 ○毎月学級・児童の実態交流やいじめアンケートで状況を把握し、些細な「嫌なこと」も解消するようにした。ほぼ全員の児童が「学校が楽しい」と答えている。新型コロナによる人権侵害についても全校一斉に指導した。 △自己肯定感の低さや思いを表出する課題、元気な声での挨拶や廊下歩行の規範意識は、更に改善に向け取り組みたい。

	健康（体育）・安全	1　体力の向上と基本的な生活習慣を確立させ、強い体をつくる。 2　安全に生活するための知識や判断力、行動力を育成する。 3　粘り強く挑戦する態度を養う。	1　目標設定や特活の取組みを積極的に行うことで、意欲的に運動させ体力向上を図る。年３回の「元気貯金」では、基本的生活習慣の大切さを理解させ、家庭への啓発や気になる児童へは個別に指導を行う。 2　安全に関わる行事や学級指導、外部講師による学習だけでなく、日常での安全の意識や実践力を高める取組みを児童委員会等でも行う。 3　意欲を継続しやり抜く手立てや個に応じた支援を家庭とも連携し組織的に行う。	○運動会や水泳・遠泳等の行事は中止となったが、工夫した運動の取組みや全校の体力づくりを行った。放課後の陸上練習や各自の自主練習、地域の方の協力もあり、駅伝大会３位に入賞することができ、大きな励みになった。 △基本的生活習慣は、懇談会や個別で指導をしているが、児童自身が生活や行動を意識し改善できるよう粘り強い指導が必要である。 ○避難訓練や交通指導等、外部講師が招聘できず、校内で安全指導をした。特に新型コロナ感染予防は、繰り返し指導し保護者への啓発、委員会の取組み等で徹底した。 ○目標設定やカードの記録等の支援をし、「最後までやり抜く」は、児童・保護者アンケートともに昨年度を上回るよい結果となった。
	特別支援教育	1　個別の教育的ニーズや特性に応じたきめ細かな指導・支援を計画的・組織的に行う。 2　障害児者理解教育を進める。	1　個別の指導計画の内容を全教員が共有し、課題のある児童には校内体制を組み支援を具体化する。保護者や関係機関とも連携し、定期的な懇談を持ちながら指導を進め、就学指導も計画的に行う。 2　特別支援学級児童と交流学級との学習や全校児童との交流の機会を増やす。人権学習で、障害のある人への正しい理解と互いに協力し合う心情を育てる。	○毎学期の指導計画の見直しと確認、よさの海支援センター等の発達検査、SC・SSW の活用等、サポート委員会による支援の具体化が図られた。それに基づき、保護者との懇談や就学指導も計画的に行うことができた。 ○支援学級の開級式や朝会での発表、掲示物等で、支援学級児童の頑張りや良さを伝え、理解教育が進んだ。 △個別に手厚い指導の必要な児童へ、時間的・体制的に十分な支援ができなかった。
	特色ある学校づくり	1　へき地・小規模校及び地域の特性を生かし、児童の活躍と主体的な学びがある教育活動を進める。 2　地域のことを学び、地域への愛着と地域の未来を考える児童を育成する。	1　様々な人と関わり、コミュニケーションを図る多様な教育活動（交流・体験活動）を行う。個々が達成感を持ち活躍できる教育活動を学級や全校で工夫し実施する。 2　生活科や総合的な学習の時間等で、家庭や地域と連携し、地域素材・地域人材を生かした探究学習を充実させる。また、地域の人との交流や学習内容の発信も積極的に行う。	△学級や委員会活動等では、責任と意欲を持って活動した。しかし地域の人や学園の交流・体験活動は、制限により実施できないことも多く、異年齢活動もできることを工夫して取り組んだが、達成感を持つ取組みは十分できなかった。 ○制約がある中で計画通りに実施できなかった内容や学年もあったが、例年以上に幅広い観点から地域のことを調べ、まとめ、地域に発信する学習ができた学年もある。 △地域の方に行事等で来校いただく機会がなく、地域と連携した教育や地域の方への丁寧な対応が十分できなかった。
次年度に向けた改善の方向性	・児童の主体性や協働性を高め、ICT 活用による授業改善と個に応じた指導により、学力向上を目指す。 ・自己肯定感やコミュニケーション能力等、非認知能力を高め、自分の思いを伝え合える力を育成する。 ・保幼小中一貫教育や地域連携を重視し、小規模校の課題軽減と効果的な教育活動を推進する。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立吉野小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　生徒指導の３機能を生かした授業づくりと学級経営を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 2　確かな学びの力と豊かな人間性をはぐくみ、一人一人が大切にされる心の育成を図る。 3　家庭地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4　学園の保幼小中一貫教育を、様々な取組みを充実させながら推進する。	○各学年とも、生徒指導の３機能を生かした授業づくりと学級経営を進めることができた。 ○教員の指導力や資質の向上を図るため、校内・学園等の研修を充実させ、学び合う教員を育成し、授業改善を進めることができた。 ○家庭と連携して、個別の線にかかる資料の整備を行い、障害や特性に応じて児童や保護者のニーズに合わせた支援・取組みができた。 ○学園の取組みと連動させながら自主勉強の取組みを進め、家庭学習の充実や主体的な学びにつなげることができた。 △安定した学級経営や授業改善に努めたが、評価テストの高得点にはつながらない課題がある。 △更に実態に応じたきめ細かな指導の充実と、丁寧な家庭との連携を、組織的に継続して行う。	1　生徒指導の３機能を生かした授業づくりと学級経営を行い、主体的・対話的で深い学びの授業改善を図り、基礎・基本の確実な習得と定着、質の高い学力の育成を目指す。 2　様々な活動を通し、思いやりの心や豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」を推進する。 3　家庭・地域、関係機関との連携を深め、信頼される学校・特色のある学校・開かれた学校づくりを通し、「生きる力」の育成に努める。 4　就学前から中学校卒業までを見通した、弥栄学園保幼小中一貫教育の推進及び充実を図る。 5　中堅教員の指導力、対応力の向上を図り、人材育成を行う。

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1　生徒指導の３機能を生かした授業づくりの推進 2　主体的、対話的で深い学びの授業づくりの実践（授業改善）	1　生徒指導の３機能を生かした授業づくりと学級経営を一体化させた指導を推進する。 （1）　授業づくりを通して学習意欲の向上を図るとともに、主体的に自主学習に取り組む指導と環境づくりを進める。 （2）　学園の取組みと連動させながら、学級や児童の学力課題克服のための取組みを進める。 2　主体的・対話的で深い学びの授業づくりの実践を積み上げ教員の指導力向上を図る。 （1）　校内や学園の授業研究会や研修の機会を活用する。 （2）　出前講座等を活用する。 （3）　学習評価の在り方に関する校内研修を実施し、新学習指導要領に示されている目標に照らし、児童の様子を正しく評価するとともに、授業改善を図る。	○各学年とも、落ち着いて学習に向かうことができた。 ○コロナ禍ではあったが、校内授業研究会だけでなく弥栄学園の授業研究会も予定通り実施でき、教員の授業力の向上を図ることができた。 ○学習評価の在り方に関する校内研を実施し、新学習指導要領に示された目標を意識して児童の学習評価をすることができた。 △各学年において新指導要領の理念に基づいた授業改善を図ることはできたが、児童の学力向上のためには、さらに読書に親しむ習慣をつけていく必要がある。（家庭での読書量が減り、長文の読解に課題がある。）
	生徒指導	1　生徒指導の３機能を生かした学級経営を行う。 2　いじめや不登校の未然防止に努める。 3　人権意識や規範意識の高揚を図り、良好な人間関係づくりを進める。	1　自尊感情の醸成 （1）生徒指導部を中心に、生徒指導の３機能を生かした学級経営実践を意識した取組みを行う。 2　いじめ等の未然防止や規範意識の高揚を図る。 （1）実際の指導・交流の中で、若手の人権意識を養う。 （2）非行防止教室・法やルールに関する教育等を行う。 （3）情報モラル等の指導を行う。 3　特活、学校行事等の取組みを通して、望ましい集団活動や多様な体験活動を充実させ、好ましい人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。	○１学期は特に学級経営について重点をおいて取り組むことにより、どのクラスも落ち着いて学習できるようになった。 △ＳＮＳを使ったゲームなどで、トラブルにならないよう、非行防止教室において、ネットの安全な使い方について重点的に指導する必要がある。

	健康（体育）・安全	1　食育・健康な心と体づくりの取組みを推進する。 2　危機管理意識の高揚を図り、学校等の事故の未然防止に努める。	1　食育の推進と、年間を通した体力づくり、手洗い・うがいの徹底など、生活習慣作りを進める。 2　校内研修などにより、職員の危機管理意識を高め、事故等の未然防止に努める。	○コロナウィルス対策として、手洗い・うがいは習慣づけることができた。 △体力づくりについては、不十分な期間もあった。
	特別支援教育	1　特別な教育支援が必要な児童の課題・障害に応じた支援や、指導方法の改善・充実を図る。 2　家庭や関係機関との連携を図る。	1　支援が必要な児童の教育支援計画、個別の指導計画等を整備し、保護者と共通確認のもと児童の指導にあたる。 2　障害のある人を正しく理解するための理解教育を計画的に進めるとともに、特別支援教育にかかる研修を行い、児童の指導に生かす。 3　新設の自閉・情緒学級の指導の在り方について全教職員で学べる研修を企画し、人材育成を図る。	○家庭と連携して、障害や特性に応じて、児童や保護者のニーズに合わせた支援をすることができた。 △さらに実態に応じたきめ細かい指導ができるよう、家庭・専門機関との連携を進めていく。
	特色ある学校づくり	家庭・地域との連携を深め、地域の特色を生かした学校づくりを推進する。	1　伝統や校風を大切にし、本校の特色である異年齢集団活動の充実と創意工夫を生かした教育活動を展開する。 2　郷土への愛着と誇りをはぐくむ。 （1）　保護者や地域人材の積極的な活用を図る。 （2）　丹後学を通して総合的な学習の時間の学習を充実させる。	○△コロナウィルス感染対策によりできない内容もあったが、地域の方に協力していただきできる限り体験活動を行うことができた。
次年度に向けた改善の方向性		・授業改善を図る取組みに一定の成果はあったが、学力テストの高得点にはつながらない実態がある。来年も引き続き新学習指導要領に基づいた授業改善を図る取組みを続けるとともに、読解力をつけるために本校児童の課題である読書活動の強化を図ることが大切である。 ・発達に課題のある児童の多い実態があるので、さらに外部機関との連携を図り、本校の実態に応じた適切な特別支援教育を進められるようにする。		

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子	○国語の研究授業を行うことで、課題であった書く力の向上には成果が見られた。 △発達段階に応じた学習指導を更に工夫改善し、系統的に行っていく必要がある。 ○児童会本部の提案のもと、各学年が学級目標を設定して自治的な動きができるようになってきている。 ○いじめ対策委員会や生徒指導部で児童の気になる状況に対しタイムリーかつ組織的に対応することができた。 △更に一層、児童と教職員との信頼関係を深め、悩みごとがあれば相談できる関係性を深めていく必要がある。	1　組織的な授業改善・学力充実 2　人権教育の充実 3　特別活動の活性化 4　健康安全教育の充実 5　信頼される学校づくり

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1 学力実態と課題に応じて個に応じた指導の充実 2 質の高い言語活動の充実 3 学園課題・学校課題克服に向けた保幼小中一貫教育の推進	1 学力課題分析をもとにした組織的な学力向上・授業改善の取組みを推進する。 2 すべての教育活動において児童の言葉の力を育む活動を推進する。 3 幼児期からの学びの連続性を意識した園小連携と学力課題を焦点化した小中連携を推進する。	○学校外の研修会参加や校内研修の設定、校内授業研究会を通して、単元に効果的に位置付けた言語活動を推進した。校内の掲示物や児童発表にはその成果がよく表れている。学力分析をもとに、特に低学力層に対する補充学習を複数体制で実施することができた。小中合同の活動は、6年児童の中学校進学に対する不安感を軽減していることがアンケート結果から明確となった。 △園小連携における交流活動について、小学校側の指導の視点から活動を進めたため、年長児側からの交流の目的が不明確となった。
	生徒指導	1 好ましい人間関係を築く力やコミュニケーション能力の育成 2 規範意識の醸成 3 不登校やいじめの未然防止、解決に向けた早期発見・早期対応	1 学級活動や児童会活動、異年齢集団活動を通して、児童会と学級が連動する特別活動を推進する。 2 学級指導を中心に発達段階を踏まえた「話し合い活動」を取り入れた活動を通して規範意識を醸成する。 3 生徒指導の３機能を生かした授業づくりを推進するとともに、児童の生活実態のきめ細かい把握に努める。	○例年通りの異年齢活動は行えなかったが、それに代わる新たな取組みを実施することで、児童の活動意欲が高められた。また、学級を単位とした生徒指導の３機能を重視した特別活動を実施することで、学級内のコミュニケーションが深まり、問題事象は例年より激減した。気になる児童について学園間で定期的に共有することができた。 △生活習慣の改善には家庭の協力が必要になり、学校だけでなく関係機関・関係者との連携をさらに推進し課題を解決していきたい。

	健康（体育）・安全	1 生活習慣の改善 2 生活安全・交通安全・災害安全指導の推進 3 体力づくりの推進	1 望ましい生活習慣の形成を目指し、家庭・PTA と連携した取組みを進める。 2 生活安全・交通安全、及び災害安全の指導を推進し、安全に対する知識・理解を深め、行動の仕方を身に付けさせる。 3 新体力テスト分析結果等を生かして、運動量のある体育授業を推進する。	○本校の実態に応じた「感染症対策の基本」を作成し、これをもとに学級指導や特別活動の取組みに繋げた。「授業や活動を通じて定着させる」ことで、健康に関する児童の意識が高まり、体調不良による欠席者は例年より減少した。各種の安全指導は例年のような形で実施できなかったが、学級単位で実施することができた。 △コロナ禍でＳＮＳ・インターネット利用者が増え、それによるトラブルや睡眠不足等の問題が起こっている。今後も PTA 活動と連動させた取組みを進めていきたい。
	開かれた学校づくり	1 学校からの発信の充実 2 地域人材の活用	1 学校や学園の取組み・様子を発信し、理解と協力を得る。 2 学校支援ボランティアを活用し、学習効果をあげるとともに地域とのつながりを深める。	○総合的な学習の時間や社会科等では、どの学年も地域人材の力を取り入れた学習活動を実施し、様々な事柄を学ぶことができた。児童アンケートの「弥栄町のことが好きだ」の肯定的評価が非常に高く、故郷を愛する心情が養われていることが分かった。 △行事等の様子については、HP や学校だよりで発信することができたが、日々の学習活動や学校生活については不定期のため、もっと発信してほしいという保護者からの要望が多かった。
	人権教育	1 自尊感情、差別解消につながる態度の育成 2 指導者としての人権意識の深化と高揚	1 各教科等と人権学習とを関連付け、自尊感情や自己有用感、コミュニケーション能力を育成するための学習を充実させる。 2 日常の業務を中心に OJT を意識した取組みを進め、差別や偏見等による生きづらさを抱えた人々に係る人権問題に対応する。	○職員研修を 3 回実施し、家庭や子供の気持ちに寄り添うことの重要性を再確認し、日常業務での意識化を図った。日常の学習活動において保護者や児童への配慮する場面が増えた。 △新たな人権課題について、教職員自らが正しい認識をもてるようにするために、校内研修等のさらなる充実を図る必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	①信頼される学校づくりに向けた情報発信、迅速・誠実・丁寧な対応を心がけるとともに、危機管理意識を全教職員がしっかり持ち、日々の教育活動に取り組む。 ②働きがいがあり、かつ健康的な職場づくりを進める。 ③学校運営協議会の仕組みを学校課題解決の手掛かりとして最大限に活用する。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立久美浜小学校　〕

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を意識した教育活動を推進する。 1　質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。 2　質の高い学力を培う基盤として、児童同士及び教職員と児童との好ましい人間関係の構築を一層進める。 3　中学校卒業時の生徒像を常に意識し、学園教職員として互いに理解し合い、学園経営と学校経営の連携を図りながら進める。	○落ち着いた学習環境づくりを基本とし、学習内容の基礎基本の定着を図ることができた。また、ＩＣＴの活用等による学習意欲の向上や視覚支援等の指導の工夫を見出すなど、授業改善を進めることができた。 ○学校に来にくい児童についても、落ち着いた学級経営や家庭との連携を丁寧に進める中で、改善が見られる児童が増加した。 △「学力の向上」及び「主体的に学ぶ力」の育成を目指し、生徒指導の三機能を生かした学級づくり、学習内容を確実に定着させる授業づくりを行う。 △教職員の授業準備や研修の内容充実、時間確保を進め、教職員自らの授業実践力や学級経営力の向上を進める。	「すべては久美小の子どもの成長のために」 ～子どもに力を付けることを強く意識する～ 1　教育活動のキーワード『「尊重」「協働」「サポート」』 2　そのために大事にすること （1）目標・目的を明確にした上で具体的方策を考え、評価を踏まえた具体的な改善策の検討を重視する。 （2）肯定的評価や指導のあり方等、教育活動を進める指導観について学び合い、教職員がコミュニケーションを大切にしていく。 （3）児童一人一人の力を伸ばすための学習指導力や学級経営力を高める努力をする。

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	「主体的に学ぶ力」の育成 1　基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、見える学力としての 12 月のＤＲＴの結果（標準得点）を、昨年度よりも学級平均の向上や個人別に伸ばす児童の増加を目指す。 2　学習課題に対する学び合わせ方を向上させるとともに、ＩＣＴ機器の効果的・有効的な活用を見出す。	1　「分かる」「考える」授業づくりにおける工夫を行うとともに、ドリルタイムや家庭学習では習熟を目指した「量の確保」を進める。 2　単元全体を見通し、付けたい力や学習内容を明確にした上で、発問や指示、学習活動を適切に位置付け、考えたり表現したりする力を伸ばす。 3　「話し合い」に係る力の積み上げを土台に、ＩＣＴ（タブレット等）の活用を含めた授業改善を行う。 4　一斉による指導のほか、個別に配慮しながらの指導も組み合わせ授業を構想していく。	○昼のドリルタイムを活用して、全校で重点的な内容に絞り、継続的に取り組んだり、ICT 機器の活用し視覚的な支援により「わかる」授業づくりを推進したりした。 ○12 月実施の DRT の結果、８学級中７学級が全国平均を上回った。標準得点による昨年度の比較においては、国語では２・３・５・６年、算数では２・５年で上回り、３・６年算数で同程度となった。また、個別においては、約 45～51％の児童が上回り、約 20％の児童が同程度となり、65～70％の児童が同等以上の力を付けることができた。 △今後も落ち着いた学級経営を継続し、児童相互のかかわりの中で主体的に学ぶ力を向上させる。
	生徒指導	1　気持ちよく生活できるための必要なマナーやルールを考えて行動できる力、相手を思いやる心の育成を進めるための授業や取組みを進める。 2　「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向け日常的な指導、相談活動をさらに充実させる。	1　具体的な児童会や委員会活動と「当たり前ルール」の重点事項の指導を関連させ、全校で焦点化した取組みを行う。 2　生徒指導の三機能を生かした日常的な学級づくりを土台とし、全校的な異年齢活動の取組みを節目づくり行い、好ましい人間関係を育成する。 3　日々の子どもたちの様子を全教職員で見守り、組織体制の中で情報の共有や見立て、方針を確認し取り組んでいくことで、「いじめ」や「不登校」の早期対応を行う。また、常に起こりうることを想定しながら危機感を持って教育活動を進める。	○「主体性」をテーマとし、学校生活の課題や「久美小当たり前ルール」を関連させ、児童に考えさせたりするなどして、課題克服に向けて取り組むことができた。（５分前行動、スリッパ揃え、下校集合のあり方の改善等） ○コロナ禍で異年齢活動も制限されたが、少ない取組みの中でも、高学年のリーダー性の発揮や異年齢のかかわりの機会をつくることができた。 △本年度は、不登校傾向児童が１名増加し２名となった。本人の自己決定を大切にしながら、継続的な見守りを継続している。

	健康（体育）・安全	1　基本的生活習慣を確立させるとともに、元気なあいさつを定着させる。 2　安全な生活を営むための対応力を育成する。	1　「久美小当たり前ルール」から重点的にテーマや期間を設定して、全学年による意識化を図る。 2　児童会や教職員と連動したあいさつの習慣化に向けた取組みを展開させるとともに、家庭・地域にも周知・広報を行う。 3　交通事故や不審者情報、学校内外での怪我等の具体的な事例を教材化し、情報を正しく判断できるようにする。	○新型コロナウィルス感染症対策を行ったため、手洗い・うがい・マスク着用・家庭での検温等を徹底することができ、体調不良者が少なかった。 ○１年間、地域の見守り活動及び家庭での指導、学校での学習や指導により、登下校中の交通事故や大けがはなかった。 △日常的な様子やアンケート結果からも、児童と大人との「あいさつ」に係る意識の差があり、あいさつの習慣化を目指す必要がある。
	研修（資質向上の取組み）	1　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、これまで積み上げてきた「話し合う力」と「主体的な学び」とを関連付けた校内研究・研修の充実を図る。 2　初任者研修を活用し、教科指導や生徒指導、学級経営等の基礎基本を研修し、実践力を高める。	1　「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業改善に向けて、具体的な子どもの姿とそれに向かう指導方法の研修を進める。 2　「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点による評価のあり方の研修を進める。 3　改めて、初任者研修（勤務校研修）の場を活用し、自分自身の実践を振り返るとともに、教科指導力・生徒指導力・学級経営力・分掌経営力を再確認しながら、学校全体としての研修を進める。	○新学習指導要領実施に係り、新しい３観点による評価について、算数での具体的な児童の言動や表現をもとに研修をすることで、授業改善につなげることができた。 ○ICT の研修により、特に４年生以上で１人１台タブレットを１日１授業で活用できた。そのことで、意欲的な調べ学習や意見発表を行い、主体的な学びにつなげることができた。 △タブレットの活用についての研修を積み重ね、これまでの授業とのよりよい融合と深化を目指す必要がある。
	特色ある学校づくり	1　保幼小中 10 年間を見通し、中学校卒業時の生徒のあるべき姿を明確にしながら教育活動を推進する。 2　地域に学び、地域とともに歩む学校にする。	1　学力充実に向けて、学園共通の「付けたい力」の系統性及び「授業づくりの視点」を意識した授業実践を積み重ねる。 2　生活科や総合的な学習の時間等の学習内容に関連した新たな地域資源を発掘するとともに、より地域に密着した学習内容を構想する。	○４年生が中心となったチーム遠足、３年生の祭りの探索、２年生の言い伝え調べなど、生活科や総合的な学習の時間、特別活動を活用し、地域と密着した学習活動が推進できた。 ○コロナ禍もあり来校する機会がないため、不定期ではあるが 114 回の HP 更新を行い、71032 件（昨年度比約 17000 件増加）のアクセスがあった。(2/26 現在)
次年度に向けた改善の方向性		1　これまでの久美浜学園の教育活動の積み重ねを土台として、協働性を高めるための具体的なテーマ設定、「主体的な学び」に向けた基礎学力の定着や付けたい力の明確化、学校が起因する不登校の解消について具体的に取り組み、一歩ずつの改善を目指す。 2　「目標の明確化」「児童相互のかかわり合い」「肯定的評価（価値付け）」の３つの視点を、教育活動に位置付けると共に指導を積み重ねることで、児童に「主体性」を発揮させることを目指す。 3　本校の課題である「学力向上」に向けて、研究推進による授業改善や学力向上の取組みを継続するとともに、①生徒指導の３機能を生かした授業づくり、②「基礎基本の定着」と「主体的な学び合い」のある授業づくり、③ICT（タブレット・電子黒板等）を効果的に活用した授業づくりを進めていく。		

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立高龍小学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 ―　子どもの実態や系統性を踏まえた指導　― １　基礎・基本の徹底 ２　主体的に学ぶ力の伸長（授業づくり） ３　家庭学習時間の確保	○　年度当初に比べ、授業や集会等で落ち着いた態度で話を聞けるようになり、トラブルや問題事象も減った。 △　規範意識の低さがあり、引き続き高める必要がある。 △　授業規律の確立を基盤として、国算の基礎・基本の力を身に付ける必要がある。 △　個別に支援が必要な児童が多く、保護者、関係機関と連携し、児童の自己肯定感を高める必要がある。	◎　『しっかり勉強・やさしい言葉』 ○　安心感のある学校 …勉強が分かる・できる、いじめがない ○　期待感のある学校 …学校が楽しい、友達と遊べる ○　考える力を伸ばす …自ら学ぶ・友達と関わる授業、読書

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	①ねらいが明確で「わかる」「できる」授業づくりを進め、主体的に学習に取り組む態度や知識・技能の習得を図る。 ②全校体制で個に応じた指導・学力補習体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。 ③身に付いた知識・技能を用いて思考・判断・表現する力を育成する授業を進める。	①学力実態、児童実態を踏まえ、ねらいが明確で児童が意欲的に取り組める授業づくりを進める。 ②朝ドリル時間を設定し、内容の見直し・充実を図り、基礎・基本の学力を定着させる。放課後補習に全校体制で取り組み、個別に支援が必要な児童の補充学習を行う。 ③校内・学園での授業公開、研究授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを進め、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばしていく。	○　「みんなが分かる・できる楽しさを実感できる授業づくり」を設定し、研究授業、授業力アップの取組み、初任者研究授業を行った。学力や児童の実態・課題に合わせて導入や発問を工夫し授業改善を図った。 ○　保護者アンケートでは、「ねらいが明確で分かる・できる授業」について、82%が当てはまると回答が得られた。 ○　漢字検定、算数検定を実施し、児童が主体的に学習に向かう場を設定することができた。 △　各種学力テスト等から分かる基礎的な学力については依然として課題が大きく、授業づくりと基礎的な学力の定着を両輪として取り組んでいく。
	生徒指導	①自分や友達のよさを認め合い、伝え合う活動を積極的に取り入れる。 ②友達の名前を正しく呼び、発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する。	①教師が児童のよさやがんばりを積極的に見取り、肯定的な評価・声かけを基盤として、明るく前向きな学校の雰囲気を醸成する。 ②①を基盤としながら、友達同士の優しい言葉かけ、正しい名前の呼び方を定着させ、いじめやトラブルを未然に防止する。	○　全校で生活目標を設定し、目標設定⇒取組み⇒振り返りのサイクルで取組みを進めることができ、児童の落ち着いた生活や規範意識の醸成につながった。 ○　達成目標の一つとして「やさしい言葉」を設定し、肯定的な声かけを行うことにより児童間のトラブルが減り穏やかな関係づくりにつながった。 ○　保護者アンケートでは、「自分や友達の良さを認め合う」83%「名前を正しく呼び思いやりの心を育成する」78%の肯定的な回答を得られた。 △　臨時休業明けの学校再開後、学校や学級に向かいにくい児童が数名おり、保護者や関係機関と連携しながら取組みを進めている。今後も職員の情報共有や共通理解を基盤として取組みを継続する必要がある。 ○　不登校児童の対応については、教育相談部会、支援部会、個々のケース会議の校内体制を確立し、情報共有と方針立てを共通確認しながら進めた。

	健康（体育）・安全	①全校的な体力にかかわる取組みの充実により、体力向上を図ったり、基本的生活習慣を身に付けさせたりして、粘り強く挑戦する心と体を作る。	①児童の生活習慣や体力の現状をもとにして、様々な運動や遊びに親しませるようにする。期間を決めて、持久走、なわとび等、体力づくりの取組みを行い、体力や調整力の向上、粘り強く取り組む態度を育成する。インターネット、情報機器の使用について、家庭と連携して望ましい使い方の指導を繰り返し行う。	○　感染症予防に留意しながら、体力づくりの取組み、大縄記録会、スポーツ祭などを実施することができた。
	(A) 人権教育	①教職員の人権意識の向上を図り、一人一人の児童を大切にした教育活動を推進する。 ②人権学習の授業実践力を向上させる。	①職場人権研修担当を中心として、人権研修ハンドブック、コンプライアンスハンドブック等を活用し、研修を充実させる。 ②人権学習の授業研究を行い、授業実践力を向上させる。	○　人権月間を設定し、保護者等へ向けて授業を公開することができた。 ○　各種資料、通知等を活用し教職員の人権意識の向上を図った。 △　同和問題については意識が薄くなっており継続した研修が必要である。
	(B) 開かれた学校づくり	①丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進め、家庭・地域・関係機関等と連携を図る。 ②保育所・園、幼稚園・中学校等との取組みを進め、一貫した教育を強化する。	①管理職、情報教育担当を中心に、学校ホームページをこまめに更新し、内容の充実を図る。学校だより、学級通信等で、学校の様子を分かりやすく発信する。 ②保育所・園、中学校等との取組みを進め、一貫した教育を充実・強化していく。また、学校公開（授業参観等）、学校行事を通して、地域へも積極的に学校を公開していく。	○　ホームページをこまめに更新し学校や児童の様子を知らせることができた。保護者アンケートでは「情報発信と学校公開を進めている」について87%の肯定的な回答を得られた。 △　1学期中に担任と保護者が話す家庭訪問や個人懇談などが設定できず、児童の指導に困難さがあった。 △　保・小・中の連携については、感染症予防の観点から例年通りの取組みは実施できなかった。
次年度に向けた改善の方向性	・　昨年度までの児童課題を踏まえ、目指す児童の姿として「しっかり勉強・やさしい言葉」を設定し取り組むことにより、児童が我慢強く取り組むことや、トラブルやいじめの未然防止につなげることができた。次年度も基本的な方向性は継続し、「自分で考えて行動できる力」を一層伸ばしていく。 ・　久美浜学園の教育目標、目指す子ども像を中心にして、学力の定着、不登校の改善を図る。とりわけ、見える学力について確実に児童の力を伸ばすことと、不登校の未然防止、児童の居場所づくりについて重点的に取り組む。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立かぶと山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
（１）居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成 （２）学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力を充実させる学習活動の推進 （３）家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進	○高学年が当たり前の行動を示し、落ち着いた雰囲気、みんなでがんばろうとする意欲が高まった。 ○児童理解に努め、教育相談部を中心に組織的に動き、配慮を要する児童に対する手立てがとれた。 △担任への指導が不十分で、学級経営が不安定な学級があった。 △基礎基本を徹底させることと既習内容を使って理解を深める授業展開に弱さがあった。	（１）居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成 （２）学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力を充実させる学習活動の推進 （３）家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進

	評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	○「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識した授業改善を行う。 ○児童一人一人に基礎・基本を定着させ、学び合い活動を深める。	・授業展開を工夫し、学ぶ意欲の持続と根気強く努力する力を向上させ「やってみよう・できた」を実感させる。 ・丁寧さ、正確さ、速さ、量を求め、書くことへの抵抗をなくして記述力、表現力を伸ばし、学び合いにつなげる。 ・どんな力をつけるのか、単元構想をもち、１時間で教える内容を教えきること意識する。 ・学習内容の習熟のため、自信をもって宿題に臨めるようにし、家庭学習を充実させる。	○授業研３回の事後研究の充実により、どのように授業を構想するか焦点化をして実践・検証が行えた。 ○各教科でICTを活用した授業を行い、ICTの長所と短所が分かり、主体的に学びに向かわせるための有効な活用方法について研究できた。 ○コロナ禍において研修機会が制限されたので、校内で参観し合い授業研究に努めた。 △題意を読み取る力、問題を解くスピードについては定着させきれなかった。
	生徒指導	○安心と安定感のある学級経営の充実を図る。 ○規範意識を高め、基本的生活習慣を確立する。	・生徒指導の３機能を活かした学級経営の推進により、望ましい人間関係を育成する。 ・友達とのトラブルを解消する過程から、自己と他者の折り合いのつけ方を学ばせる。 ・日々の肯定的評価を積み重ね、自己肯定感を高めるとともに、お互いの良さや頑張りを認め合える集団づくりを進める。 ・児童理解に努め、個に応じた指導を行う。個と集団との関わりの中で、認め合い、成長できるようにする。 ・行動の背景に目を向けて指導に当たる。	○望ましい人間関係を育成するためのコミュニケーション力として、挨拶、自分の気持ちを言葉で伝えることができるようになりつつある。 ○自分の気持ちを伝えたら解消できた経験を重ね、肯定的評価を行うことで話せる児童が増えている。 ○臨時休業を経て、学級全員で取り組むことの良さを感じた。取組み過程での値打ちを認めることにより、自分の成長や集団の成長を捉え、相互理解ができるようになった。 △不登校傾向の児童に対して、教育相談部を中心に対応した。不登校未然防止として、安心ある学級づくりと個別の対応の大切さを感じている。

	健康（体育）・安全	○規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができる児童を育成する。	・朝の体力づくり（マラソン）を計画的に実施する。 ・家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立に向けた取組みを進める。学園の取組みとしてメディアコントロールを進める。 ・登下校の安全に対して、安全ボランティアの方々と連携した取組みを進める。（付添い登下校、にこにこカーによる見守り、毎月の登校指導等）	○全校一斉の朝マラソンは実施できなかったが、感染症予防対策を講じながら、工夫して実施可能なことを考えで体力作りを行った。 ○臨時休業明けに生活リズムを整える取組みを行い、学校の生活リズムに戻せるように指導し、感染症に対する不安を取り除くためスクールカウンセラーとの連携を深めた。 △登下校の安全については、ボランティアの方々と連携してきたが、熱中症対策、熊対策等、網羅するには難しかった。
	特別支援教育	○配慮を要する児童を中心に、すべての児童に対して合理的な配慮を心がけ、適切な支援を行う。	・特別支援学級在籍児童にとどまらず、各通常学級に在籍する配慮を必要とする児童への支援の在り方について研修を深める。 ・スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザー、市臨床心理士と連携し、配慮を要する児童への適切・有効な支援の仕方を探る。また、必要に応じて保護者への啓発を進めていく。 ・個に応じた指導について、保護者と方向性を確認しながら個別の教育支援計画を作成し、指導に活かす。 ・保護者と今後の進路についても確認し、適切な就学指導を行う。	○配慮を要する児童の交流を短時間、回数を増やして行い、その時々の状況を教職員間で共有して指導にあたれた。 ○スクールカウンセラー、学び生活アドバイザー、市の臨床心理士と連携し、児童理解や対応について助言を受け適切な支援が行えた。 ○保護者との面談を重ね、学校の願いと保護者の願いが共有できるようにした。 △児童の教育支援計画、指導計画を作成することはできたが、指導に生かし切れていないところがある。
	開かれた学校づくり	○学校や児童の様子等を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。	・授業参観や行事への参加、家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にする。 ・学校・学級だよりやホームページを活用し、学校や児童の様子等、積極的に情報発信し理解を得る。そのために、取組みの目的や方法を分かりやすく伝えられるように工夫する。 ・年度初めに本年度の経営方針等を示し、年度末にそれについての評価を得るというサイクルで進める。学校評価や保護者アンケートを活用し改善に活かす。 ・地域人材や学校支援ボランティアを活用して、地域の方とのつながりを広げる。	○コロナ禍で学校行事の中止・延期、規模の縮小が相次いだが、学校の意図を理解してもらい教育活動を進められた。（授業参観２回、運動会規模縮小、学習発表会人数制限） ○行事や取組みの様子を学校便りや学級だより、ホームページにより発信することができた。 △教育活動に対する保護者アンケートの結果を分析し、学校改善につなげていく。 △今後も安心・安全を第一に考えて行事を行っていく。その際の保護者説明を丁寧に行う。
次年度に向けた改善の方向性	・「深い学び」につながる授業改善を行う。そのために単元や１時間の授業でつける力、ねらいを明確にして実践する。（ICT を活用した授業づくり） ・安定した学級経営を行い、不登校未然防止、早期対応につなげる。 ・特別活動を中心として児童の豊かな人間関係づくりに努め、自分の思いを伝える力を伸ばす指導を継続させる。 ・個に応じた支援の在り方を進めていくため、外部機関と連携し指導の方向性を明確にする。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立峰山中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】（社会的自立につなぐ教育） ・保幼小中一貫教育の手法を用いた授業改善と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止	【授業改善と学力の向上】 ○小中一貫教育の成果として、中学校における授業改善が進み、教師の講義型授業からペア学習・グループ学習を取り入れた生徒主体の授業に変わりつつある。 △一部の教科・学年では、学力差が広がり、基礎学力の定着に課題がある生徒が少なくない。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ○生徒の状況が安定し、学校全体がたいへん落ち着いた環境の中で教育活動が進められている。 △不登校出現率が高止まりしており、生徒の気持ちに寄り添った生徒指導や保護者・関係機関との連携がますます重要である。	1　授業改善と学力の向上 ・新学習指導要領の全面実施を見据え、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを進める。特に今年度は「深い学び」を育む授業展開を意識した授業構想力の基礎を培う。 ・社会的自立につなぐための基礎学力の定着を全生徒に徹底する。 2　豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止 ・豊かな人間性を育成するために教職員の人権感覚を高め、すべての生徒を大切にする言動の徹底に努める。 ・「つながる力」の育成を意識した教育活動を展開し、将来的孤立の未然防止に努めるとともに、すべての生徒に「居場所」をつくる取組みを展開する。

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基礎として	教育課程 学習指導	・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業研究を推進する。 ・社会的自立の基礎となる学力の定着に向けた教育活動の徹底を図る。	・「深い学び」を育むために、他者と一緒に学び、自ら探求する姿勢を育成する授業構想について研究を進める。 ・基礎学力を定着させるための授業や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の実践を展開する。	○コロナ禍の条件の中であったが、ペアやグループでの対話型学習も大切にし、学びの集団作りを進めることで、意欲の向上や深い学びにつながる生徒の姿が見られた。 ○補充学習につながりを大切にする「ハートフル♡スタディ」を実施することで参加者の意欲の向上が見られた。
	生徒指導	・生徒指導の３機能を生かした学級経営を柱とし問題行動の未然防止と不登校の解消に努める。 ・いじめの早期発見・早期対応・未然防止への組織的取組みの展開を図る。	・学級経営への支援を組織的・計画的に展開する。 ・いじめアンケートの確実な実施とともに早期発見に向けた二者面談を計画的に実施する。 ・不登校の解消と未然防止に向け、SC や SSW を含む組織的な教育相談体制を確立し、具体的な方針を立て実践する。	○二者・三者面談を年間４回実施し、子どもに寄り添う指導を行った結果、問題事象の発生が昨年度比７割を下回る状況である。 ○不登校出現率の減少を重点として取り組み、元年度出現率 3.56%から２年度 2.09%に減少させることができた。 △しかし、不登校の解消に至らない生徒もおり、社会的自立に向けた組織的な取組みの展開が今後も重要である。

	健康（体育）・安全	・保健教育と管理の徹底を図る。 ・安全意識の向上を図り、交通事故や学校事故の減少を図る。 ・部活動の充実と体力の向上を図る。	・確実な日々の健康観察と感染症予防対策の徹底を図る。 ・交通安全指導を繰り返し行い、交通事故防止に努める。 ・主体的に部活動に取り組むための指導を進める。	○感染防止対策を丁寧に実施することで、自己管理意識も高い状態で維持できている。 ○交通安全指導を徹底することで、交通事故の件数が、元年度７件から２年度５件へと減少した。 △コロナ禍の部活動において制限が多くかかり、十分な活動を保証することができなかった。
	研修（資質向上の取組み）	・初任者研修を柱とし、若手教員の資質能力の向上を図る。 ・新学習指導要領に対応した研修を充実させる。	・全教職員で初任者研修を進めるとともに、若手の講師も含めた育成を組織的に展開する。 ・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを、外部講師を招聘し計画的に進める。	○コロナ禍にあり、初任者研修のスタートが例年通りとはいかなかったが、校内での指導も丁寧に実施し、充実した１年間にすることができた。 ○外部講師を招聘し、深い学びを作り出すための研究授業を実施し、取り組むことができた。 ○「次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業」の研究指定をきっかけに、単元構想を大切にした指導力が高まり、生徒も見通しをもって授業に取り組む姿勢が高まった。 △この研究をコロナ禍の影響もあり他教科に広めきれなかった。
	人権教育	・人権問題についての理解や認識・実践力を高める。 ・教職員の人権意識の高揚を図るための手立てを組織的に展開する。	・日常生活の中の活動や取組みの中で人権問題に関する部分に視点を当て、人権問題の解決につながる行動力を培う。 ・「人権教育に関する教職員の意識調査」の結果を踏まえた研修を実施し、意識の向上を図る。	○新型コロナウイルス感染症に関する人権学習も実施し、自他を大切にする視点を育むことができた。 ○人権教育に関する教職員の意識調査結果からの研修を２回実施し、人権問題に高く関心を持つきっかけとすることができた。 ○教職員の言動について、人権尊重の視点から常に振り返ることを全員で意識し、生徒を大切にする視点を共有できている。
次年度に向けた改善の方向性	① 令和３年度から一人１台のタブレットが導入されることから、ＩＣＴの活用を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを更に進めていく。 ② 人権が尊重される環境づくりを基盤として、不登校やいじめの未然防止を、あらゆる教育活動を通じて実践していく。そのため、教職員の人権意識向上の研修と生徒同士のつながりを深め、居場所を大切にする教育環境の整備を行っていく。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立大宮中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 2　学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 3　健康な体と豊かな心の教育の充実 4　信頼され、開かれた学校づくり 5　教職員の資質能力の向上 6　大宮学園保幼小中一貫教育の推進	○視点を持って合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、分科会での協議が有効で、小中互いに学ぶことができた。 ○第１回授業研究会を京丹後市小中一貫授業研究会と兼ねて実施したことで、研究を深めることができた。 ○全国学調及び府学テ等、各種学テ結果を分析し、校内研修で交流を行った。授業改善や補充学習に生かすことで学力の伸長が見受けられた。 ○「言語活用カリキュラム」の活用を図ることで、思考力や判断力、表現力の育成につながり、深い学びにつながった。 △継続的に不登校が大きな学校課題となる。 △昨年度の「不適切な指導に係る学校危機」を教訓とし、教職員の人権意識の醸成と生徒の心に寄り添った指導を積み重ねる。	1　質の高い学力の育成 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善 ・授業づくり ・生徒指導の三機能を生かした基礎・基本の定着 2　生徒指導の充実、不登校の未然防止と丁寧な支援 3　人権教育を基盤とした指導の展開 4　特別支援教育の充実 ・校内体制の充実と機能化 ・個に応じた指導の充実 5　信頼される学校づくり ・家庭及び地域との相互連携の推進 ・外部関係機関との連携強化 6　大宮学園運営協議会との協働

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	・小中の接続期（Ⅱ期）の指導方法の研究を通した授業改善 ・「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成する授業づくり ・丹後学の研究と推進 ・家庭学習の習慣化に向けた取組みの推進	・大宮学園合同授業研究及び合同研修会を通し、授業改善につなげる。 ・生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力を徹底する。 ・CRTテストの分析を補充指導に生かし、基礎基本の定着を図る。 ・授業スタイルを学園で共有し、授業づくりにつなげる。 ・全教科を通して言語活動カリキュラムを生かし、学びを深める授業づくりを行う。 ・「ことばの力」カリキュラムを活用し、思考力、判断力、表現力を育成する。 ・地域と連携し、自己の生き方について深く考えさせ、キャリア教育を推進する。 ・家庭学習頑張り週間を設定し、家庭学習の定着に向けて家庭との連携を強化する。	○視点を明確にした合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、事前研や事後の研究協議が有効で、授業改善に生かすことができた。 ○授業を公開し、お互いの授業から「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに生かすことができた。 ○各種学力検査の結果を分析し、校内研修で交流協議を行った。授業改善や補充学習に生かすことで基礎学力の定着と向上が見受けられた。 ○「言語活用カリキュラム」の活用を図ることで、思考力や判断力、表現力の育成につながり、深い学びにつながった。 △特別に支援を要する生徒、基礎基本の未定着の生徒が各学年に在籍しており、支援の在り方について共通認識を持ち、個別の指導を丁寧に行い、基礎学力の定着を図る。

	生徒指導	・小中の合同生指部会の開催 ・組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 ・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成 ・不登校生徒の未然防止と早期対応、早期解決 ・いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権感覚の構築	・学園人権・生指部会を通し、連携と情報共有に努める。 ・毎週金曜日に生徒指導部会を開催し、日々の情報共有と指導の一致を徹底する。 ・不登校生徒との信頼関係作りに努め支援を組織的に行うとともに、毎週の教育相談部会の機能化を図る。 ・いじめ防止対策委員会の機能強化を図り、いじめの根絶に向けた取組みを生徒の動きづくりと関連させながら行う。 ・研修を通して教職員の人権意識の醸成を図り、人権教育をすべての指導の基盤にし、生徒同士の信頼関係の構築に努める。	○人権教育をすべての指導の基盤とし、生徒同士の信頼関係の構築とともに、人権学習、人権意見発表会、人権標語等の取組みの充実を進めた。 ○生徒指導部と教育相談部の部会の活性化と早い動き作り、情報の共有化に努めた。 ○いじめ防止対策会議の機能強化を図り、いじめ防止に向けて、全校で取組みを進めることができた。 △新規不登校生徒もおり、不登校の生徒の出現率は依然高い。最大の学校教育課題と捉え、未然防止、早期解消に向けて取り組んでいく。また、引きこもりを出さないよう関係機関と連携していく。
	健康（体育）・安全	・安全教育の充実 ・火災、津波、地震への知識の習得と避難訓練の実施 ・健康教育の充実 ・部活動の推進	・感染症対策を徹底し、安心安全な環境づくりを進める。 ・危機意識の醸成を図り、自らを守る行動を考えさせる。 ・薬物乱用防止教室の開催等による根絶の意識を醸成する。 ・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させるため日々の部活動指導を大切にする。	○新型コロナ感染拡大に危機感を持ち、感染防止を徹底させ、安心安全な環境づくりを進めることができた。 ○生徒会及び専門委員会活動の活性化を進め、学校生活の向上について、生徒に考えさせ行動させることができた。 ○部活動部長会が中心となり、目指す部活動像について考えさせ、目標を持って頑張らせることができた。
	開かれた学校づくり	・地域の教育資源の教育活動への活用 ・各関係機関との連携と協働 ・学園運営協議会（コミュニティ・スクール）との協働	・保幼小中一貫教育コーディネーター及び地域コーディネーターを通じて、大宮学園学校運営協議会（学園コミュニティ・スクール）との協働を進める。 ・各関係機関との連携を強め、情報共有を丁寧に行い、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。	○絵本の読み聞かせ、総合的な学習の時間での講師等地域の方々と学校とをつないでいただくことで、深く学ぶ機会となった。また、学校の様子を知ってもらえた。 △学園運営協議会と連動した具体的な取組みを、生徒会も巻き込みながら協働して取り組む。
	危機管理	・人権尊重の視点に立った指導の展開 ・人材育成の推進 ・コンプライアンス遵守の徹底	・昨年度の「不適切な指導」に係る教訓を実践に生かす。 ・人権教育の研修を計画的に行い、常に共通確認した「大切にしたい指導」に立ち返り、指導や支援にあたる。 ・小さな変化への気づきを大切にし、報告、連絡、相談を徹底させる。 ・学年及び分掌主任の育成を図り、組織的に実践を進める。	○その都度、人権を大切にした指導・支援になっているかを振り返りながら危機意識を持って実践できた。 △生徒への指導支援の初動を大切にするとともに、生徒やその保護者の思いに寄り添った指導支援を丁寧に積み上げていく。
次年度に向けた改善の方向性	1　大宮小中一貫教育の重点である「連携・体験活動の充実」、特に「効果的・効率的精選と教職員のニーズへの対応」をキーワードとして取り組む。 2　学力向上に向け学力分析を指導改善に生かすとともに、校内研修や学園研修での授業研究を通して、指導の工夫・改善に取り組む。また、ICT（授業支援システム、オンライン授業、タブレット等）の活用を効果的に進めていく。 3　大きな学校課題である「不登校」の未然防止、早期対応、改善に向けて、生徒指導及び教育相談機能を強化し、全教職員であたる。 4　大宮学園運営協議会との連携、協働を一層進め、より地域とともにある学校・学園を目指す。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立網野中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす生徒の育成を図る教育の推進 1　規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2　未来を展望し、自ら未来を切り拓く力を付ける。 3　思いやりをもち仲間とともに生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4　自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	○授業改善や指導方法の工夫改善に係る学力向上部からの提起や校内研修等により、授業改善が進展した。 ○小学校の学習指導における具体的な工夫を中学校の指導に引き継ぐことにより、中学校の学習に対する生徒の不安感や段差の軽減を図る取組みを進めることができた。 ○教育活動や家庭や地域との関わりの中で、他者とのつながりの大切さを理解できる生徒が増え、安定した学校生活につながった。 ○関係機関等と連携を図りチームで不登校の改善に努めたが、一層新規不登校の減少及び不登校生徒の改善に向けて指導・支援を強化する必要がある。 ○特別の支援を要する生徒が増加する中、保護者との連携を深め、支援の充実を一層図る必要がある。	「ほめて、認めて、他者（社会）とつなぐ指導」の展開 「つながろう仲間と　つなげよう心を！」を生徒の合言葉に設定し、常につながりを意識させ学校生活を充実させる。 1　指導の重点 （1）学ぶ意欲、確かな学力の育成 （2）豊かな人間性の育成、規範意識の醸成 （3）不登校の未然防止と解決 2　具体的方策の明確化と進行管理 （1）「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進 （2）生徒指導の機能を生かした教育活動の推進 （3）特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1　授業実践力の向上を図る。 2　家庭学習時間を確保し、家庭学習の習慣化を図る。 3　教科横断的な教育活動を推進し、活用する力を育成する。	・研修形態の工夫により、実践の効果検証、指導方法の改善サイクルを重視した授業研究を進める。 ・授業実践においては、特に「対話的な学び」（言語活動）に焦点化し実践を深め、生徒同士の良好な関係性と学びを深め、学びに向かう力・人間性の醸成につなげる。 ・学園組織を活用し、系統的に家庭学習の指導を行い、習慣化を図る。 ・教科、道徳科、特別活動と関連付けた教育活動を推進し、教育効果を高める。	○全体での理論研修、事前・事後の協議を行う授業研究会を継続して開催し、授業改善に取り組むことができた。 ○授業中に「思考をくぐらせる場面」「考えを交流する場面」を意図的に設定することで、生徒は意欲的に取り組んだ。 ○道徳と特別活動を関連付け、指導を展開した。 △家庭学習の定着に取り組んだが、家庭学習の時間確保には課題を残した。
	生徒指導	1　自己指導能力を育成する。 2　いじめ等の人権侵害を未然に防止するとともに、早期解決を図る。 3　不登校の未然防止と解決に向けて、取組みを強化する。	・生徒指導の三機能をあらゆる教育活動の中で教員・生徒が意識し、教員・生徒相互の取組みにより自己指導能力の育成を図る。（居場所づくりと絆づくり） ・「ほめて、認めて、他者（社会）とつなぐ」を合言葉に、実態把握、つながる場の設定、適時性ある肯定的評価の取組みを積み上げる。 ・個々の役割を明確にし、チームとして取組みを推進する。	○教育活動において、生徒は仲間とのつながりを大切にした学校生活を送ることができた。 ○肯定的に評価するとともに、生徒の実態を把握しいじめや暴力事象の未然防止の取組みを進めた。 ○生徒同士をつなぐ、欠席状況等の把握による早期対応、関係機関等の専門性の活用等に取り組み、不登校の改善につながった。

	健康（体育）・安全	1　体力の向上を図る。 2　望ましい食習慣を身に付けさせる。 3　安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成を図る。	・各種体力テスト等の結果を踏まえ、運動部はもとより文化部活動等において健康増進・体力向上の取組みも定期的に実施する。 ・毎月の食育の日、給食週間の取組みをさらに充実させる。 ・避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室等を活用し、自他の生命を守ることの大切さと危機回避能力を育成する。	○部活動や体育の授業をとおして、基礎体力の向上、種目の技能を高めることができた。 ○給食の時間の校内放送、栄養教諭を講師に招いての食育指導等により取組みが充実した。 ○避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室、「ゲーム・ネット講座」を実施し、安全に対する意識の向上、危機回避能力の育成に努めた。
	特別支援教育	1　校内支援体制の機能化を図る。 2　個々の生徒や保護者のニーズを把握し、支援を充実させる。 3　個々の生徒の発達特性を踏まえた指導方法の工夫改善を図る。	・通級指導担当、教科担当、担任、関係機関との連携を強化し、校内教育支援委員会の機能化を図る。 ・生徒及びその保護者との面談を丁寧に行い、保護者の理解を図り連携した支援の継続に努める。 ・生徒の実態を把握し、アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導・支援を充実し、有効な手立てを蓄積する。	○個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づき、該当生徒及びその保護者の理解を図った指導・支援を進めることができた。 ○校内支援委員会の機能化を図ることができ、特別支援教育の充実につながった。 ○学習や生活上の困難さに対する相談・支援を充実し、学校不適応の未然防止にもつながった。
	開かれた学校づくり	1　信頼される学校づくりを推進する。 2　双方向の情報交流を活かし、学校改善を推進する。	・保護者や地域に対して、誠実・迅速・丁寧な対応に努める。 ・たより、ＨＰ等を活用して情報発信に努め、積極的に学校公開を実施し、地域との連携を深める。 ・学校運営協議会（網野学園教育応援会）、地域学校協働活動、地域連携による教育活動、ＰＴＡとの連携等の機会を通して、本校の教育に対する理解を図るとともに取組みの改善を図る。	○保護者との日常の連携を大切にし、保護者の意見等を踏まえ、誠実な対応に努めた。 ○学校だより、学校運営協議会だより、ＨＰの活用により、学校の取組みを積極的に発信した。 △新型コロナウイルス感染拡大防止により、学校公開、授業参観等を自粛しなければならず、その機会が減少した。 ○学校運営協議会を発足し、委員及び委員所属組織から教育活動への支援や意見をいただくことができた。
次年度に向けた改善の方向性	・「ほめて、認めて、他者（社会）とつなぐ指導」という指導観のもと、「つながろう仲間と　つなげよう心を！」を教職員・生徒の合言葉とし、常につながりを意識させ学校生活を充実させる取組みを継続し、安心・安全な学校生活、安定した学校を維持・向上させる。 ・ＧＩＧＡスクール構想により配備される生徒一人一台の端末を活用した授業づくりの実践を進め、生徒の学力向上の取組みを充実させる。 ・各分掌と連携した組織的な取組みを行い、学ぶ意欲の向上、規範意識の向上、学校不適応の未然防止等に引き続き取り組む。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立丹後中学校　〕

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
開校７年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。	「本気で本物を創る」「本気で本物に挑戦する」という合言葉を学校風土として確立させ、落ち着いた学校生活に取り組むとともに、学習、部活動、様々な行事・取組みで力を発揮した。仲間を思いやる校風もしっかりしたものとなってきた。さらに、自己肯定感や自己有用感を高め、学校生活に積極的に取り組む力をつけさせたい。	丹後中学校開校７年目にあたり、個々の生徒が本物を目指し、生き生きと挑戦する学校にする ～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にさらに進める～ ○生徒の個性発掘へ、様々な機会を捉えての挑戦を促す。 ○教育活動（学習・行事・取組み等々）のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動することで、本物を目指す。

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	・互いに認め合い、学び合うコミュニケーション能力の育成を図る。 ・一貫性・連続性のある教育課程を編成し、カリキュラム開発を行う。 ・基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。	・全ての教科で積極的に電子黒板などＩＣＴ機器の活用を取り入れるようにし、生徒指導の三機能を生かした授業改善を行い、確かな学力の定着へ向けた実践を行う。 ・目標と指導と評価の一体化した取組みを、ＩＣＴ活用の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・ドリル学習を１学期から取り入れ、授業内容や家庭学習課題と関連付けるなど工夫し、継続的に取り組ませる。	○全教員が、積極的にＩＣＴ機器などの活用に意欲を示し、スキルが向上してきた。授業に生徒指導の機能活かすためのチェックリストを全教職員が活用し、校内授業研究などで、教員間での工夫内容の交流など研鑽に努めた。 ○評価を通した取組みの充実へ向けて、小学校各学年の単元ごとの総括テスト一覧表作成を通して、研究が進んだ ○毎日のドリル学習を年間通して実施することができた。また、英語や数学において、習熟度別少人数授業やＴＴ指導を行い、個に応じた指導の充実が図れた。
	生徒指導	・ＳＮＳ等の使用について、実態把握による指導を充実させる。 ・育てたい力を共有し、丹後学園のめざす子ども像の実現への取組みを進める。 ・安心できる仲間関係を築かせる。	・ＳＮＳや薬物等に係る「非行防止教室」や講演会を計画的に実施し、自他を大切にして、正しく判断し行動する力を育てる。 ・業間指導における生徒への寄り添い指導を全教職員で丁寧に行い、生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。 ・いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果等を基に積極的な組織的対応・指導に努める。	○生徒へのＳＮＳの危険性や喫煙・飲酒・薬物乱用に係る学級指導は計画的に関係機関等と連携し実施した。次年度新入生保護者への講演会も行った。 ○自己決定の場・自己存在感の与え方や共感的人間関係の育成について研修を進めた。休み時間や空き時間など、あらゆる教育活動の場で生徒に寄り添い、自己指導能力の育成につなげる指導を、全教職員で年間通して行った。 ○毎週のいじめ防止対策委員会・生徒指導部会・教育相談部会で、検討した週ごとの指導の方向性を全教員へ発信し、学校全体で指導にあたることができた。いじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行う。さらに、全教員による「相談タイム」を学期ごとに行い、不登校・いじめの未然防止、早期対応につなげた。

	健康（体育）・安全	・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さも育て、その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。	・部活動の指導を学校生活の向上につなげ、体育系・文化系部活動かかわらず、「辛いときこそ伸びるとき」を合言葉に、豊かな心の育成を図る。 ・丹後学園PTA・丹後学園運営協議会等との連携を強め、あいさつ運動（NHD）や登下校指導を継続する。 ・生徒の安全安心な学校生活のために、コロナ感染など対応など感染症予防など衛生面からも常に危機意識を持ち指導にあたる。	○コロナ禍で活動の制限がある中ではあったが、大会や試合、発表や作品の出展等、日々の頑張りを発信する場として、また、礼儀などを学ばせる場として部活動の指導にあたることができ、文化面での入賞も多くあり、成果がみられた。 ○丹後学園PTA・丹後学園運営協議会等の協力を得て、あいさつ運動（NHD）や登下校指導は計画通り実施できた。生徒の安全安心な学校生活のために、さらに危機意識を持って指導にあたる。 ○△喫緊かつ重要な課題提起を狙って、SNS教育講演会を丹後学園として実施することを計画したが、コロナ禍の関係で、各校園所で、可能な範囲で実施した。感染症予防に係る新しい学校生活様式は、定着できた。
	開かれた学校づくり	・保護者・地域への学校公開等を計画的に行い、開校7年目の教育を理解していただく機会とする。 ・学校だより等の地域への回覧・全戸配布や、学校ホームページを最大限活用して生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。 ・地域人材の積極的な活用を行う。	・様々な教育活動の場面を見ていただく機会を、保護者の方だけでなく、丹後学園運営協議会の委員など、広く地域の方々へ呼びかけ、いただくご意見や感想を学校経営に活かす。 ・地域の取組みへの積極的な参加や、たよりの配付やHP更新などで、中学校の状況を伝えると同時に丹後保幼小中一貫教育を広く発信していく。 ・足を運びやすい地域に開かれた学校づくりに努める。そのためにも、地域学校協働本部等を有効に活用し、支援ボランティアの方々の支援を積極的に活用する。	△学校や学園の行事や取組みは広く案内をし、学校での生徒の頑張りを励ましていただくような環境づくりに努めたが、計画した行事などの多くが、感染症防止のため来校していただけなかった。 ○来校いただけない分、学園HPや学園だよりなどでの参観していただく予定であった行事内容の発信に例年以上に努めることができた。 △学校支援ボランティアの方々に継続して行っていただけるよう、今まで以上に学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努める。
	特別支援教育	・生徒のそれぞれの特性についての理解を教職員間で共有し、一人ひとりの特性にあった支援を、全教育活動を通じて行う。 ・関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。	・個々の課題に応じた指導・支援を、保幼小中の一貫性・連続性を大切にして行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても全教職員で課題共有を大切にし、校内委員会など、組織的に適切な支援を実施する。 ・専門的見立てなどをもとに、校内研や研修会などを通して指導の充実を図り、適切な支援により生徒の力の伸長を目指す。	○個別の指導計画・教育支援計画に沿って、自立活動の視点を大切にしながら、的確な個々の課題をすべての教員が共有し、応じた指導や支援を行うことができた。通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、関係機関と連携を図りながら、共通理解のもと支援を行うことができた。 △関係医療機関等との連携や、校内ケース会議の充実を図るなど、支援の充実のための環境づくりと指導の充実を更に進めていく。
次年度に向けた改善の方向性	・感染症防止を最優先に行い、地域に開かれた学校づくりをさらに進め、地域からの支援などが反映できるような仕組みを考えていく。 ・丹後学園の保幼小中一貫教育をさらに推進させ、学校改善の一つの手法として活かし、学習と部活動の両輪で、確かな学力と豊かな心の育成のために生徒指導の三機能を生かした指導力の向上に努める。 ・GIGAスクール構想や新学習指導要領完全実施に対応した教育課程づくりや授業改善を進める。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立弥栄中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1　全教職員で、生徒・保護者との信頼関係を築く。 2　主体的に学び、たくましく心身を鍛え、人権尊重を基に人間性豊かな生徒を育む教育課程の編成と実施に努める。 3　基礎的・基本的内容の指導の徹底と定着を図る授業づくりを進める。 4　知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育んでいく。 5　未来を拓くために主体的に進路選択ができる能力を育てる。	基礎的・基本的な学習内容を定着させるための指導を継続的に行い一定の成果があったが、主体的・対話的で深い学びについての指導は、今後も研究を重ねる必要がある。 落ち着いた学校生活を送ることができているが、家庭環境や発達課題等から不安定な状態になる生徒も見られるため、専門性に基づいた指導が必要である。	1　人材育成を通して、組織的な指導体制の構築 2　基礎基本の定着と主体的・対話的で深い学びのための指導方法の工夫・改善 3　特別支援教育の充実 4　教職員の資質能力の向上

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり	・学習形態等、校内・中学校区授業研究会の実施と指導方法の改善 ・課題解決型学習の研究と授業づくり ・終 SHR 時の延長学習、教え合い学習での基礎基本の定着	○電子黒板等ＩＣＴの活用、ペアやグループ学習で意欲的に学習に取り組む生徒が増えた。 ○放課後学習や教え合い学習で繰り返し基礎基本の理解が進んだ。 △課題解決型学習を積極的に取り入れ、知識を活用、応用できる力を身に付けさせる。
	生徒指導	・いじめ、不登校の未然防止のための信頼関係づくりと丁寧な対応 ・生徒指導の三機能を生かした実践の推進と自尊感情の醸成	・いじめアンケートや個人面談の実施 ・生徒との信頼関係を構築するための活動の推進 ・問題事象に対する丁寧で早期の対応 ・定例のいじめ防止対策委員会、生徒指導部会、教育相談部会の開催 ・一人ひとりが認められ、他者の意見を踏まえて自分の意見を言える学級づくり	○二者面談や、始業前・休み時間にも教師が意図的に子ども達と関わることで生徒との信頼関係が高まり、生徒が教師に相談しやすい雰囲気ができた。 ○問題事象に対して、様々な視点から分析、対応することで早期の解決につながった。 △自己肯定感を高め、望ましい人間関係づくりができるよう、教育活動全体を通じて引き続き取り組む必要がある。

	健康（体育）・安全	・基本的生活習慣の確立 ・部活動の充実 ・保健・安全教育の推進	・朝のランニングで健康的な身体作りと基本的生活習慣の確立 ・薬物乱用防止教室、性に関する学習、感染症予防等の指導による自分を守るための自律的態度の育成	○保健・安全教育、性に関する学習を行い、健康な生活について考えることができた。 △コロナ禍による行動の制限や、臨時休校等で生活のリズムが取れず心身のバランスを崩す生徒も見られた。より一層、自律的態度を育成に力を入れる。 △ゲーム、インターネットによる生活リズムの乱れ、コミュニケーションの課題、使用に関するルール等、実態把握と啓発に努める。
	研修（資質向上の取組み）	・校内研修による指導力の向上 ・研修会への参加と伝達講習	・課題解決や指導力向上のための校内研修の実施 ・各種研修会への積極的な参加と研修内容の本校教職員へのフィードバック	○講師を招いての研修や、校内の人材を活用しての校内研修を行うことで、生徒理解や指導法の工夫改善にいかすことができた。
	特別支援教育	・特別支援に関する専門的な知識と指導法の習得 ・特別支援コーディネーターによる推進体制の確立	・研修による特別支援に関する理解と適切な指導法の習得 ・特別支援コーディネーターが学年や分掌をつなぎ、教職員が適材適所で指導できる体制を確立	○学習指導について、教科担任会を開催し、個に応じた指導を丁寧に行えるようにした。 △発達の課題に応じた指導をするため、研修を深める必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	1　課題解決型学習を学習指導に積極的に取り入れ、子どもの意欲を高め、自分の考えを発信するとともに、仲間と一緒になって解決策を探求する態度を身に付けさせる。 2　自尊感情、自己有用感を醸成する指導を行い、生徒が生き生きと学校生活を送ることができるようにする。 3　生徒の実態把握に努め、個や集団を伸ばすための指導ができるように研修と実践を行う。			

（別紙様式１）

令和２年度　学校評価自己評価報告

学校名〔　京丹後市立久美浜中学校　〕

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
＜久美浜学園＞　指導の重点：学力向上 (1) 基礎・基本の徹底 (2) 主体的に学ぶ力の伸長（授業づくり） (3) 家庭学習時間の確保 ◆規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ◆久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。 １　「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上 ２　好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 ３　不登校の未然防止と不登校（傾向）生徒の改善 ４　「久美浜学園学校運営協議会」を核とした地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立 ５　新型コロナウイルスと共存した新しい生活様式の確立と「新しい教育の創造」	○全教育活動において、生徒理解及び指導の充実に努め、生徒の自己有用感・自己肯定感が高まった。 ○新学習指導要領への円滑な移行に向けた研究推進、学園が指定を受けた「ＩＣＴ活用による授業改善推進校（京丹後市教育委員会指定）」の研究推進等を軸とした学力向上に係る校内研修（授業研究を含む）を開催し、授業改善に努め、生徒の学びに向かう力の向上、学力の伸長を図った。 ○発達障害のある生徒の実態把握に努め、授業における支援と通級指導による支援を関連づけ、学年部と連携した指導・支援の充実に努めるとともに、授業や学級経営等での配慮・支援に結びつけた。 ○迅速、誠実、丁寧な対応と生徒の変容により、保護者の理解が深まるとともに、信頼関係を築くことができた。 △家庭学習習慣の定着を図るため、家庭学習の手引きの活用、自主学習ノートの取組み、メディアコントロール力の向上の取組みを進めたが、さらに家庭学習の充実に力を入れる必要がある。 △関係機関等と連携を図り、家庭訪問、別室指導等不登校への取組みを強化したが、不登校生徒数が増加するなど、不登校の解消に課題が残っている。	１　教育活動推進上の重点 (1) 規範意識と望ましい価値観の醸成 (2) 「学びに向かう力」「豊かな人間性」の育成 (3) 学力向上の取組みの推進（授業改善、個別学習支援、家庭学習支援、久美浜中版教え合い学習、中1振りスタ、中2学力アップ、地域未来塾、メディアコントロール力向上を図る取組み等） (4) 家庭や関係機関との連携の強化 (5) 生徒指導の三機能を生かした指導による生徒の自己指導能力の伸長 (6) 未然防止、早期発見・早期対応の指導の徹底 (7) 特別活動・学級経営を軸とした主体的活動の活性化（夏ミカンの日、キャリアパスポートの活用、「法やルールに関する教育」等） (8) 特別な支援を必要とする生徒の困難さ・ニーズの的確な把握と具体的支援 ２　組織運営上の重点 (1) 「チーム久美浜中」としての具体的組織的な指導の展開・情報共有・協働 (2) 危機管理意識と即応力、「気づく力」の体得 (3) 安心・安全な教育環境の充実（感染防止、熱中症、不審者対応等） (4) 誠実、迅速、丁寧な保護者対応 (5) 教職員の働き方改革の推進

評価項目		重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	１　学びと育ちの10年間を見通した教育課程の編成、教科横断的な教育活動の推進 ２　授業実践力の向上とＩＣＴ活用の研究推進 ３　家庭学習時間の確保	◇新型コロナウイルス感染防止に伴う職場体験等「総合的な学習の時間」の運用の再検討。丹後学の充実と職業指導や生き方学習を含めた「横断的なキャリア学習」の指導計画の構築 ◇カリキュラムマネジメントの視点での、特別活動（キャリア教育）・総合的な学習の時間・学校行事・教科学習の横断的展開を進める教育計画の内容や配列等を関連付けた教育の推進、キャリアパスポートの活用 ◇校内授業研（「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業）、ＩＣＴの活用研究、公開授業（道徳科、各教科）の実施、補充学習の充実、生徒会の取組みの充実（教え合い学習） ◇各教科の週末課題、「家庭学習頑張り週間」等の取組みによる、メディアコントロール力の向上及び家庭学習の質的向上	○「総合的な学習の時間」の発表は、生き方学習や丹後学、学級活動、合唱などを、キャリア教育の視点で統合させた「キャリアフェスティバル」として開催し、地域の方にも講師で参加していただいた。 ○校内行事の抜本的な再編成を断行し、教育活動相互の関連性と教育効果を優先した取組みとした。 ○２年間にわたる授業づくりやＩＣＴに係る重点研究を、市教育フォーラムで成果発表できた。 △保幼小中の児童生徒及び保護者が共通の課題意識を持つことが出来たが、引き続き学力向上とも関連させて取り組む必要がある。

	生徒指導	1　人権教育、道徳教育、「法やルールに関する教育」の推進と規範意識の醸成 2　いじめの未然防止と解消 3　自己肯定感の高揚、共感的な人間関係の育成 4　不登校（不登校傾向生徒）の解消と未然防止 5　関係諸機関との連携強化	◇人権学習、道徳科等の横断的、継続的な指導の充実 ◇言語活動を基盤とした思考力・表現力を養う学校行事及び生徒会活動における活動の活性化 ◇肯定的評価の重視（「はあとほっとタイム」の充実） ◇ＧＩＧＡスクール構想及びオンライン授業を視野に入れたＩＣＴ活用の授業改善推進校としての成果及び市教育フォーラムに向けた研究成果の蓄積、発表 ◇中核部会の定例化（生徒指導〔いじめ対策〕、教育相談）、「気づき」・「今週の気になる生徒」の発行 ◇関係諸機関と連携した非行防止教室の実施 ◇ＳＣの活用と、教育支援センター「麦わら」、まなび・生活アドバイスザーの巡回派遣、特別支援サポートセンター巡回相談等の活用による専門性の向上	○コロナ差別や中傷に関する人権教育を重点的に展開した。 ○２学期には仲間を思いやったり、いじめを起こさない学級づくりの取組みを行ったりすることにより、生徒の意識が変容した。 △不登校の未然防止や個別の指導を継続したが、出現率は増加した。さらなる未然防止の取組みが急務である。 ○コロナ対応に係るサポーターやＳＣ、ＳＳＷの緊急配置事業により、生徒の心のケアが充実した。
	健康（体育）・安全	1　部活動の充実 2　緊急時対応訓練の充実 3　食育指導、健康教育、安全教育の充実	◇部活動方針を踏まえた適正な部活動指導の実施 ◇緊急時対応訓練の実施（火災、不審者、地震） ◇感染防止を含む健康安全に関する自主的な向上意識を高める指導とマニュアルの徹底 ◇食育、交通安全教室、喫煙防止教育、薬物乱用防止教育、生命のがん教育、性に関する教育等の実施	△感染防止に係る措置により、部活動や朝練習の停止、各種大会の中止など、年間通して制限された活動となった。 ○感染防止の手立てや休校時のオンラインなどが急速に整備され、生徒の健康安全意識が向上した。
	特別支援教育	1　校内指導体制の機能化 2　特別に支援を要する生徒に対する個に応じた指導の充実	◇アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導・支援の実施 ◇支援を要する生徒の把握、有効な手立ての蓄積 ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談 ◇通級指導の実施、保護者・教科担当・担任・関係諸機関との連携の強化	○特別支援教育コーディネーター、特別支援教育充実加配、通級指導教室加配などの担当を核として、個別の指導計画や支援計画に基づいた指導や支援を組織的に展開することができた。
	開かれた学校づくり	1　信頼される学校づくり 2　双方向の情報交流を活かした学校改善	◇保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ◇たより、ＨＰ、ＰＴＡメールを活用した情報発信 ◇久美浜学園学校運営協議会の機能化と地域学校協働活動の推進、地域連携による教育活動の積極的展開	△保護者や地域との連携強化や積極的発信を心がけたが、感染防止への配慮により、学校公開等の機会は減少した。 ○学校運営協議会の初年度の活動や方針を、市教育フォーラムでの発表や学校行事への支援・参加により、学校内外に発信することが出来た。
次年度に向けた改善の方向性	・学園の教育目標に基づいた保幼小中一貫教育を一層推進することにより、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上や不登校の未然防止に努めるとともに、研究授業を含む全体研修や個別研修を充実させる。 ・「人材育成」と「地域連携」に重点を置き、①「組織力の強化」、②「個々の教師力の向上」、③「学園内、地域、高等学校と密接に連携したキャリア教育の充実・活性化」の３点を複層的・具体的に展開、充実させることにより、学校全体の肯定感の醸成や望ましい生活環境の整備を進めていく。			

（別紙様式２）

令和２年度　学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔　京丹後市立峰山こども園　〕

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
“笑顔でつなごう。みんなの　てとて!!” ―　はなそう・つたえよう・みんなのおもい　― (1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。	○保護者や関係機関と連携を持ち、懇談や面談を重ね個々にあった関わりを行うことで、園児一人一人が安定した生活や活動をすることができた。 ○生活や活動を進めるうえで言葉の大切さを伝えていくことができた。また、話すことや聞くことを意識し行動することができるようになった。 ○園児一人一人が主体的に取り組めるような言葉かけや環境作りの工夫を行うことで、意欲的に遊ぶ姿が見られた。 △保護者や地域に開かれた園として、十分な情報発信ができなかった。 △乳幼児保育教育の研修を深め、実践につなげる。	(1)園児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2)園児自らが健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 (3)園児の実態や発達に合わせ支援し、共に育ち合う集団をつくる。 (4)保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。 (5)峰山学園（保幼小中一貫教育）の連携を進める。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の推進 （保幼小接続）	○『峰山学園』の連携 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 (1)意欲を持って自ら学ぶ子ども（知） ・友達とかかわりながら遊びや生活を発展する。 (2)思いやりのある子ども（徳） ・あいさつをする。 ・保育教諭や友達と話をする。 (3)進んで心と体を鍛える子ども（体） ・保育教諭や友達といろいろな運動遊びに挑戦する。	(1)峰山学園経営会議を通して園児・児童の実態から課題点を見つけ、共通の目標を持つ。 （ことば力・聞く力・話す力からのコミュニケーション能力を育てる） (2)中学校との連携 ・福祉体験での交流・参観交流 (3)小学校との連携 ・発表会（生活・音楽）鑑賞・参観と連絡会 ・運動会見学・散歩・体験入学・保育参観と研修会 ・小１スタートカリキュラムの考察と検討実践 (4)私立園との交流 ・５歳児交流会・峰山学園担任会	○経営会議の中で各学校や園の状況を聞き、自園の教育・保育を進めていく上での課題を明確にすることができた。言葉の力の大切さ、やり遂げる満足感、自己肯定感が持てる活動など、経営会議での情報・状況をもとに職員間で話し合い、実践へと進めることができた。 ○参観や担任会など、限られた時間ではあったが、園児や児童、生徒の状況を縦の繋がりとして学ぶことができた。自園においての教育・保育の進め方を考える機会となり、学びと実践に繋げることができた。 ○私立園との交流は、市の担任会に参加を呼びかけ実施できた。互いの情報交流や学びとなり実践に活かすことができた。 △感染症拡大防止により様々な研修などが中止となり、学校や他園との職員間の連携を深めることができなかった。

教育課程	○園児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 ○園児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。 ○自分の思いや考えを表現したり行動したりできる力を養う。 ○日常的に園内外の安全指導・安全対策に留意する。	(1)園内外の自然の中で発見や感動をもつ。 (園内)・砂.泥.水遊び・プール遊び・遊具遊び・園内の野菜.花つくり・小動物の飼育 (園外)・散歩・遠足・草花やよもぎ摘み・ザリガニ捕り (2)あいさつ運動:元気に挨拶を交わし一日を始める。 (3)登園時間や園児の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。 (4)活動や行事に向けての話し合いの時間や場を持つ。 ・自分を知り、友達の良さに気付ける生活や遊びを進める。 ・機会を捉え、思いや考えを伝える。 (5)散歩・交通教室などで交通ルール・集団でのルールをともに考えたり知らせたりする。また、保護者会で交通安全・危機管理について学ぶ。	○様々な体験が学びに繋がり、実体験や感動体験を通して、学びに向かう力や豊かな言葉力に繋げることができた。 ○感染拡大防止による生活様式が変化する中で、感染防止の大切さを知らせるとともに、子ども達自身も気を付け、安全で安心した生活を送ることができた。 ○子ども達の主体的な活動を大切にし、思いや考えを言葉で伝えたり聞いたりしながら協同活動を進め、達成感や満足感を味わうことができ、自己肯定感に繋げられている。 △『挨拶』の大切さを伝え、声をかけたり家庭の協力もいただいたりしているが、園児自らが進んで挨拶する姿の育ちは不十分であった。 △感染症防止等により、散歩の自粛・交通教室など未実施のため、体験を通しての安全指導が不十分であった。
子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い安心して子育てができるように支援する。	(1)子育て相談（随時） (2)園庭開放(毎週金曜日) (3)園開放（月２回） (4)預かり保育 (5)支援センターの利用 (6)一時預かり制度の利用	○担任からの状況報告や連絡・相談を密に行い適切に対応することができた。 △感染症防止のため園開放や園庭開放が中止となることが多く、相談しやすい環境づくりが不十分であった。
研修（教員の資質向上）	○保育教諭の資質向上 ○園内研修の充実	(1)年間研修計画により保育教諭の資質能力の向上を目指した研修に取り組む。 ・公開保育　・担任会 ・事例研修 (2)園内研修の充実を図る。	○感染拡大防止の観点から研修等の中止やweb研修となることが多くあったが、DVD視聴や紙面での意見交流を園内研修に活かすことができ、教育・保育の振り返りや学びに繋げることができた。 △正職員も任用職員も共に学べる機会や場所・時間の確保が難しく、職員全員での資質向上に努めることができなかった。
次年度に向けた改善の方向性	・峰山学園の一員としてこども園の情報を発信し、一貫教育での縦の繋がりを大切にしながら連携を深めていく。 ・ＰＤＣＡサイクルに基づいた質の高い教育保育実践に努めていく。 ・思いや考えを出し合い、身近な人や友達とのかかわりを大切にしながら活動を進めていく。 ・開かれたこども園として、日々の活動や行事の実施の仕方など工夫しながら、保護者や地域に発信していく。 ・安全教育や危機管理について学びを深め、安心安全な環境づくりに努めていく。		

（別紙様式２）

令和２年度　学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔京丹後市立大宮こども園〕

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
人との関わりや体験を通して、心豊かでたくましく、生き生きとあそぶ子どもの育成 ○健康で安全に活動する子どもの育成 ○身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子どもの育成 ○人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを素直に表現できる子どもの育成 ○素直で思いやりのある、積極的に関わり合う子どもの育成	○大宮学園小中一貫教育の推進により、保育所・こども園・小・中連携活動の充実を図ることができた。 ○主体的な活動・体験活動の充実、心の教育の充実、生きる力の基礎基本の育成を図ることができた。 ○「大宮こども園」の教育活動への理解を広げ、子育て支援の充実や家庭の教育力の向上を目指して、教育活動・丁寧な発信の充実を図ることができた。 △各種たより、園ＨＰ、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、家庭との効果的な情報連携の工夫を行う。	○園小の効果的接続を目指し、アプローチプログラム改善、園小連携活動の充実を図る。 ○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同する力を育成するための日常教育活動・異年齢活動・体験活動の充実を図る。 ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領による教育・保育に係る理論・実践研修を充実させ、指導力向上を図る。 ○家庭・地域との連携を密にし、教育活動、子育て支援の充実を図る。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の推進 （保幼小接続）	○大宮学園教育目標の具現化に向け、大宮こども園教育活動を充実させる。 ○大宮学園保・園・小・中連携教育活動を充実させる。	○全ての園教育・保育場面で、「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を図る。 ○年間を通して計画的に園小連携活動を充実させ、小１プロブレムの解消を図る。 ○幼児教育から小学校教育への円滑な接続を具現化するためのアプローチプログラム、小１スタートカリキュラムについて実践的研究の充実を図る。 ○保護者会と連携し、大宮学園「家庭の心得」の波及・各家庭での取組の充実を図る。	○園生活全てで「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成に努め、園教育・保育の充実を図ることができた。 △コロナ対応により、園小連携活動を縮小せざるを得ず、計画通り実施できなかった。 ○あらゆる機会を通じ、大宮学園「家庭の心得」の取組の充実に向け保護者会・家庭との連携を図ることができた。 △幼児教育から小学校教育への円滑な接続の実効性を高めるためのアプローチプログラム、指導方法の研究を充実させることができなかった。
教育課程	○健康・安全な生活に必要な習慣や態度を育成する。 ○身近な環境や自然に自ら関わる行動力、発見や考えたことを生活に取り入れる力を育成する。 ○自分の思いや考えを伝えたり、人の話を聞いたりする、豊かなコミュニケーション力を育成する。 ○園生活での身近な人と親しみ、関わりを深め、思いやる心、豊かな人間関係を結ぶ力を育成する。	○主体的な活動、体験活動を充実させる。 ・主体的な活動・体験活動をする中で、生活に必要な習慣や規律を自ら習得していくための健康・安全・生活指導の充実を図る。 ・楽しみながら体力づくり、友達づくりに取り組む力を育むために、体を目一杯使う運動・遊びの充実を図る。 ・園内外の自然・自然物へ主体的に働きかけ、発見や感動を体験させるための体験活動の充実を図る。 ○心の教育を充実させる。 ・思いやる心や自尊感情の育成を図るため、当番活動、飼育栽培活動、異年齢活動等、体験活動の充実を図る。 ・人権意識、豊かな感性を育むため、園生活の中で触れる悲しみ、喜び、温かさ等、人の心を豊かに感じる場面を共有する機会を大切にする指導の充実を図る。 ・園生活の全ての場面で、年齢相応に根気・持続力・抑制力等、学びに向かう基礎を養う指導の充実を図る。 ・折り合いを付ける力を育成するため、感情的な行き違いや自他の欲求の対立を経験する場面の指導の充実を図る。	○生活習慣・規律の習得のための主体的・体験的活動を工夫し、健康・安全・生活指導の充実を図ることができた。 ○同年齢・異年齢で泥んこ遊び、自然物での制作、色水遊び、サーキット、築山すべり、縄跳び等を取り組み、楽しみながら体力や友達をつくる力を育むことができた。 ○可能な限り園外活動に取り組み、自ら自然に働きかけ、発見や感動を体験する活動を充実させることができた。 ○子どものアイデアを大切にした各活動を工夫し、思いやる心や自尊感情の育成を図ることができた。 ○日常の園生活や行事等を通して、触れる喜び、悲しみ、温かさ等、人の心を感じる場面を共有する機会を大切に扱い、人権意識や豊かな感性の醸成を図ることができた。 ○遊び、活動等を通して、年齢相応に学びに向かう基盤となる力の育成を図ることができた。 ○感情的な行き違いや欲求の対立場面を丁寧に扱い、振り返り指導・話し合い指導を充実させ、コミュニケーション力、折り合いを付ける力の育成を図ることができた。

教育課程		○生きる力の基礎基本を育む教育活動を充実させる。 ・衛生指導、食育指導、園内事故防止指導、交通安全指導等、自分の命を守る指導・教育活動の充実を図る。 ・豊かなコミュニケーション力を育むため、読み聞かせや絵本等言葉の表現を楽しむ場面、保育者の指示・教えを聞く場面、友達の思いや考えを聞く場面、自分の思いを伝える場面、話し合い活動等、全ての園生活を通して言葉を介した教育活動の充実を図る。 ○身近な人や地域との関わりを充実させる。 ・思いやる心や豊かな人間関係を結ぶ力を育むために、異年齢活動の充実、地域連携活動の充実、所園・園小連携活動の充実を図る。	○きめ細かな日常指導、感染予防指導、行事(クッキング)により、衛生・園内事故防止・食育・交通安全・自分の命を守る実践的態度の向上を図ることができた。 ○表現を楽しむ場面、保育者・友達の話を聞く場面、思いを伝える場面、話し合い活動等、言葉を介した教育活動を充実させ、表現力の育成を図ることができた。 ○園生活・行事等で、コロナ対応を図り、異年齢活動を工夫することにより、思いやる心や豊かな人間関係を結ぶ力の育成を図ることができた。 △コロナ対応により、地域のボランティアとの地域連携活動や所園・園小連携活動を縮小せざるを得ず、計画通り実施できなかった。
子育て支援	○発達年齢に応じた家庭教育指標について、計画的に発信し、家庭教育支援を充実させる。 ○保護者の子育て不安や悩みに寄り添い、安心して子育てができるように、子育て支援を充実させる。 ○社会環境や家庭環境の変化に対応するための預かり保育を充実させる。	○各家庭へ「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の５領域に関わる家庭教育指標を、園・担任より「たより」「子育て相談」「懇談会」「保護者会」等を通して発信し、年齢相応の生きる力の育成を図るための家庭教育支援を充実させ、家庭の教育力の向上を図る。 ○日常的な子育て相談の場、親子体験活動や保護者同士の交流の場を工夫し、子育て支援を充実させる。 ○発達特性、個々成長課題等に関わり、個に応じた、丁寧な子育て支援の充実を図る。 ○子育て支援センターや一時預かり制度の周知を図る。	○子育て支援の充実や家庭の教育力向上を目指して、家庭教育指標について「園・クラスたより」「園ＨＰ」「子育て相談」等により発信や連携の充実を図ることができた。 △コロナ対応により、「懇談会」「保護者会」「園庭開放」「親子体験活動」等、子育て支援のための取組が計画通り実施できなかった。 ○個別支援課題に対し、個に応じた子育て相談を充実させることができた。 △コロナ対応行事縮減、バス通所、多様な降園時刻対応による保護者との直接会話機会の減少により、日常的な即時即応した効果的な連携による子育て支援を充実させることができなかった。
家庭・地域との連携	○園・家庭・地域との連携の仕組みを整え、充実させる。 ○地域の環境・人材を活用し、子ども達の豊かな体験活動を充実させる。	○大宮こども園の特色ある保護者会活動を充実させ、さらに園と家庭・保護者同士の連携を密にし、子ども達への教育効果、家庭の教育力を高めていくための組織運営・活動の充実を図る。 ○大宮こども園ならではの園周辺自然環境・施設を活用した園外教育活動の充実、地域ボランティアの活用による園内教育活動の充実を図る。 ○園だより・クラスだより・園ＨＰ・電話による家庭連絡・懇談会・参観等、園からの丁寧な発信や連携の工夫を行い、効率的・効果的に家庭・地域との連携の充実を図る。	○コロナ対応を図りながら、園と家庭、保護者同士の連携を密にし、子どもたちへの教育効果、家庭の教育力を高めていくための保護者会組織運営・活動の充実を図るため、可能な限りの連携・支援を行うことができた。 △コロナ対応により、大宮こども園ならではの周辺環境（田んぼ・農道・畑等）・施設（マスターズビレッジ・神社等）を活用した園外教育活動・地域連携活動、地域ボランティアの活用による園内教育活動を縮小せざるを得ず、計画通り実施できなかった。 ○ドキュメンテーション等、丁寧な園発信により、「大宮こども園」の教育活動への理解を広げ、家庭・地域との園教育・子育て支援の連携の充実を図ることができた。
次年度に向けた改善の方向性	○言葉を介した教育活動を充実させ、大宮学園で進める基盤となる、「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を図る。 ○園小の円滑な接続の実効性を高めるため、アプローチプログラム改善、園小連携活動・指導方法に係る共同研修の充実を図る。 ○心豊かでたくましく、生き生きと遊ぶ子どもを育成するための日常の教育活動・異年齢活動・体験活動の充実を図る。 ○コロナ対応により縮小した園外教育活動・地域連携活動、保幼小中一貫教育活動、保護者連携活動、子育て支援等、教育活動、子育て支援の充実を図る。 ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、５領域について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意して指導を充実させ、幼児教育・保育で育みたい３つの資質・能力を育成するため、計画的に理論研修・事例研修・実践研修を充実させ、指導力の向上、教育活動の充実を図る。		

（別紙様式２）

令和２年度　学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔　京丹後市立網野こども園　〕

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
○園児自らが主体的に環境に関わり、心豊かでたくましく生きる力を育てる。 ・明るく元気で主体的に活動する子どもの育成 ・みんななかよく思いやりのある子どもの育成 ・伸び伸び生き生きやりぬく子どもの育成 <テーマ> 『どきどき　わくわく　きらっ！ ひとりひとりがかがやいて』	・エピソード研修や映像研修等を通し、園児の姿を捉えた保育の在り方、支援を要する園児に対する関わり方等、具体的な事例に基づいた協議を重ねたことで、安心安定した環境づくりにつながった。今後は園内の接続にも反映させたい。 ・協同的な活動や遊びを進めることで、各年齢や異年齢のつながりが深まり、徐々に個々の力や集団としてのよさが見られるようになってきた。 ・言葉による伝え合いがしにくい園児にとっては、友達のよさをスムーズに受け止めることが難しいようだったが、保育教諭等が仲介したり代弁したりすることで、友達とつながることへの喜びを感じられるようになった。 ・地域の人と触れ合い、自然に関わり、街並みを散策する等の活動を取り入れたことで、あらためて網野のよさを発見したり再確認したりすることができた。 ・駐車場での交通安全については特に、管理職が立哨したり啓発したりして事故のないよう努めたが、日にちが経つと保護者も園児も意識が低くなったので、繰り返し伝えていくことが必要だった。	・園児を取り巻く生活環境や健康について保護者との連携のもと実態を把握し、個に応じた関わり方を考察するとともに、遊びの中の学びを見出しながら適切な環境の在り方を模索する。 ・友達と関わったり協同的な遊びや活動を繰り返したりする機会をもち、豊かな人間性の基礎を育てる。 ・主体的に環境に関わりながら友達と一緒に様々な遊びや活動をする場を保証し、豊かな感性や言葉力を養う。 ・地域の自然や文化に触れる機会を設け、生活体験や社会体験を豊かにする。 ・常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の推進 （保幼小接続）	・「網野学園」のめざす子ども像をもとに、学園の基本方針を理解しながら取組みを進める。 （規範意識の醸成・確かな学力の育成・豊かな人間性等） ・園児と児童の交流の機会や保育教諭と教師の研修の場を重視し、相互理解を深める。	・リーフレットを活用したり、小中一貫教育に関する会議や研修等に積極的に参加したりして、全職員で共通理解する。 ・アプローチプログラムを活用して日々の保育実践を検討し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や３つの資質能力とつなげて捉え、検証していく。 ・運動会やマラソン大会、学習発表会等の学校行事を見学させてもらったり、園行事にも参加依頼をしたりする等して、交流が深まるようにする。	○経営会議での保幼小中の縦の連携を管理職間で共通理解を行い、職員に報告の上、話し合いや研修を重ねることができた。 ○新型コロナウイルス感染防止策を講じて開催された研修会は、状況に合わせて参加人数を控えたが、参加した職員より復命を行い学び合った。 △全職員で各年齢の保育を通して、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を意識していったが、検証するまでには至らなかった。 △新型コロナウイルス感染防止のため、園行事への交流や参観等依頼できないことが多く、また学校行事に参加することも少なかったので、小学生との交流を深めることができなかった。

教育課程	どきどき　わくわく　きらっ！ ひとりひとりがかがやいて ～仲間とつながり 夢中になって遊ぶ子どもを めざして～ ・楽しい園生活を過ごせるようにする。 ・主体的、対話的な活動をくり広げられるような環境づくりをする。 ・人とつながり合うことの喜びを味わえるようにする。	・一人一人の園児と心をつなぎ、安心安定できる園生活を創造する。 ・自らが健康や生活に関心をもち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 ・園児が主体的に協同的な遊びを展開するような直接体験の場や思考をくぐらせながら遊ぶ機会を大切にする。 ・集団でなければできないこと、大勢ですると楽しいことに気付かせ、周りの友達や人に関心をもたせる。 ・友達のよさや友達と一緒に過ごす心地よさを感じながら、人とつながることの喜びを味わえるようにする。	○保育教諭等との信頼関係のもと、園児は安定した園生活を過ごすことができた。 △家庭との連携を密にしながら生活習慣の大切さを伝えてはきたが、引き続きの啓発が必要である。 ○運動会や発表会に向かう活動や事後活動を通して、友達とやり取りをしながら共通の目的に向かって考えたり工夫したりする力が育ち、個人差はあるものの、一人一人の成長が見られた。 ○コロナ対策を行いながら、同学年、異年齢での関わりやつながりがもてる活動を進めてきたことで、園児の中には、主体的に生活や活動を進めようとする姿が見られ、次年度につながる刺激があった。
子育て支援	・園だより、クラスだより、懇談会等で保護者に園児の様子を知らせ、家庭と連携し、「共育て」を目指す。 ・園開放により、未就園の親子の保育体験を行い、子育ての安心安定を図る。	・クラスや個人の懇談会をもち、子育てに関することを共に考えたり振り返ったりする場とする。 ・保護者の何気ない話や相談に耳を傾け、一緒に課題解決に向けて進めていく。 ・「園開放日」や「園庭開放日」を設け、園児だけでなく保護者同士も交流したり、楽しく遊んだりできるような雰囲気や場を設定する。	○全クラスの懇談会や個人面談等、日と時間を考慮して開催したところ、多くの参加があった。園や家庭での様子を伝え合ったり保護者の悩みを共有し話し合えたりしたことで、それぞれに合った教育・保育を進めることができた。 △園開放では、室内で３密を避ける等のコロナ対策を講じながら、園児や保護者同士の交流の場を設けることが難しかった。
(A)研修（教員の資質向上）	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解に努め、保育教諭等の資質向上を目指し、園内研修の充実を図る。 ・「主体的で対話的な深い学び」を実現する保育を推進する。	・エピソード研修やワークショップ等の園内研修を通して重点研究の検証をしたり、園内や小学校への接続について意識した実践につながるよう協議をしたりする。 ・月案、週案の立案やその反省の中で、日々の具体的な実践例をあげながら、環境構成や保育教諭等の援助の在り方等を共通理解する。（PDCA サイクルの重視）	○園内研修の機会は少なかったが、ＯＪＴを大切にするスタンスで資質向上に努めた。 △立案や反省をする際は、できるだけ園経営に係わって管理職の思いや方向性を会計年度任用職員も含めた全職員に伝え、教育・保育実践の成果や課題が見出せるように行ってきたが、０歳児から５歳児の縦の連携まで深めていくことができなかった。
次年度に向けた改善の方向性	・本園の教育保育計画を見直すとともに、市や学園で掲げている教育方針等を園児や保護者の実態に合わせながら具体的に読み取り、実践につながるような研修を継続的に進める。 ・アプローチプログラムの読み取りと検証をして、どの保育教諭等も遊びの中の学びを意識しながら「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や３つの資質能力との関連性が把握できるようにする。		

（別紙様式２）

令和２年度　学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔　京丹後市立丹後こども園　〕

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
○心豊かに思いやりのある、優しさあふれる園児を育成する。 ○心も体もたくましく、意欲的に挑戦しながら生き生きと遊ぶ園児を育成する。 ○自分で考えて行動する園児を育成する。 ○言葉を介してのコミュニケーション力を育成する。	・年間を通して、年齢や発達に合わせた運動遊びを取り入れ意欲的に取り組む園児の姿を大切にし、保育教諭は寄り添い援助を行った。運動遊びを通して、繰り返し挑戦する粘り強さ、達成感を味わい自信につなげることができた。 ・丹後学園内で保幼小連携を深め、なかよし交流会の内容充実を図ったことにより、就学前の５歳児がより小学校入学に期待をもつことができた。 ・園内公開保育は計画より少なくなったが、保育実践交流を多く行った。そのなかで主体的な遊び、環境構成について研究を進めることで、園児が興味のある遊びを選択して楽しめた。	・異年齢交流を通して、人と人とのつながり、いたわりや優しさ、思いやりの心を育む。 ・人の言葉や話を聞いたり経験したことや思いを自分の言葉で表現したりするなど言葉力やコミュニケーション能力を育む。 ・丹後学園の保育所、小中学校と連携を深め、園児の発達や学びの連続性を考慮した教育・保育に努める。 ・地域に根ざした園づくりや、たくましく健やかな心と体をもった園児を育む。 ・職員一人一人が自己の職務、役割に意欲や責任をもち、資質向上に努める。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の推進 （保幼小接続）	・丹後学園の教育目標を踏まえ学園の基本方針に基づき、取組みを進める。 ・保幼小中の連携を密にし、スムーズな接続を図る。	・『丹後学園』小中一貫教育に関する諸会議や公開授業等に参加し内容を全職員で確認する。 ・夏季研修会（接続部）では、保育参観や指導実践交流を行い、発達の段階や特性に即した効果的な指導方法及び指導の連続性・一貫性について研修する。 ・保幼小連絡会を設け、参観・懇談をする中で園児について情報共有し、就学に向けてスムーズな接続につなげる。 ・学校行事を見学や参加する等小学校との交流により園児の就学に対する意欲や憧れをもたせる。 ・丹後中学校と合同避難訓練を行い、緊急時に命を守る行動を知る。	△新型コロナウイルス感染対策の観点から研修や参観などが延期や中止となった為、丹後学園内の事業は計画通りには出来なかった。 ○実施できた研修や会議については、園内で報告や研修資料を配布するなどして学んだ。 ○保幼小接続部会で小学校の生活科のねらいや教科内容などを研修した。保幼小の職員間で共に学び合うことで、幼児教育から小学校へのつながる部分など、園児含め職員の学びの場となった。 △緊急時の行動の仕方について、中学生のサポートで行う予定の訓練は、コロナ感染症防止対策の観点から、行うことができなかった。

教育課程	・心身ともにたくましく、創造的、意欲的に遊ぶ園児を育てる。 ・遊びを通していたわりや優しさ、思いやりの心を育む。 ・人の話を聞く、自分の思いを伝えることができる力を養う。 ・自分から進んで挨拶や返事ができるような環境をつくる。	・体を使った遊びを積極的に取り入れる。 （体操・リズム運動・散歩・なわとび・竹馬・固定遊具等） ・小動物の飼育、栽培物の世話を一緒に行う。 ・異年齢活動を通して異年齢児へのいたわりの気持ちをもったり、年長児に対して憧れの気持ちをもったりできる環境設定を考える。 （チーム活動、クッキング、運動会に向けての活動等） ・絵本や物語などに親しむことで、言葉の力を豊かにする。 ・園児の話にしっかりと耳を傾け、生活や活動を進める。	○フィジカルディスタンスを考えながら園生活を過ごした。生活の仕方や活動内容はその都度職員間で精査するよい機会であった。 ○園児が興味をもって体を使った遊びができるよう環境を整え、それぞれの年齢で活動を進めることができた。 △異年齢活動は、コロナウイルス感染症予防のため各学年の活動や自由遊びの中で見て真似ることを中心に環境の工夫をしてきた。 ○コロナ禍で生活様式が一遍している中、園児が安心安定の中で生活できることを最重要と考え、丁寧な関わりと園児の話を十分聞き、気持ちに寄り添うことを心掛けた。
子育て支援	・保護者や未就園児の保護者のコミュニケーションの場をつくり、子育ての安定を図る。 ・支援を要する園児に対しての支援策を園全体で考える。	・懇談会など、保護者同士が子育ての悩みなどを出し合える場をつくる。 ・子育て支援センターや園開放、園庭開放により未就園児との交流をもつ。 ・子育て講演会への参加を呼びかける。 ・預かり保育、一時預かり保育制度を活用し、子育てに疲れや悩みを抱えている保護者支援を行う。 ・支援を要する園児に対して保護者や保健師、他機関とも連携を取り、園全体で支援していく。	△懇談会や子育て講演会等はコロナ感染症対策を考え実施しなかったので、保護者同士が集い子育てについて話し合える場がなかった。 ○園開放の日は、園庭で園児が遊ぶ姿を見てもらったり、保育室を未就園児に開放して遊んでもらうなど、園生活を知ってもらったり、遊びの体験をしてもらうことができた。 ○市保健師と連携を密にもち、園児の様子を見てもらったり相談にのってもらったりして他機関に繋がることができ、園児が落ち着いて生活できるケースが見られた。 ○園児の兄弟を含め家庭環境を見守るため、家庭子ども相談室や学園内で連携をもつことができた。
研修	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき保育にあたる保育教諭の資質向上のために園内研修を図る。	・様々な研修に多くの職員が積極的に参加できるよう勤務体制を工夫する。 ・園内研修を行い、園児一人一人の特性や発達に即した指導が行なえるよう学び合う。 （公開保育や実践交流）	○様々な研修がコロナ感染症対策のため、Web 研修や DVD 研修など勤務園内で受講できたことは、時間が有効に使えたり、多くの職員が共に学んだりすることができた。 ○他園の実践報告を受け、園内で学び合う中で、環境や園児理解について多角的に捉えることができた。
次年度に向けた改善の方向性	・園児一人一人が安心安定できる環境を整え、意欲的に遊ぶ園児を育成したい。 ・感染対策を工夫しながら異年齢活動を充実していきたい。 ・地域の方との交流の中で、自然に触れたり地域の伝説や言い伝え、歴史跡を見たりして、豊かな心と健康な体を育んでいきたい。		

（別紙様式２）

令和2年度　学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔　京丹後市立弥栄こども園　〕

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
「みんな　だいすき　つながるえがお」 ～やってみたい！明日もやりたい！夢中になって遊ぶこどもをめざして～ ・さまざまなことに心を動かし、心豊かな子どもを育てる。 ・生活に必要な習慣・態度を身につけ、健康な心と体を育てる。 ・身近な人や地域とのかかわりをもつ力を育てる。	○異年齢活動や異年齢交流を行う中で、豊かな人間関係を結ぶ力を育むことができた。 ○主体的に活動し、様々な体験活動を楽しみながら、体力づくりや生きる基礎を培うことができた。 ○学園の中で公開保育・事後研究をすることで、幼小中で教育について共通理解することができた。 △生活習慣が乱れている子どもが多く、生活点検表を取り入れ、保護者に意識してもらうよう試みたが、改善が見られなかった。 △地域との関わりが少なく、また保護者にも十分に園の活動の様子が伝わっていない。	・子ども自らが様々な人や自然とかかわり、また、体を十分に動かして遊ぶ中で、心を揺り動かされるような体験をし、豊かな感性を養う。 ・自らの健康や生活に関心をもち、生活習慣の基礎を培う。 ・人との関係を築く力をつけるために、あいさつや自分のことは自分でする力を育てる。 ・弥栄学園（保幼小中一貫教育）の連携を図り、円滑な接続ができるよう交流や研修を進める。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の推進 （保幼小接続）	○『弥栄学園』の連携 故郷を愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもの児童生徒の育成 ・自分からやってみたいという意欲をもって取り組む子ども（知） ・思いやりのある子ども（徳） ・進んで体を鍛える子ども（体）	・学園経営会議に出席し、子どもたちの実態から課題点を見つけ共通の目標をもつ。 ・中学校との連携（参観） ・小学校との連携（参観・事後研究会・体験入学・１年生との交流・スタートカリキュラム・アプローチプログラム見直し） ・園・小・中の教職員合同研修会	○授業研究会に園から参加することができたので、系統的な視点をもって、教育・保育を進められるようになった。 ○毎月の経営会議では、家庭の様子を含めた子どもの実態を把握することができ、学園内で連携や対応をすることができた。 △小学校との連携では、１年生と５歳児は楽しい交流となったが、それぞれのカリキュラムを通してお互いが学び合える研修まで進めることができなかった。
教育課程	○園児自らが周囲の環境に関わり、活動を展開する充実感を味わいながら発達に必要な経験を積み重ねていく。 ○園児を取り巻く生活習慣や健康について実態を把握し、基本的生活習慣や態度を育てる。	・園内外の自然の中で五感を通して遊ぶ。 （園内）砂、泥遊び、プール遊び、園内の草花、クッキング活動、虫捕り、小動物の飼育、菜園 （園外）丹後王国・弥栄運動公園などへの散歩 ・自然や自然物を取り込んで遊ぶ。 （草花・砂・水・泥・木の実・木の葉・雨・雪など） ・自らの健康や生活に関心をもち、リズムある生活が習慣になることを意識できるようにする。 （生活点検表・登園時間・感染症の予防）	○コロナウイルス感染症対策の中、３密にならないように子ども達がのびのびと遊びを展開できるようなコーナー遊びをすることで、登園時間が早くなり園での活動に期待をもつ子どもが増えた。 ○行事や遊びを見直すことで、子ども達が遊びを考え、主体的に活動する姿が見られるようになってきた。 ○生活点検表を毎日つけることで、意欲的に生活する子どもが増えた。また、手洗いやうがいを丁寧にすることでいろいろな感染症を防ぐことができた。

教育課程	○自分の思いや考えを様々な方法で表現し、行動できる力を養う。	・体を動かし指先を使い、体と心のバランスがとれた体力づくりをする。 ・異年齢活動 ・読み聞かせ ・グループ活動や当番活動 ・ルールのある遊び	○自分の思いを言葉だけでなく、絵画や粘土、制作など様々な技法で表現する機会をもつことで、子ども達の表現の幅が広がった。 ○ボランティアによる読み聞かせでは、いつもと違った雰囲気の中で物語に触れることができた。 △コロナ感染予防のため、3.4.5 歳児全員で行う交流ができず、活動の準備や片付け・関わりやお手伝いなどの経験が少なかった。 ○２学年での交流や活動を進めることで、思いやりやあこがれの気持ちをもたせることができた。また、遊びを充実させたことで自然に遊びの中で異年齢の交流をすることができた。
子育て支援	○家庭での子育ての不安に寄り添い、楽しく子育てができるように支援する。	・子育て相談・懇談会 ・園開放（月２回） ・園庭開放 ・預かり保育 ・支援センターの利用 ・一時預かり制度の利用 ・ホームページ、各種たより、参観などで子どもの成長を伝える。	△園開放・園庭開放において子育て相談を受け付けていたが、コロナウイルス感染症予防対策のため中止にすることが多かった。 ○支援センターを開設することで、利用者の気分転換になったり、様々な相談にのったりすることで、楽しく子育てができるよう支援することができた。 ○全員参加の行事を見直し、学年ごとに進めてきたことで、保護者にゆっくりと自分の子どもや同年齢の子どもの成長をみてもらうことができた。 ○クラス懇談会や毎月クラスだよりを発行することで、子どもの活動や遊びの様子を知らせることができた。
家庭・地域との連携	○人とのかかわりの中で生きる力を育む。 ○あいさつや自分のことは自分でする力を育てる。	・登園時間を９時までとし、集団で行動することの大切さや楽しさを知る。 ・社会人講師を迎えて様々な体験をする。 （読み聞かせ・お茶会・防災訓練・交通教室など） ・高齢者・地域との交流 （祖父母参観・地域への散策）	△園生活や遊びが十分楽しめるように９時までの登園を伝えているが、家庭の生活リズムの捉えの違いから登園が遅く、活動や友達との遊びにスムーズに入れない子どももいる。 ○地域の方と直接の交流はできなかったが、作品展を地域公民館で開催したことで、園の活動を知ってもらうことができた。
次年度に向けた改善の方向性	○弥栄学園の目指す子ども像の育成に努め、お互いを深く知りつながりのある教育活動を充実させていけるようにする。 ○地域の行事に参加したり、園にきてもらう機会をつくったりして、地域に根ざした教育・保育を実践できるようにする。 ○認定こども園教育・保育要領に基づき、一人一人の育ちに合わせた援助・支援の充実・環境構成をしていく。		

（別紙様式２）

令和２年度　学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔　京丹後市立かぶと山こども園　〕

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
こども園教育・保育目標 「元気な体と豊かな心、生きる力をもったたくましい子ども」 ≪元気　勇気　笑顔　つながれ仲間≫ ～いっぱい遊ぼう　育ち合おう～ 1　園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく生きる力を育てる。 2　人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3　相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。	○学園の保育所園合同で愛着に課題のある子どもの理解や関わり方について研修し、保育の中で非認知的能力を育てることが大切であることを学んだ。また、園内でも園児との愛着関係について職員研修や保護者研修をする機会を設け、園児が包み込まれている安心感の中で、のびのびと育っていく環境作りに努めた。 ○戸外活動を主とし、こども園近辺の自然の中で遊んだり散歩したりすることで全園児が健康な体作りに努めた。特に５歳児は、椅子に座って集中して話を聞く姿、物事に対して粘り強く取り組む姿、友達のよさを認め協同する姿が多く見られるようになり、心身の成長を感じた。 ○保護者がボランティアとして園児の体験活動に関わったり、「交通安全・挨拶運動」、「絵本の読み聞かせ活動」に関わったりすることが少人数ではあるが定着してきた。また、神野自治会サロンや田村ゆうゆうの里等、地域の方とも関わる機会があった。さらに子どもを真ん中に地域ぐるみで全保護者が安心して「子育て」「親育ち」できる環境を目指したい。	○園児が安心して活動し、自己発揮できる環境や関わりを工夫し、自己肯定感や自己有用感を育む。 ○様々な体験や遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができる環境構成を工夫し、自分の思いや考えを言葉で表現できる力を育む。 ○特別な配慮を必要とする園児に対し、適切な支援が受けられるよう支援体制と支援システムを整え、保護者や関係機関、小学校との連携に努める。 ○学園及びこども園の『目指す子ども像』『教育目標』に向かい、職員のチーム力をあげ、保育の質の向上と連携に努める。 ○地域と連携して子育て支援と家庭教育力向上を目指し努力する。 ○事故や感染症の発生を防止したり、災害に備えて訓練したりする等、全職員が危機管理意識をもち、安全・安心な環境と保育に努める。

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中一貫教育の推進（保幼小接続）	○『久美浜学園」の『教育目標』 「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成」『目指す子ども像』に向けて教育内容の相互理解を深め、一貫性のある指導を行う。 ○保育所園小学校と連携し、学園テーマ＜主体的・対話的で深い学びの実現を意識した「言語活動の充実」＞を追求し、自ら考えを深める子どもを育成する。	(1)久美浜学園を通して子どもの実態を交流し、共通の『目指す子ども像』や『教育目標』に向けて一貫性のある指導をしていく。 (2)小学生や中学生との交流を行う。 (3)小学校との連携・運動会見学・授業体験・プール体験・学習発表会見学・マラソン大会応援・園外保育　等 (4)保幼小の連携・合同研修会・交流・アプローチプログラムとスタートカリキュラムの評価と改善・入学までにつけたい力と入学後に継続したい取組みの明確化・学力向 （保幼から低学年に向けての言葉の力の育成）の授業と事業　等	○毎月の「久美浜学園経営会議」の中で園児や小中学生の実態を交流し、『目指す子ども像』に向けてどんな指導や支援をしていくのがよいのか考えていくことができた。特にかぶと山小学校とは、管理職間で連携をとり、情報交流する中で保護者への子育てアドバイスができた。 ○園児と小学生が直接交流することはできなかったが、２年生が『小学校のひみつ』という紹介本を作成し、プレゼントしてくれたことで、園児も職員も小学校について身近に感じることができた。 ○5歳児交流会では、コロナ禍でも園所の５歳児が一緒にかぶと山登山し、ふるさとに触れる機会ができたことは良かった。 ○保幼の連携は、初任者保育教諭の公開保育を園所との合同研修の機会とし、質の向上に努めることができた。

教育課程	○主体的・協同的に活動する力を育てる。 ○自己肯定感を育む。 ○自分の思いや考えを表現し、人と関わる力を養う。 ○自らの健康やリズムある生活に関心を持ち、基本的生活習慣や態度を身につける。 ○人権尊重・規範意識や道徳性・社会性の芽生えを培う。	(1)様々な体験や人との出会いの機会を設定する。 ・自然の中で、五感を豊かにする。 ・様々な行事参加や体験活動をする。 ・園児が遊びや生活の中で主体となるような環境構成を工夫する。 ・異年齢交流をする。 (2)感動体験をする機会や言葉で思いを伝え合う機会を設定する。 (3)挨拶を奨励する。 (4)絵本や物語に親しむ機会を設定する。 (5)自立心を育てるような機会を設定する。	○全年齢児に「健康な心と体」作りをねらいとする活動として、こども園近辺の自然の中で遊びや散歩などを取り入れた。こども園裏山では、崖登りや木登り等、思う存分に体を動かして遊ぶことができるので、心も体も解放してのびのびと遊びこむことができた。 △落ち着いて話を聞いたり、集中して取り組んだりすることができるようになるために全身を使った遊びや体幹を鍛えられるような環境を園児とともに整えてきたが、サポートの必要な園児がいる。 ○学園の取組みである「家庭学習がんばり表」を通して、園児自らが「早寝」「テレビやゲームの時間」「絵本の読み聞かせ」を意識するようになってきている。
子育て支援	○保護者の気持ちに寄り添い、安心して子育てができるように支援すると共に保護者が子どもの成長に気付き子育ての喜びを感じられるようにする。 ○家庭の教育力向上を図る。	(1)こども園でおしゃべり会・子育て相談（随時・毎月） (2)園開放・園庭開放 (3)預かり保育、一時預かり保育の活用 (4)支援センターの利用 (5)子育て講演会 (6)懇談会・保育参観・給食参観 (7)誕生児と保護者への紙芝居や絵本の貸し出し　等	○職員が話しやすく相談しやすい温かい雰囲気作りを心掛け、子育ての応援者になれるよう努めてきた。こども園でおしゃべり会を通して保護者と話す機会を設け、子育ての相談を受けたり園での子どもの様子を伝えたりし、信頼関係の構築に努めた。その中で子育てに一生懸命に向かう保護者、参観マナーの良い保護者が増えてきた。保護者会役員も全員が立候補で決まり、保護者の主体性が育ってきている。 ○園の連絡事項や持ち物の整理・準備物など個々の状況に合わせて、丁寧な対応に心掛けたので園児の行動が意欲的になってきている。
危機管理	○事故や感染症の発生を防止する。 ○全職員が危機管理意識をもち、安全・安心な環境と保育に努める。 ○園児が自ら危険回避するための安全教育を行う。	(1)全職員が危機管理マニュアルを熟読し、朝礼でのアレルギー除去食報告や誤食防止の確認、終礼でのヒヤリハット報告等、研修する場の設定を行ったりする。 (2)安全点検（遊具・用具・施設・設備　等） (3)保護者へたより等で周知・協力 (4)避難訓練・防災教室・交通安全教室・健康に関する話 （衛生・生活習慣・食事・感染予防・遊具の使い方　等）	△園と家庭と一緒に危機管理意識を高めるために、本園の防犯・防災教育を年度初めに伝えることができていなかった。 ○朝礼や終礼でヒヤリハットの状況報告を行い、職員で危険を回避する対策を考え、安全について見直してきた。 △再発防止・未然防止に活かすことができるように日々の点検や確認が必要である。 ○保護者に安心してもらえるように再度安全管理や危機管理などを見直した。たよりで避難経路や避難場所などを伝え、連携を持つことができた。
次年度に向けた改善の方向性	・コロナ禍での保護者や地域を巻き込んだ体験活動はどんなものがあるのか探り、保育の工夫を重ねていく。 ・危機管理については、再度、全職員で安心安全な施設で保育ができるよう常日頃から意識を向上させていくとともに、園児自身が身を守る意識を向上させる安全教育を行っていく。		